

家庭教育をめぐる現状と課題

－データ集－

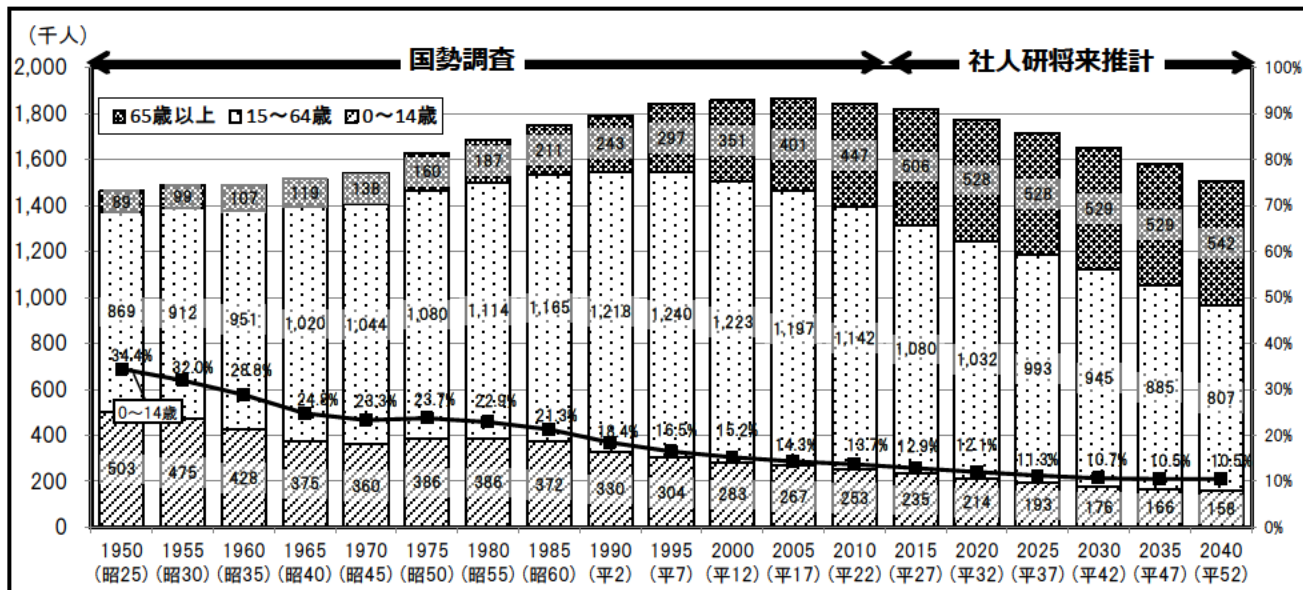
1	家庭をめぐる社会情勢の変化	2
1-1	人口減少・少子高齢化	2
1-2	世帯構造の変容	3
1-3	グローバル化	5
1-4	長時間労働	6
1-5	雇用形態の多様化	8
1-6	地域コミュニティの希薄化	9
1-7	NPOの増加	15
2	家庭の状況	17
2-1	共働き家庭の増加	17
2-2	ひとり親家庭の増加	18
2-3	子どもの貧困、児童虐待等	20
2-4	保護者の悩みや意識	23
3	子どもの育ちをめぐる状況	27
3-1	生活習慣	27
3-2	学習習慣	30
3-3	運動習慣	33
3-4	読書習慣	38
3-5	規範意識・道徳心・自尊感情	40
3-6	体験活動	43
3-7	地域との関わり	47
3-8	今の子どもの特徴	49

1 家庭をめぐる社会情勢の変化

1-1 人口減少・少子高齢化

1-1-1 年齢階層別人口の推移（三重県）

- 本県の総人口は、いったんピークを迎えたあと減少に転じ、今後も減少することが見込まれている。年少人口（0～14歳）も年々減少し、2040年には、10.5%まで減少すると推計されている。

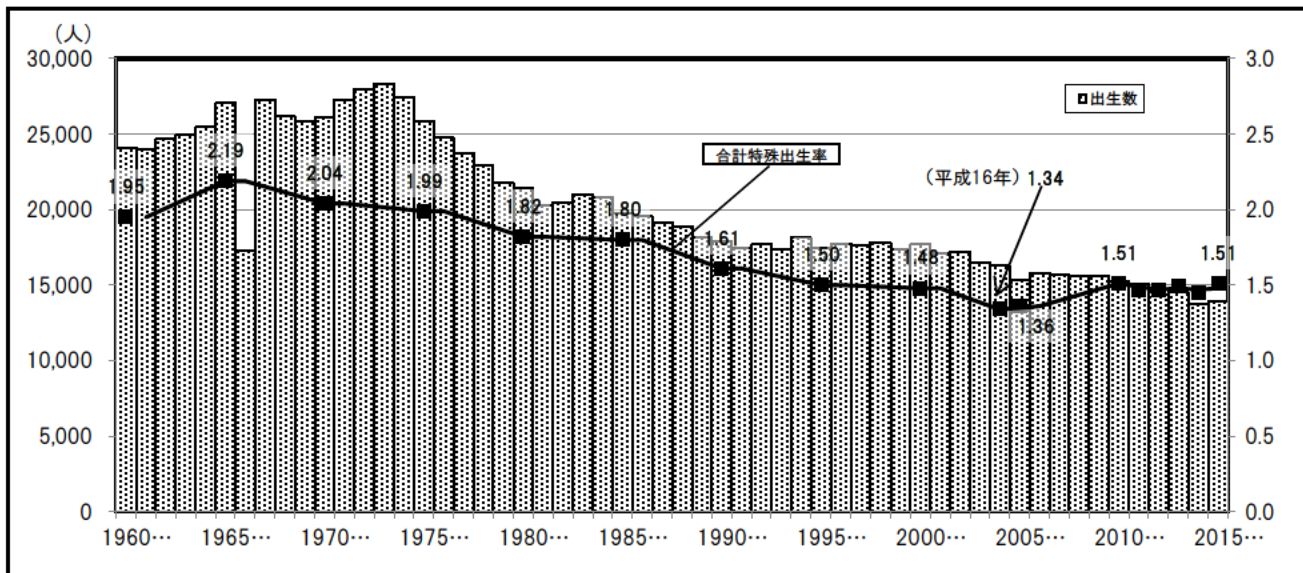


資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所（社人研）推計値より作成。

1-1-2 出生数と合計特殊出生率の推移（三重県）

- 合計特殊出生率は平成16年の1.34を底に回復傾向にある。出生数については、減少傾向が続いている。

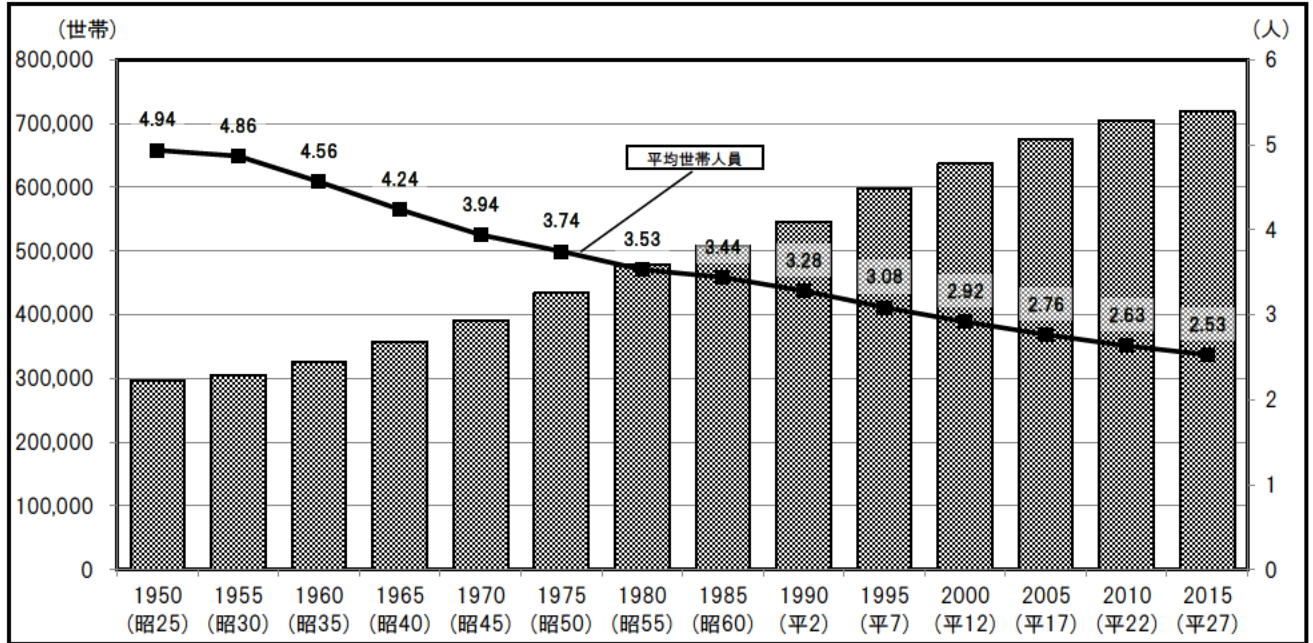
※合計特殊出生率…その年次の15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が、仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に子どもを生むと仮定したときの子どもの数に相当。



1-2 世帯構造の変容

1-2-1 世帯数と平均世帯人員の推移（三重県）

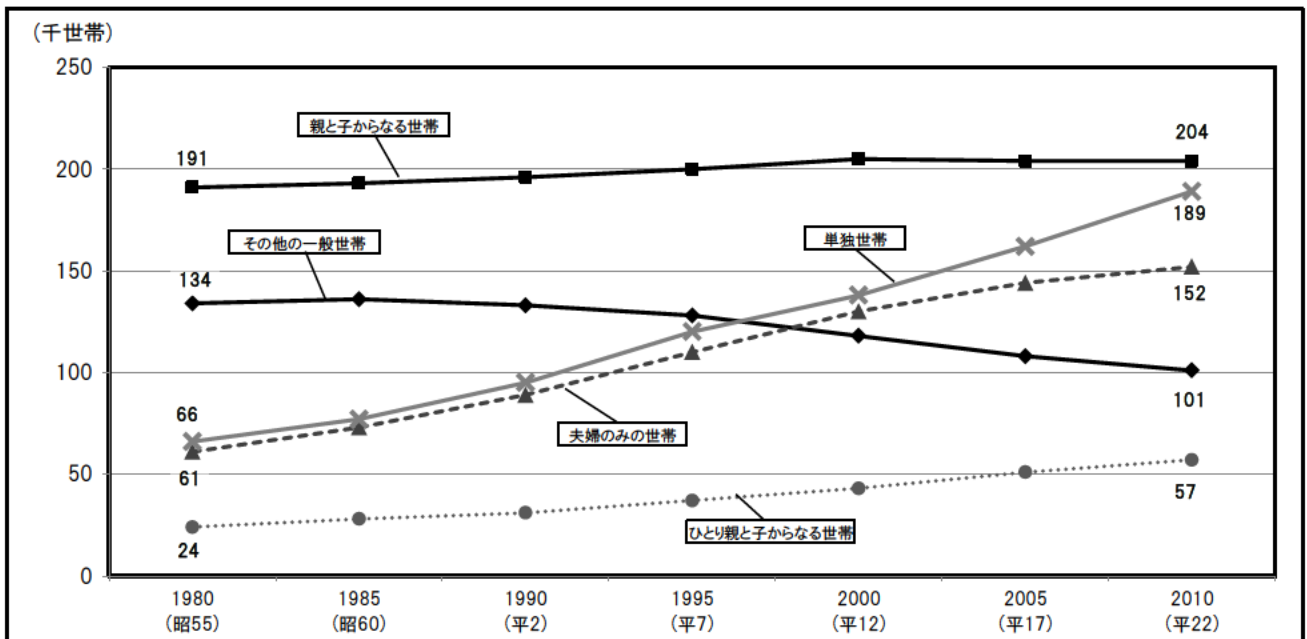
- 1世帯あたりの人数は、65年前から半減。



資料：総務省「国勢調査」 ※2015年(平成27年)の数値は速報値。

1-2-2 家族類型別一般世帯数の推移（三重県）

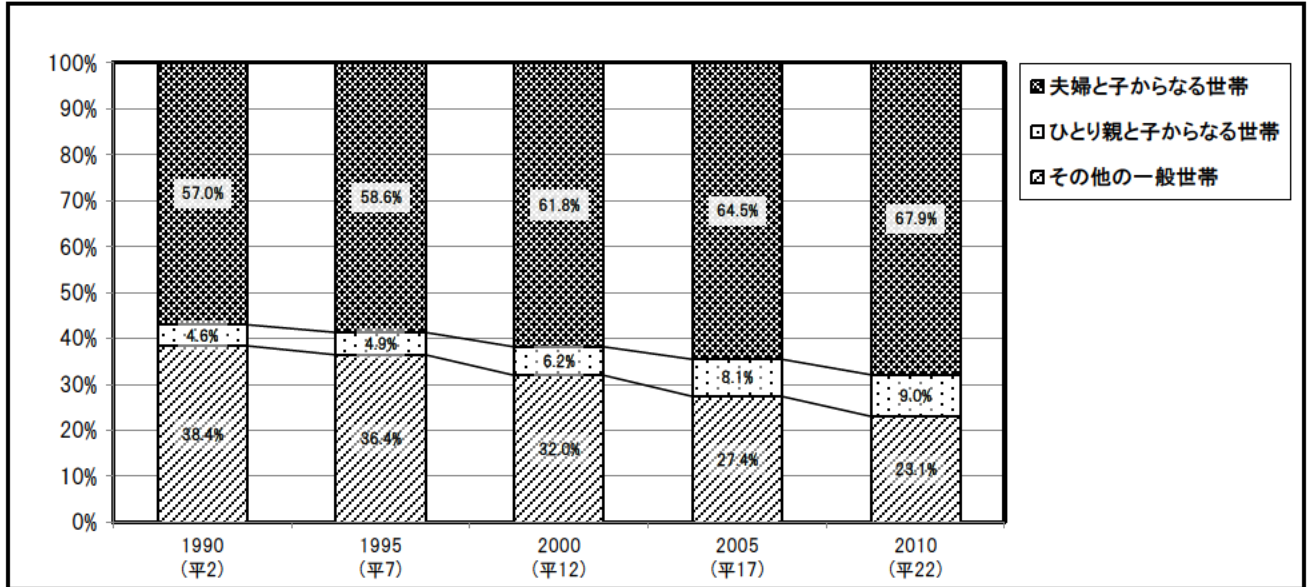
- 単独世帯と夫婦のみの世帯、ひとり親と子からなる世帯が増加している。



資料：総務省「国勢調査」

1-2-3 18歳未満の子どもがいる一般世帯の家族類型別世帯割合の推移（三重県）

- 核家族（「夫婦と子からなる世帯」＋「ひとり親と子からなる世帯」）の割合が増加し、三世代家族を含む「その他の一般世帯」の割合が低下。

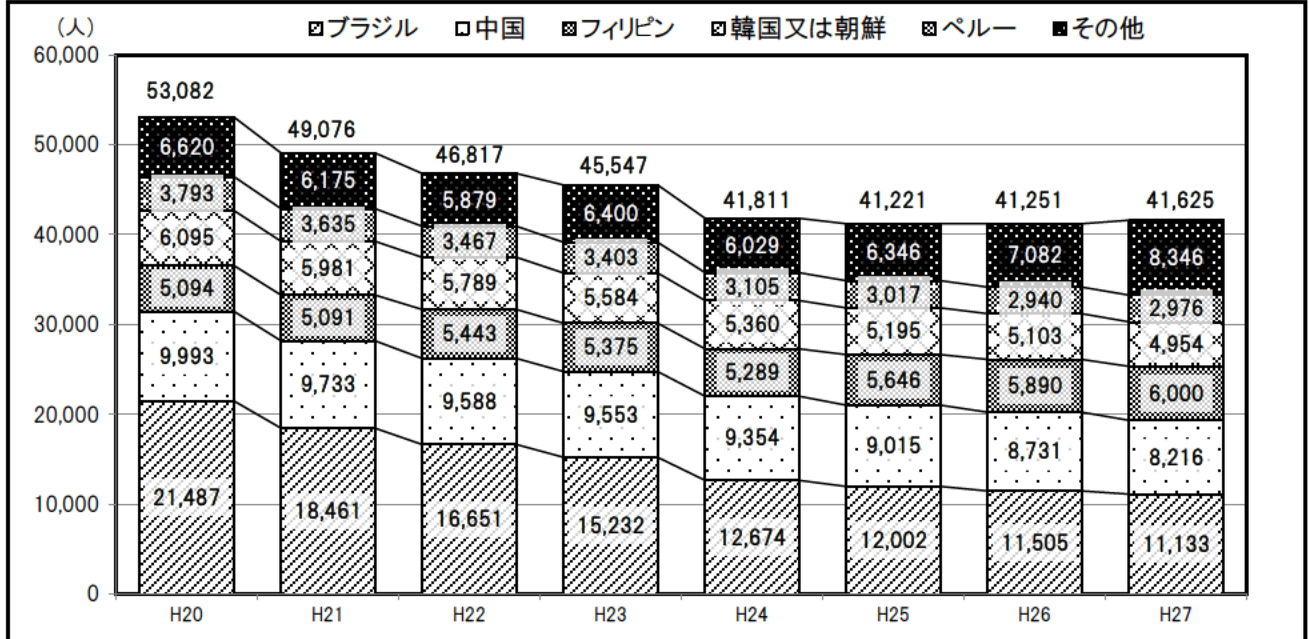


資料：総務省「国勢調査」

1-3 グローバル化

1-3-1 外国人住民数の推移（三重県）

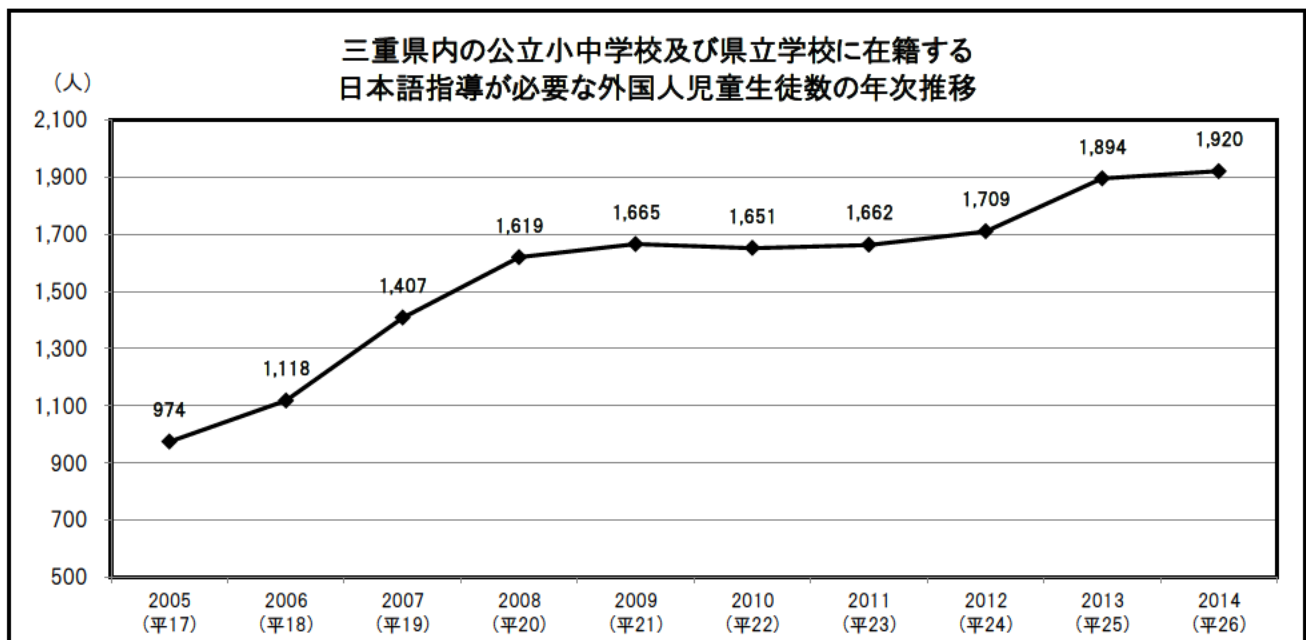
- 外国人住民数は平成20年度をピークに減少傾向となっていたが、近年はほぼ横ばい傾向にある。



資料：法務省「在留外国人統計」

1-3-2 日本語指導が必要な外国人児童生徒数の推移（三重県）

- 日本語指導が必要な外国人児童生徒数は増加傾向にある。

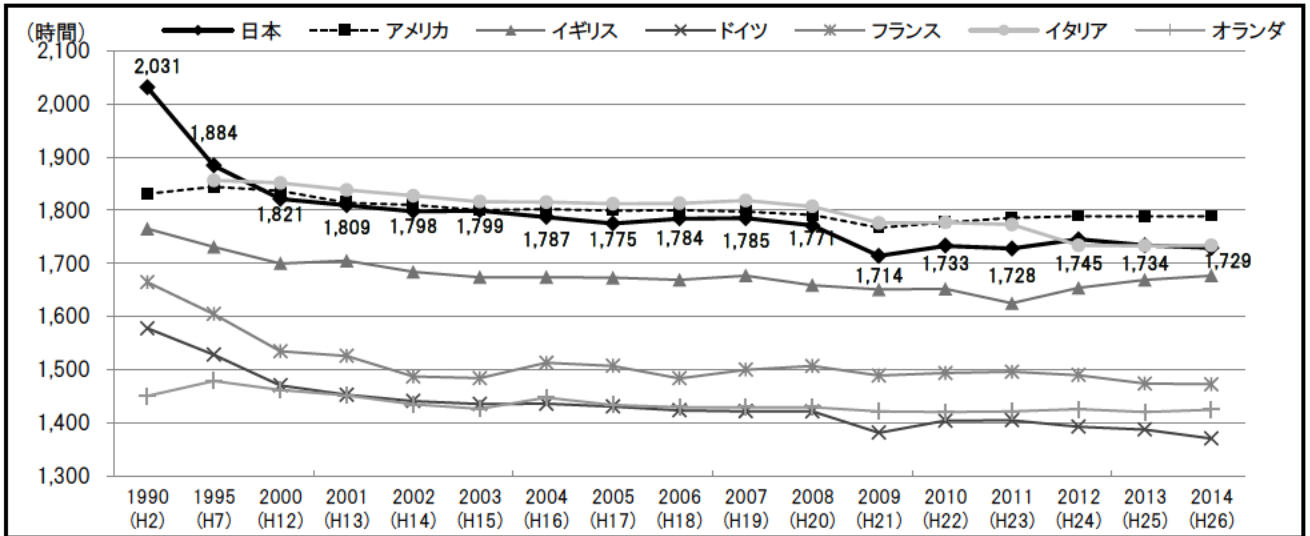


資料：文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査」

1-4 長時間労働

1-4-1 一人当たり平均年間総実労働時間（就業者）の推移（全国）

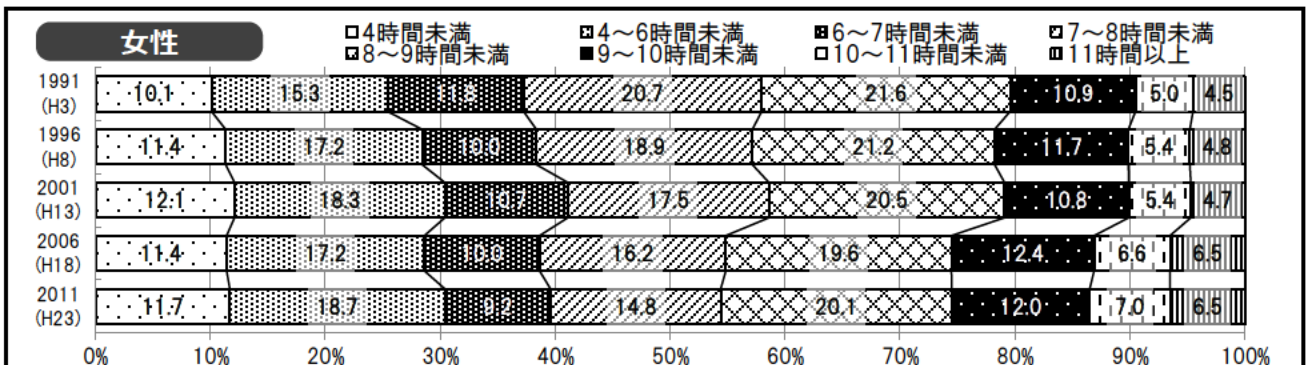
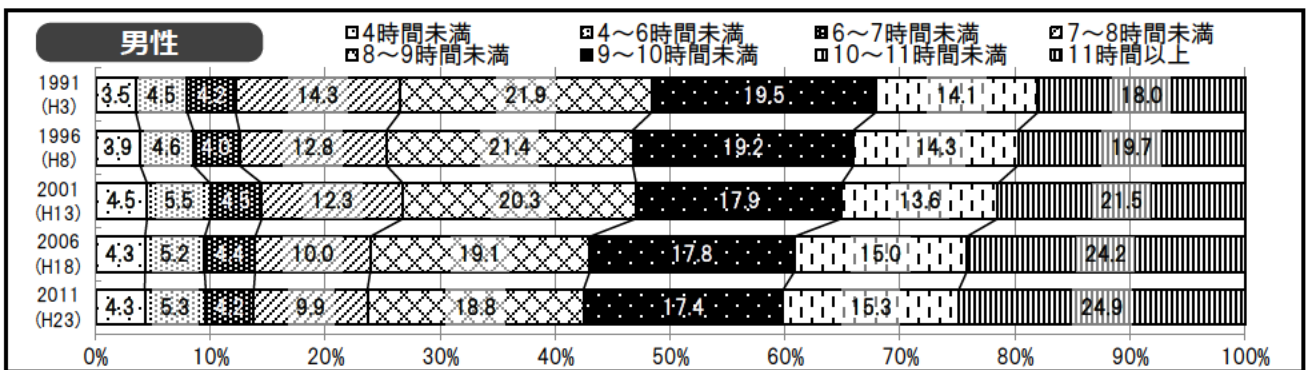
- 日本の平均年間総実労働時間（就業者）は、1988年の改正労働基準法の施行を契機に着実に減少を続け、近年は横ばい状態にある。



資料：独立行政法人労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較2016」

1-4-2 有業者の平日一日当たりの平均労働時間割合の推移（全国）

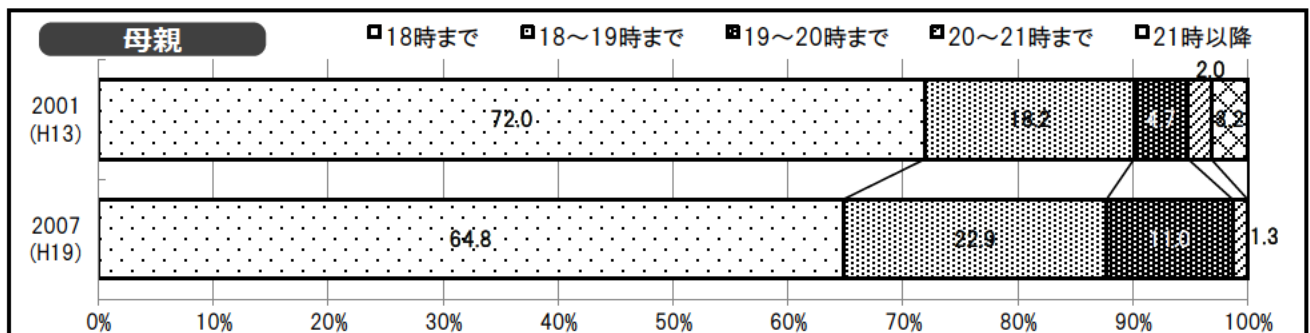
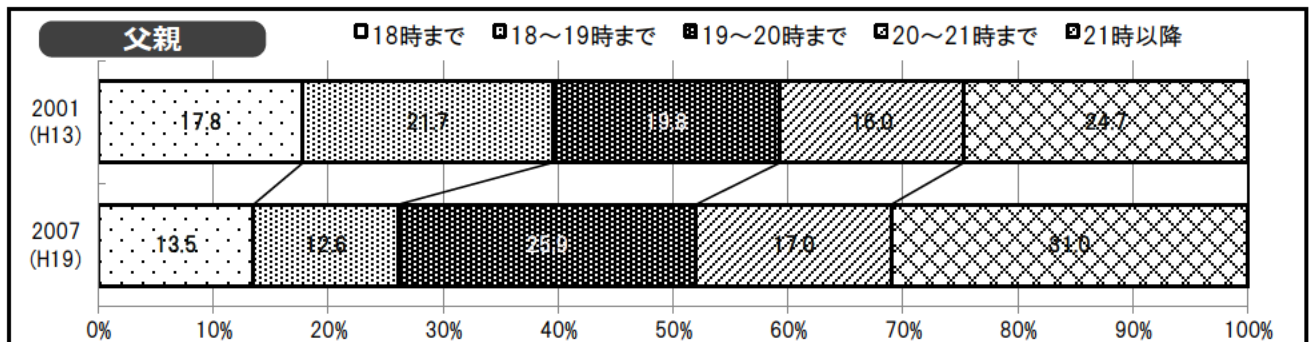
- 有業者について平日における仕事の行動者割合を仕事時間階級別に経年比較をすると、男性、女性とも、「10～11時間未満」及び「11時間以上」の割合が増加している。



資料：総務省「社会生活基本調査」

1-4-3 働く親の平日の平均帰宅時間（全国）

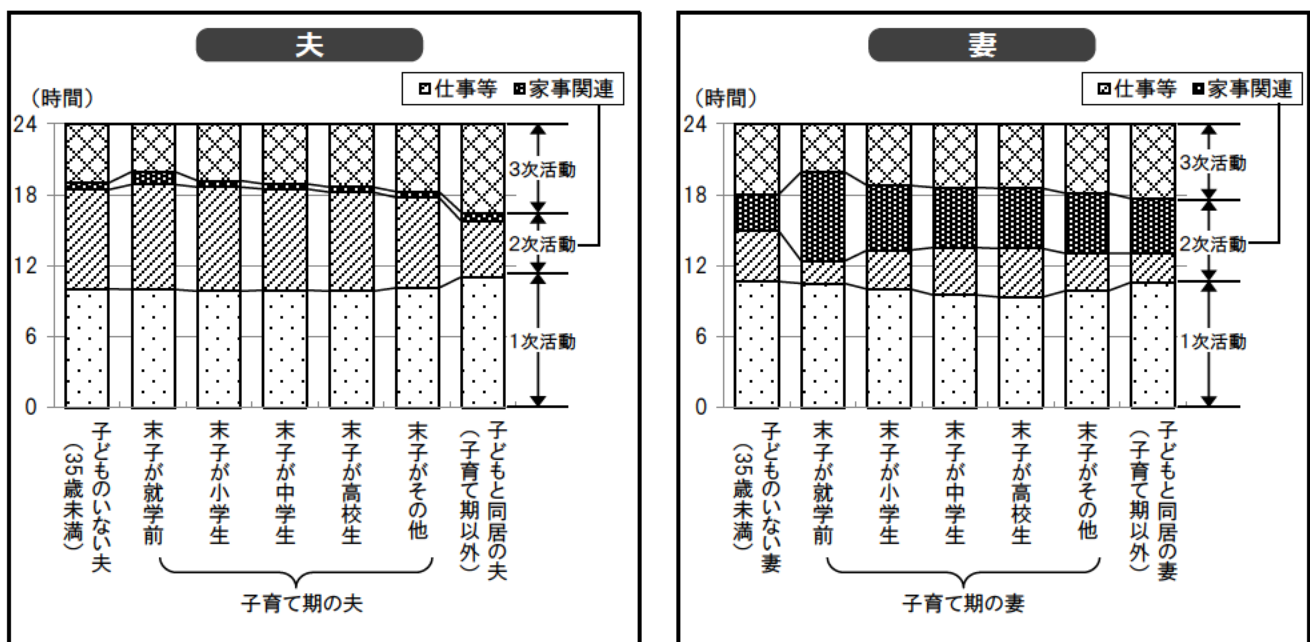
- 働く父親、母親の平均帰宅時間について、平成13年と平成19年を比較すると、いずれも帰宅時間が遅くなる傾向を示している。



資料：内閣府「平成20年版青少年白書」

1-4-4 夫婦のライフステージ、行動の種類別生活時間（全国）

- 子どもの成長過程により、妻の家事関連時間と仕事等の時間は大きく変化する。また、2次活動のうち、夫が「仕事等」の割合が高いのに対して、妻は「家事関連」の占める割合が高い。



資料：総務省「平成23年社会生活基本調査」

注) 1次活動…睡眠、食事など生理的に必要な活動

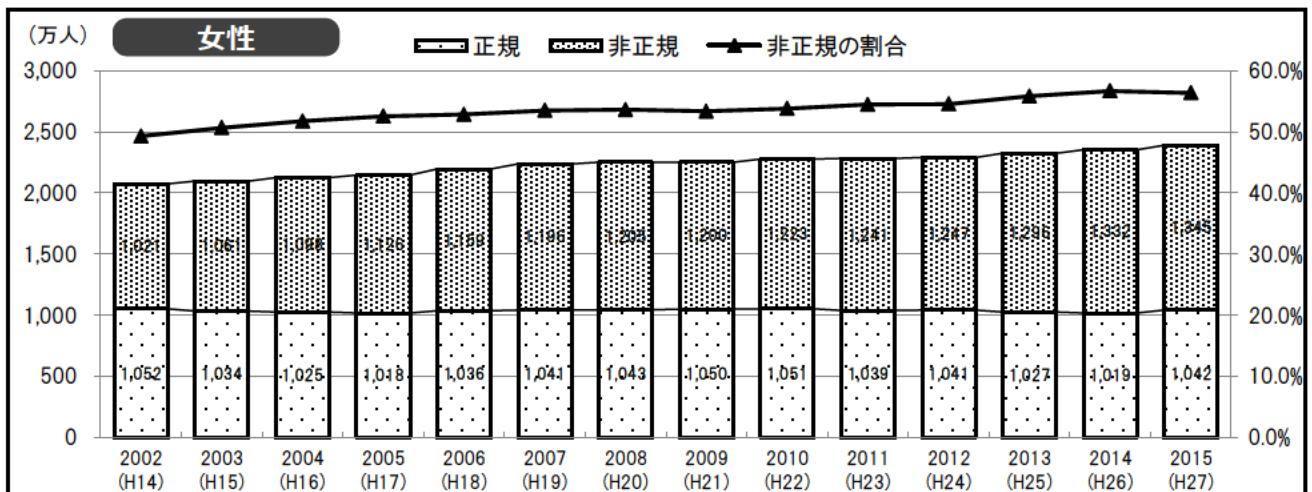
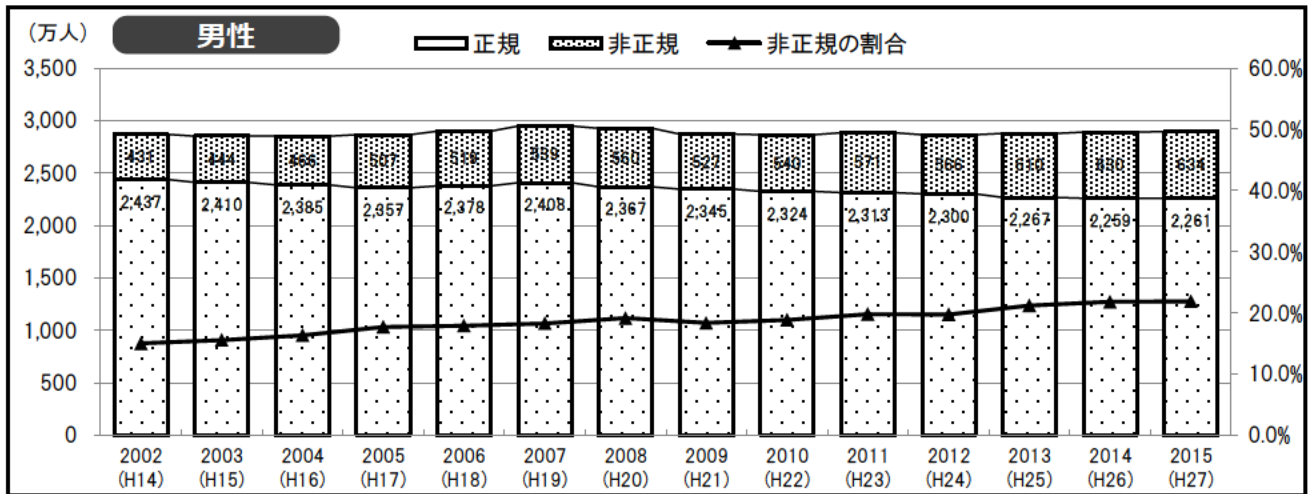
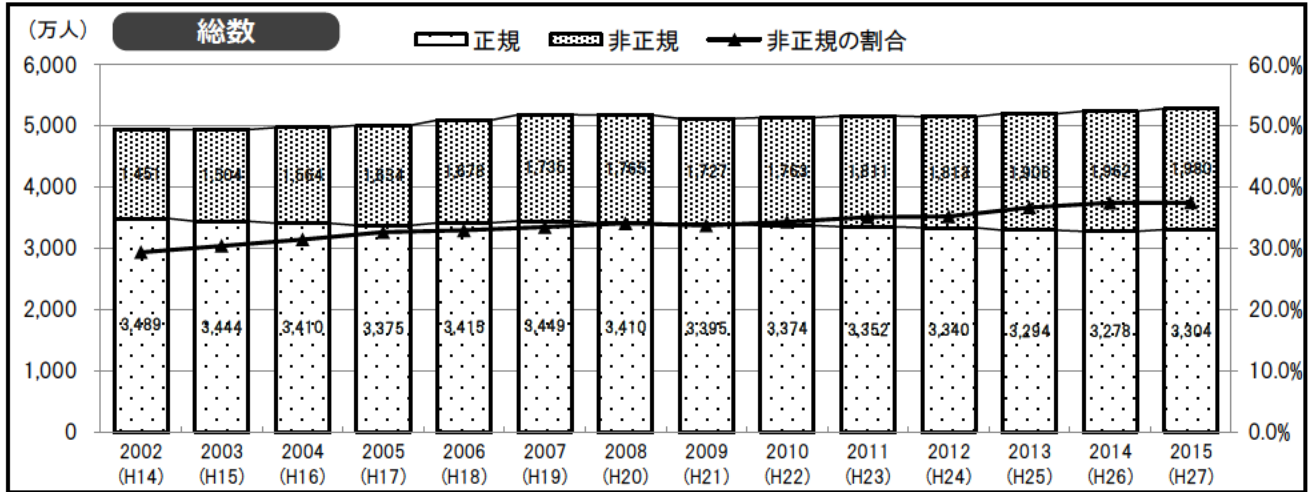
2次活動…仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動

3次活動…1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動

1-5 雇用形態の多様化

1-5-1 正規、非正規の職員・従業員の推移（全国）

- 男性、女性とも非正規雇用の人数・割合が増加している。



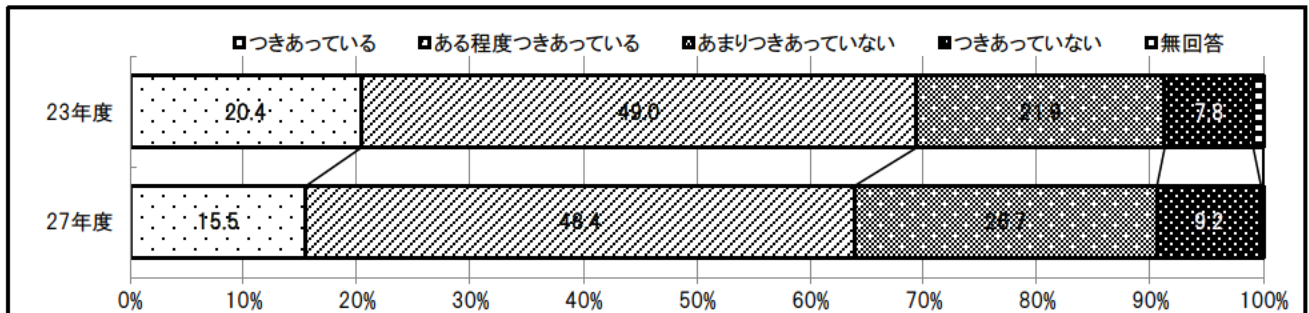
資料：総務省「労働力調査」

1-6 地域コミュニティの希薄化

1-6-1 地域の人々との付き合い（三重県）

- 近所づきあいをしていない県民が増えている。

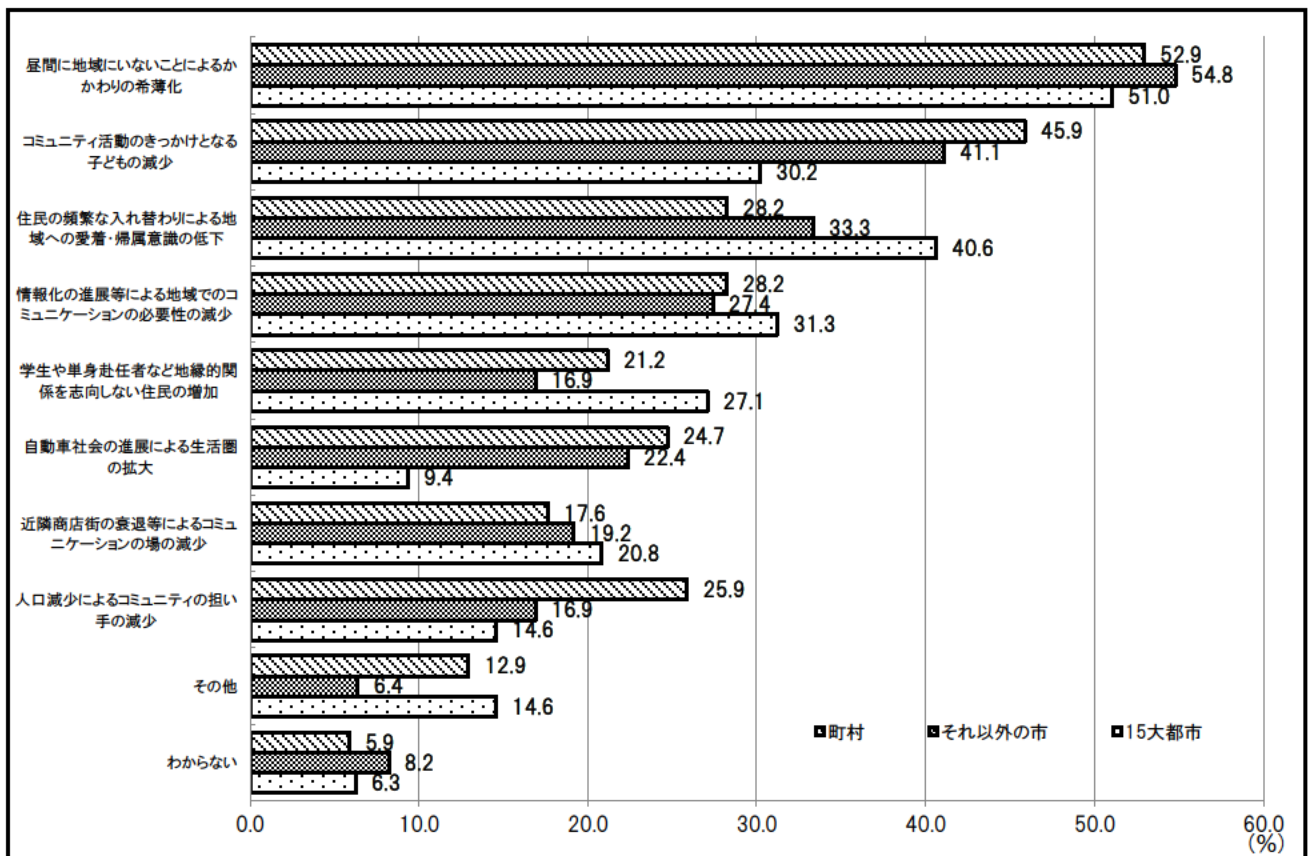
「となり近所とお付き合いを、どの程度されていますか」という質問に対して、「あまりつきあっていない」「つきあっていない」と答えた県民の割合は35.9%となっており、23年度よりも高くなっている。



資料：三重県子ども・家庭局「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

1-6-2 地域の人々との付き合いが疎遠な理由【複数回答】（全国）

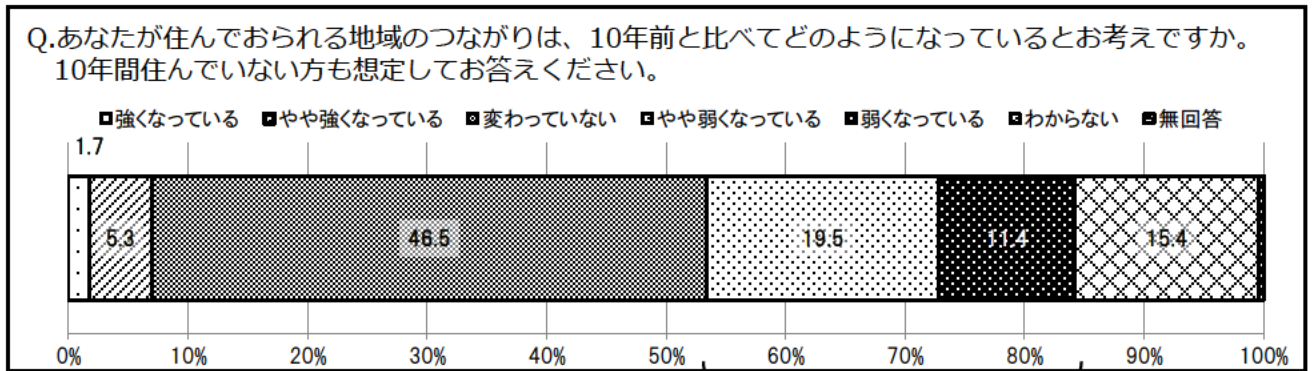
- 地域の人々との付き合いが疎遠な理由として相対的に強く認識されているものは、「昼間に地域にいないことによるかわりの希薄化」、「コミュニティ活動のきっかけとなる子どもの減少」、「住民の頻繁な入れ替わりによる地域への愛着・帰属意識の低下」等が挙げられる。



資料：国土交通省（平成17年12月インターネット調査）

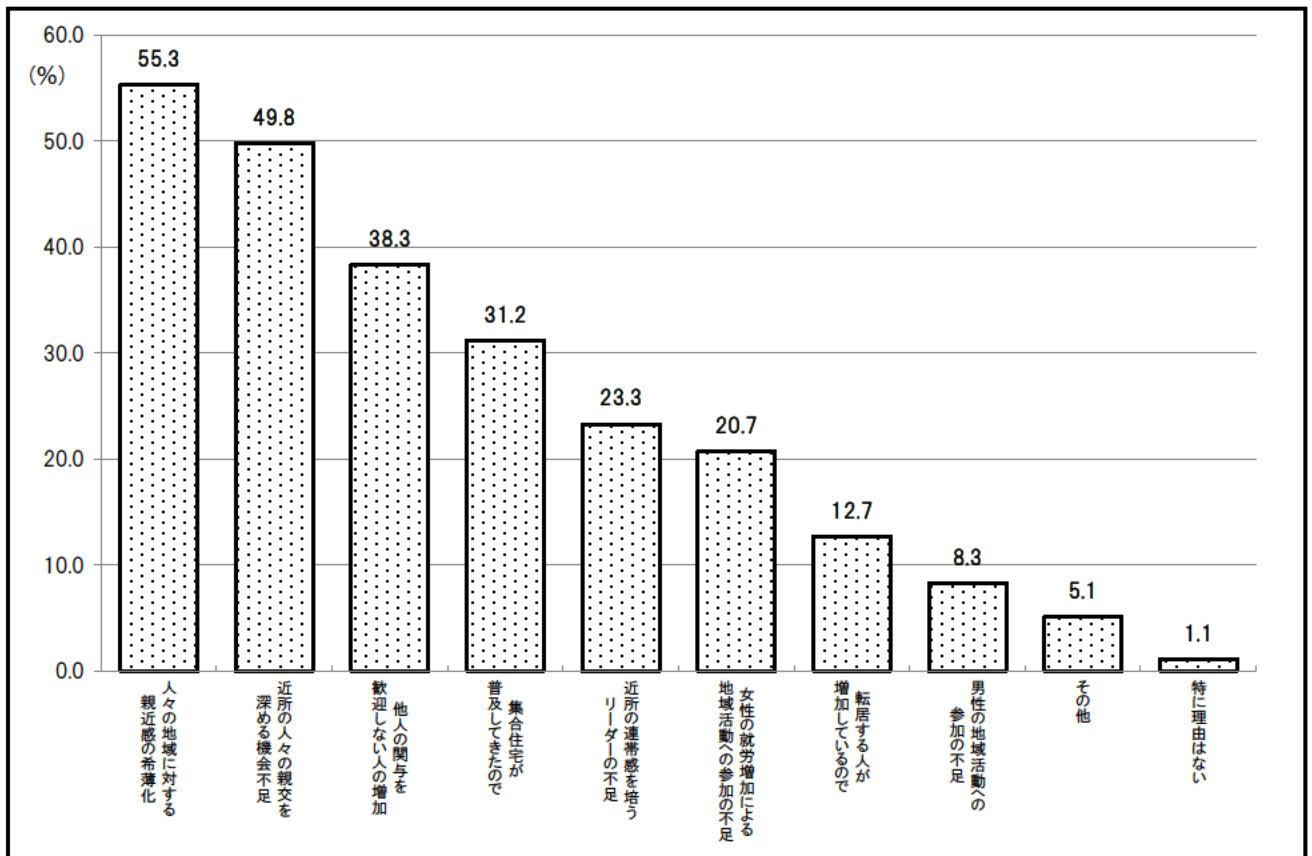
1-6-3 つながりに対する意識（全国）

- 住んでいる地域のつながりが「弱くなっている」「やや弱くなっている」と感じている人は約3割。



- 地域のつながりが弱くなっている理由として、「人々の地域に対する親近感の希薄化」を挙げた人が55.3%と最も多く、「近所の人々の親交を深める機会不足」が49.8%、「他人の関与を歓迎しない人の増加」が38.3%と続いている。

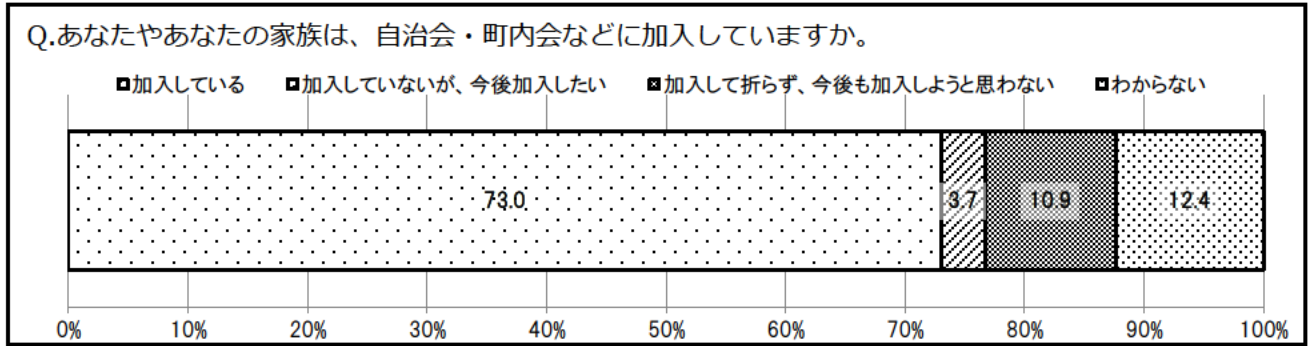
「弱くなっている」「やや弱くなっている」と回答した理由



資料：内閣府「平成18年国民生活選好度調査」

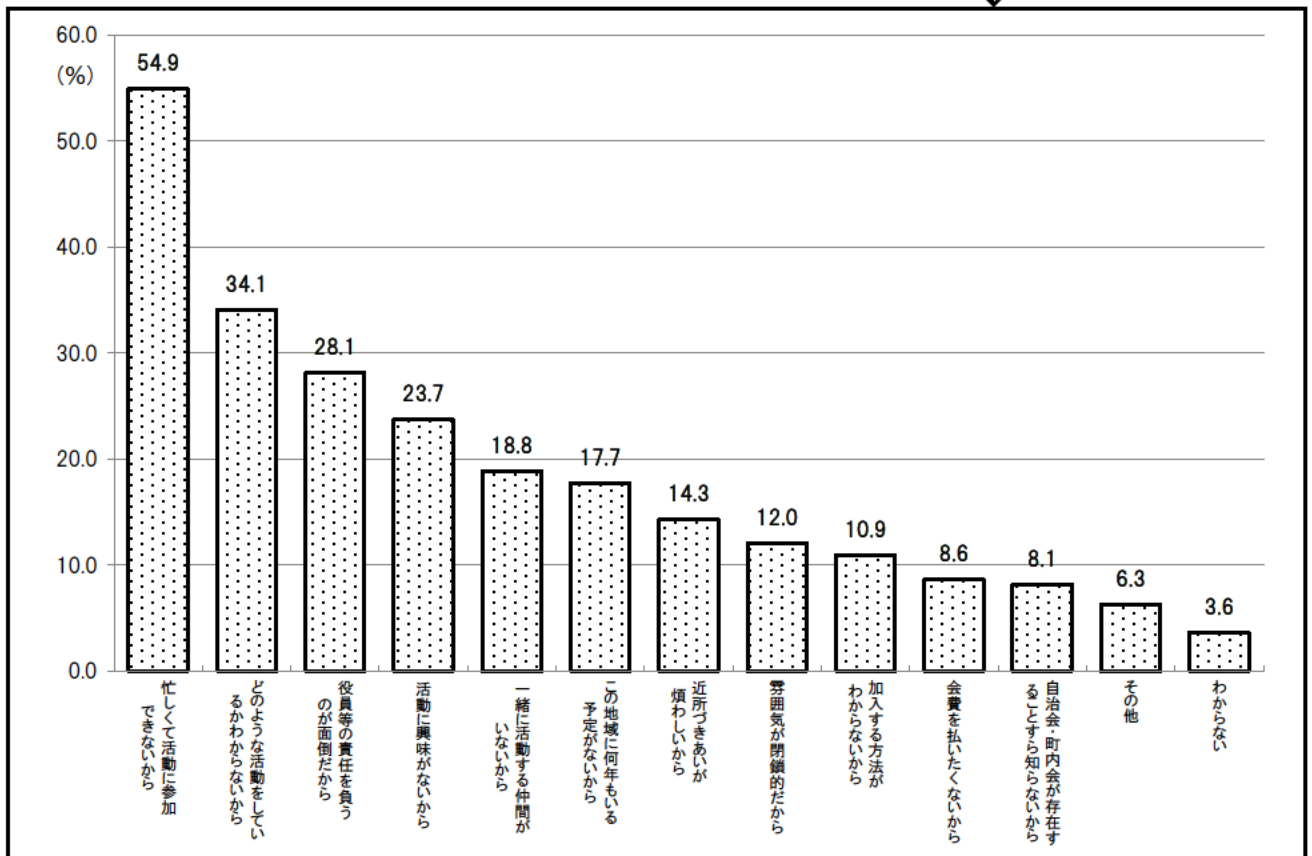
1-6-4 自治会・町内会への加入率（全国）

- 自治会・町内会には3割弱の人が加入していない。



- 自治会・町内会に加入しない理由として、「忙しくて活動に参加できないから」を挙げた人が54.9%と最も多く、「どのような活動をしているかわからないから」が34.1%、「役員等の責任を負うのが面倒だから」が28.1%と続いている。

「加入していないが、今後加入したい」「加入しておらず、今後も加入しようと思わない」と回答した人の自治会・町内会に加入しない理由

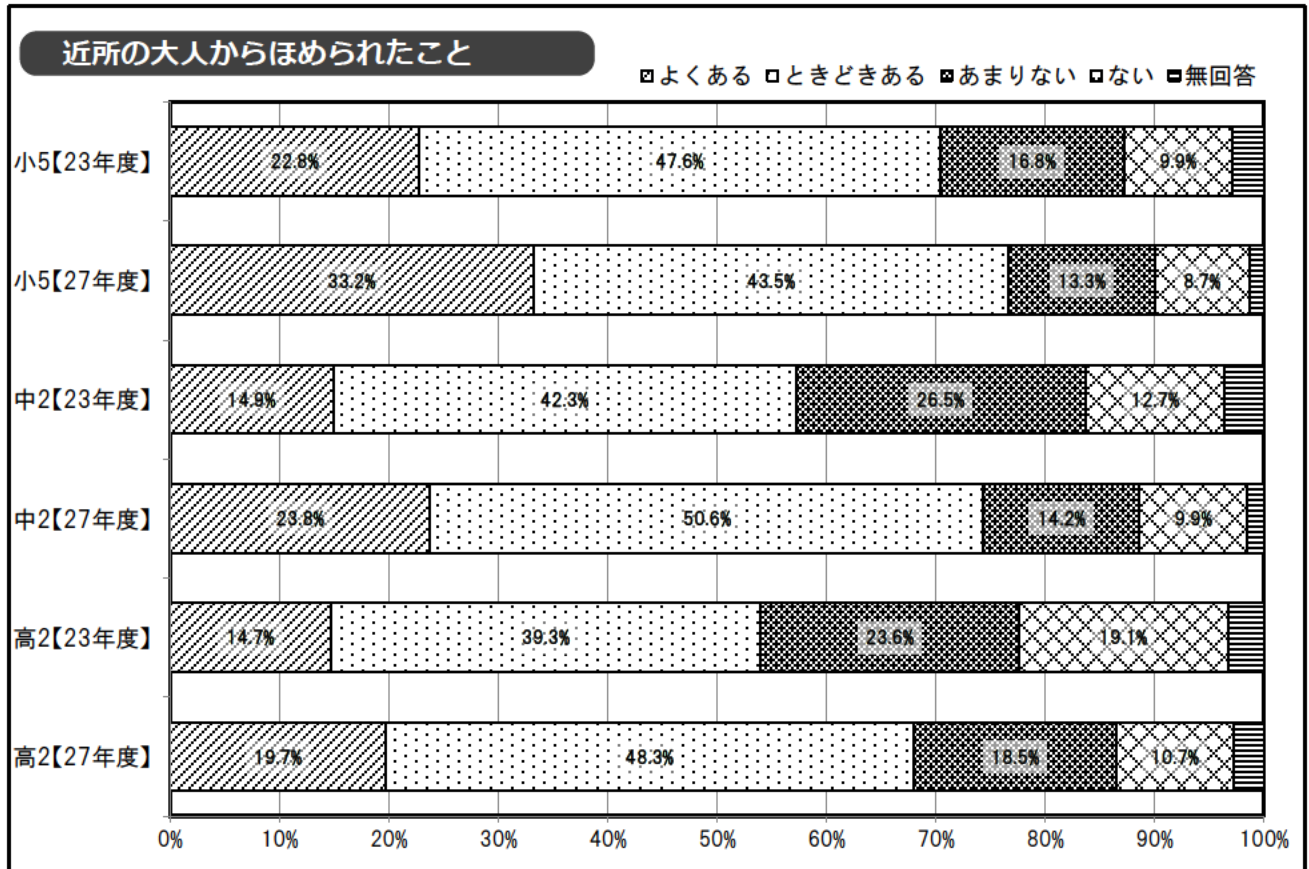


資料：内閣府「平成22年国民生活選好度調査」

1-6-5 子どもと地域の大人との関わり（三重県）

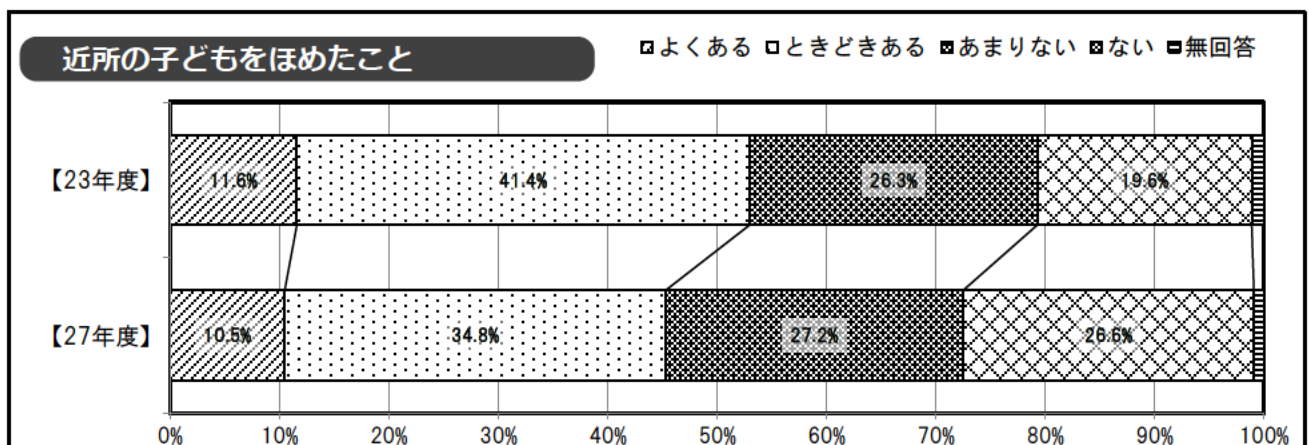
- 近所の大人からほめられたことがある子どもの割合は増えているが、近所の子どもをほめたことがある大人の割合は減っている。

Q. あなたは、これまで近所の大人からほめられたことはありますか。



資料：三重県子ども・家庭局「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

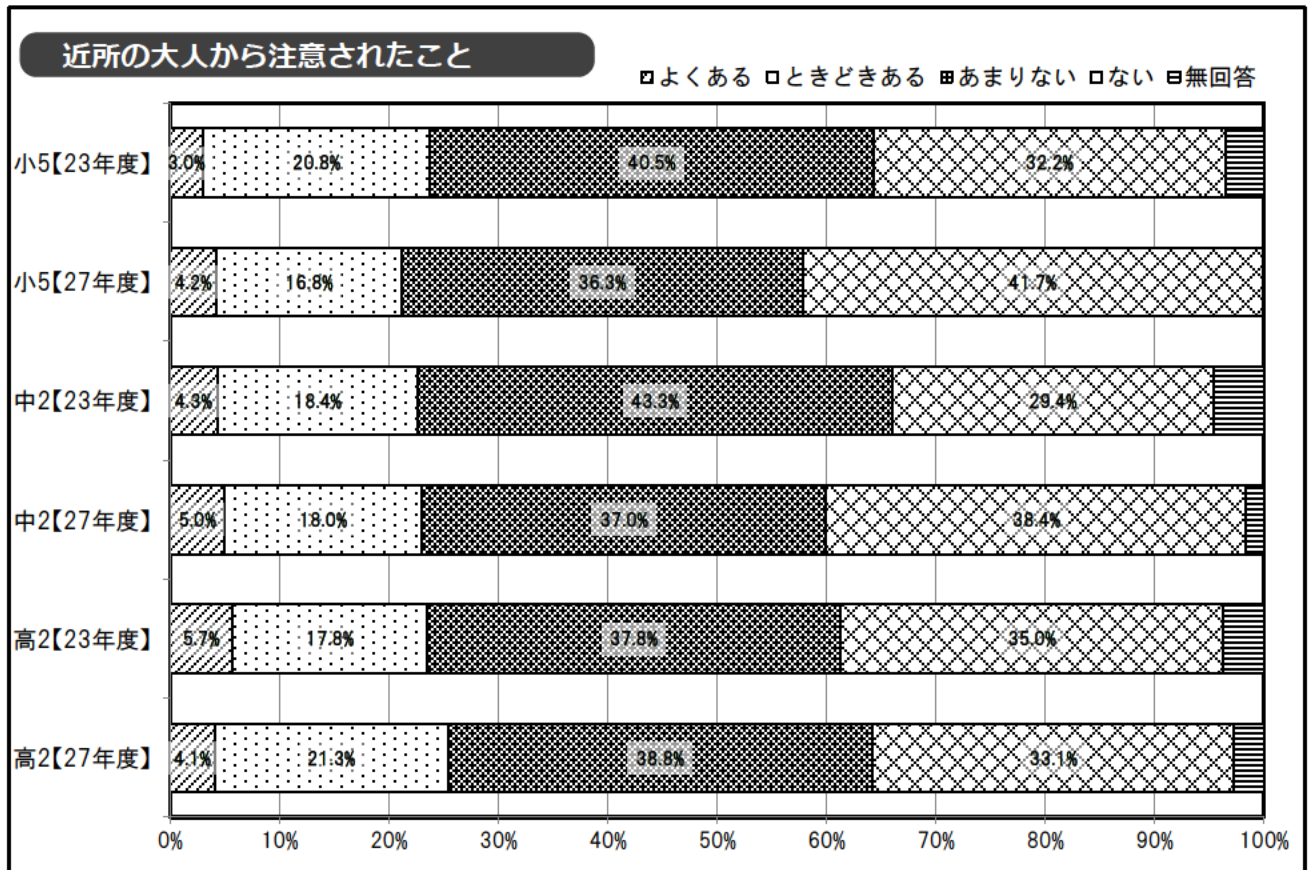
Q. あなたは、近所の子どもをほめたことはありますか。



資料：三重県子ども・家庭局「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

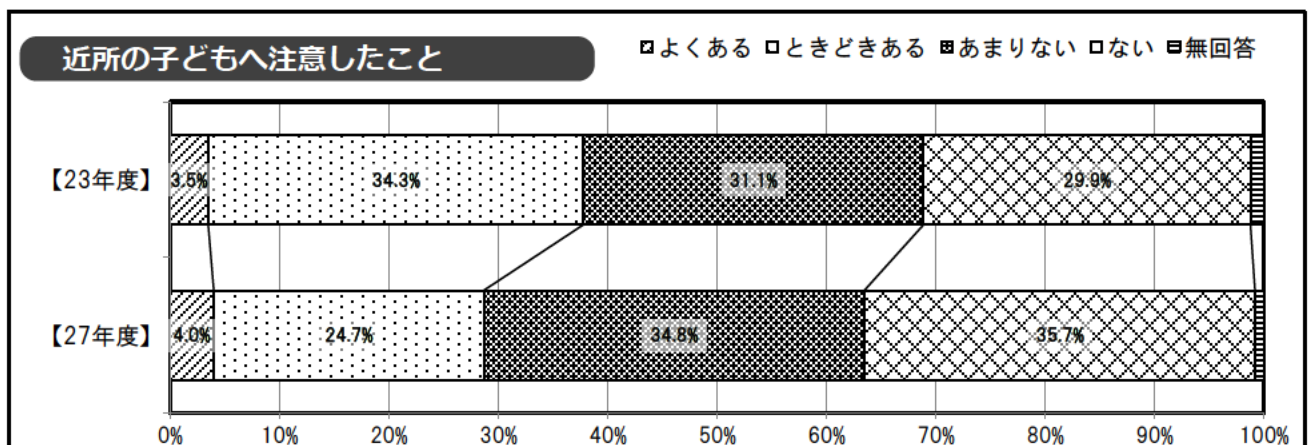
- 近所の大人から注意されたことが「よくある」または「ときどきある」子どもは約20%、注意されたことが「よくある」または「ときどきある」県民は約30%。

Q. あなたは、これまで近所の大人から注意されたことはありますか。



資料：三重県子ども・家庭局「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

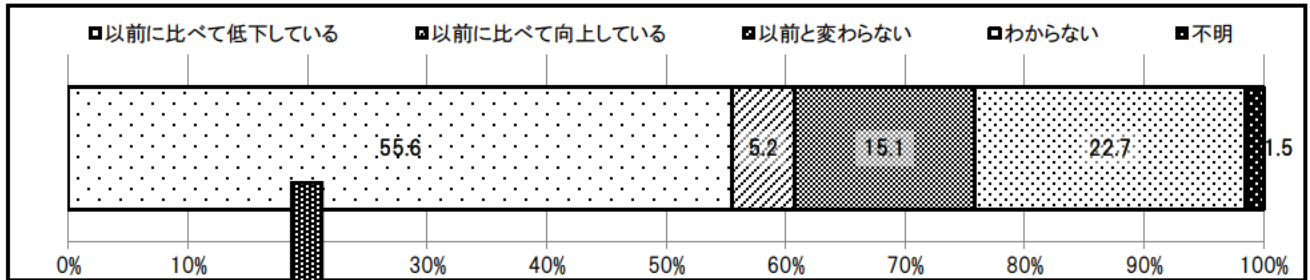
Q. あなたは、近所の子どもを注意したことはありますか。



資料：三重県子ども・家庭局「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

1-6-6 地域の教育力低下に対する認識（全国）

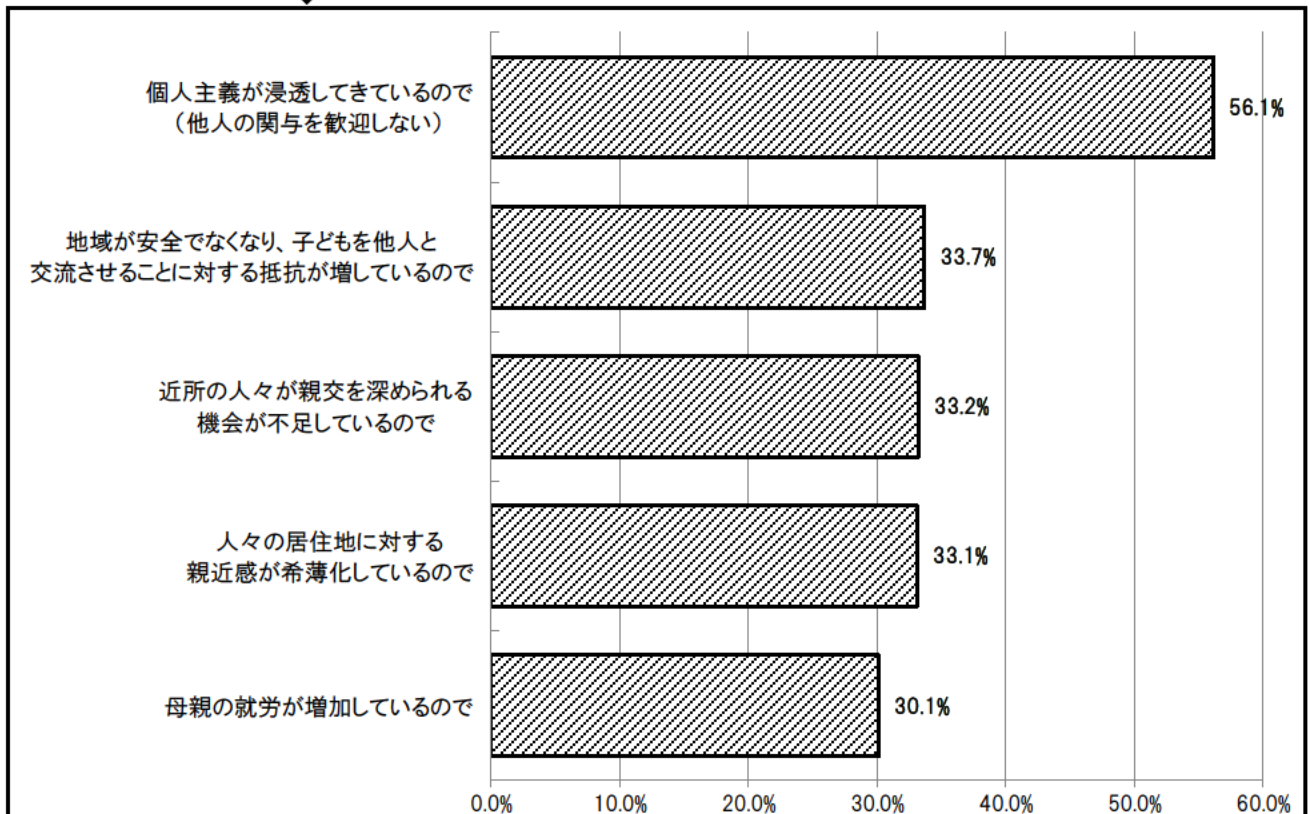
●保護者に「地域の教育力」を自身の子ども時代と比較してもらったところ、過半数が「以前に比べて低下している」と回答している。



「以前に比べて低下している」と回答した理由

●地域の教育力の低下の理由を尋ねたところ、「個人主義の浸透」が56.1%と最も高く、「地域の安全の低下」「親交を深める機会の低下」「親近感の希薄化」「母親の就労の増加」と続いている。

※14項目の中から3つまで選択。下記グラフは上位5項目の回答率。

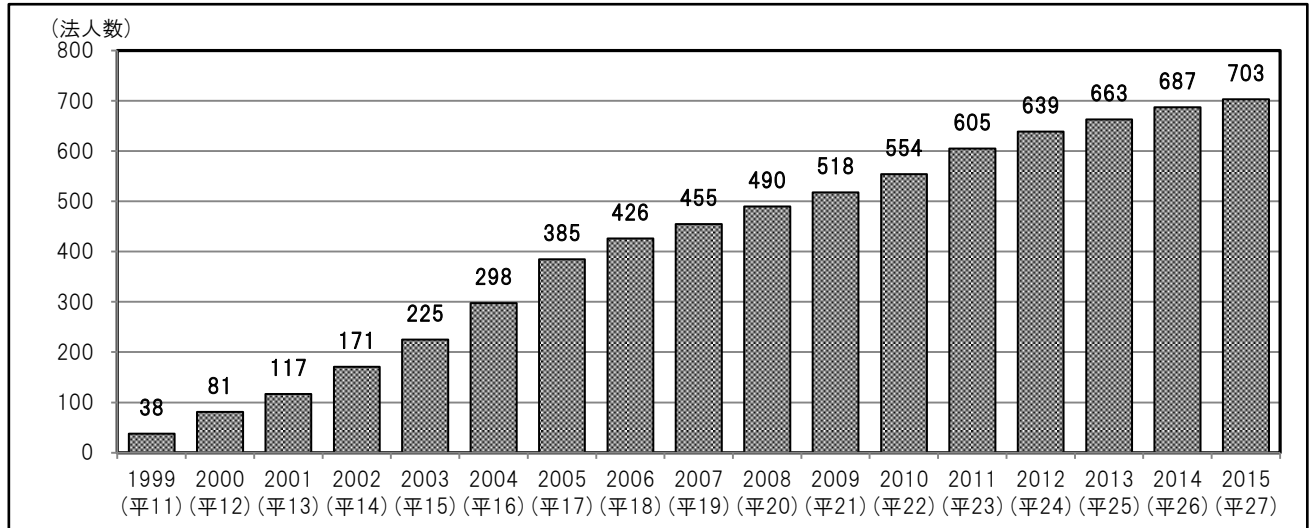


資料：文部科学省委託「地域の教育力に関する実態調査」（平成17年度）

1-7 NPOの増加

1-7-1 NPO法人数の推移（三重県）

● 県内のNPO法人数は年々増加し、累計で700法人を突破。

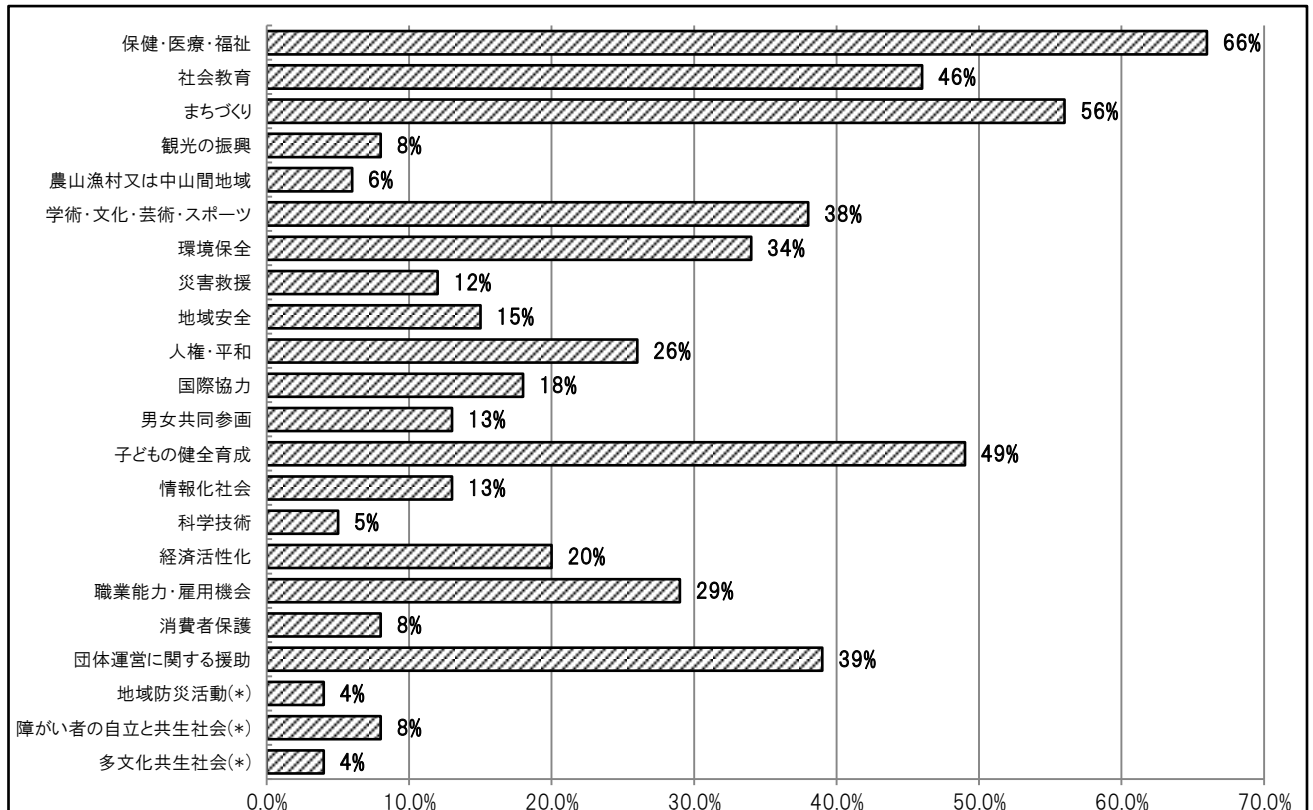


資料：三重県男女共同参画・NPO課「データでみる三重県のNPO法人」

※法人数累計は、「認証数－解散等数」の累計

1-7-2 NPO法人の活動分野と割合（三重県）

● 約半数のNPO法人が「子どもの健全育成」「社会教育」を活動分野に掲げている。

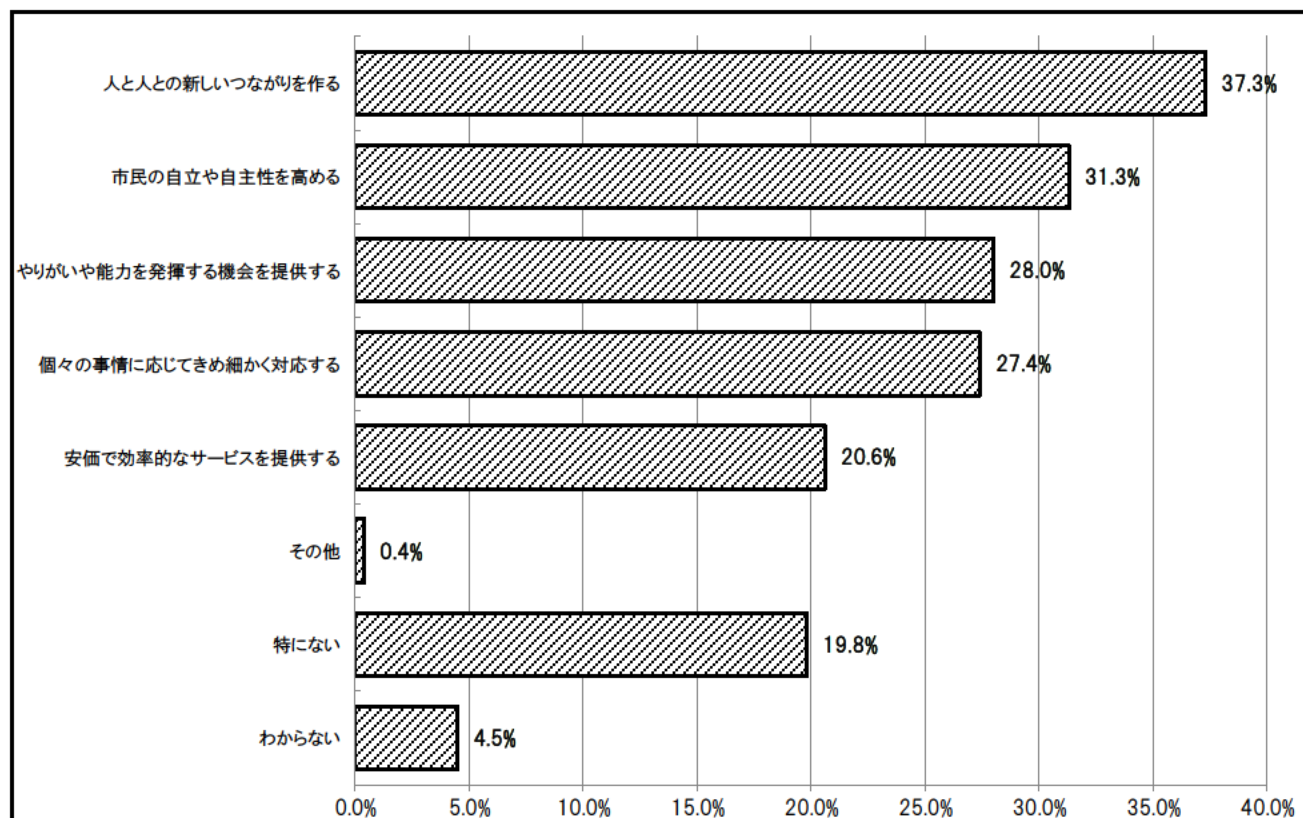


資料：三重県男女共同参画・NPO課「データでみる三重県のNPO法人」

※(*)印は、三重県の条例で定める活動

1-7-3 NPO法人に期待する役割（全国）

- NPO法人に対してどのような役割を期待しているかの世論調査では、「人と人の新しいつながりを作る」を挙げた人の割合が最も高い。



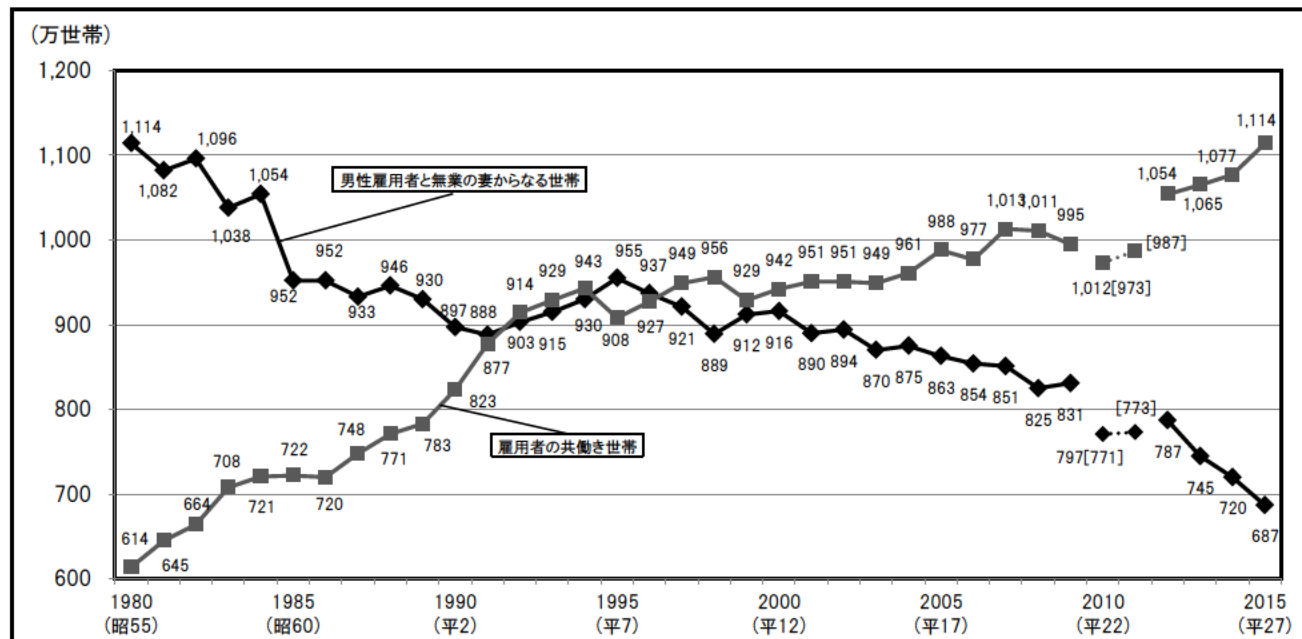
資料：内閣府「NPO法人に関する世論調査」（平成25年度）

2 家庭の状況

2-1 共働き家庭の増加

2-1-1 共働き等世帯の推移（全国）

●共働き世帯が増加している。



資料：内閣府「平成28年版男女共同参画白書」

(注)1. 1980年から2001年は総務省統計局「労働力調査特別調査」(各年2月。ただし、1980年から1982年は各年3月)、2002年以降は総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」(年平均)より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査(詳細集計)」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。

2. 「男性雇用者と無業の妻からなる世帯」とは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び完全失業者)の世帯。

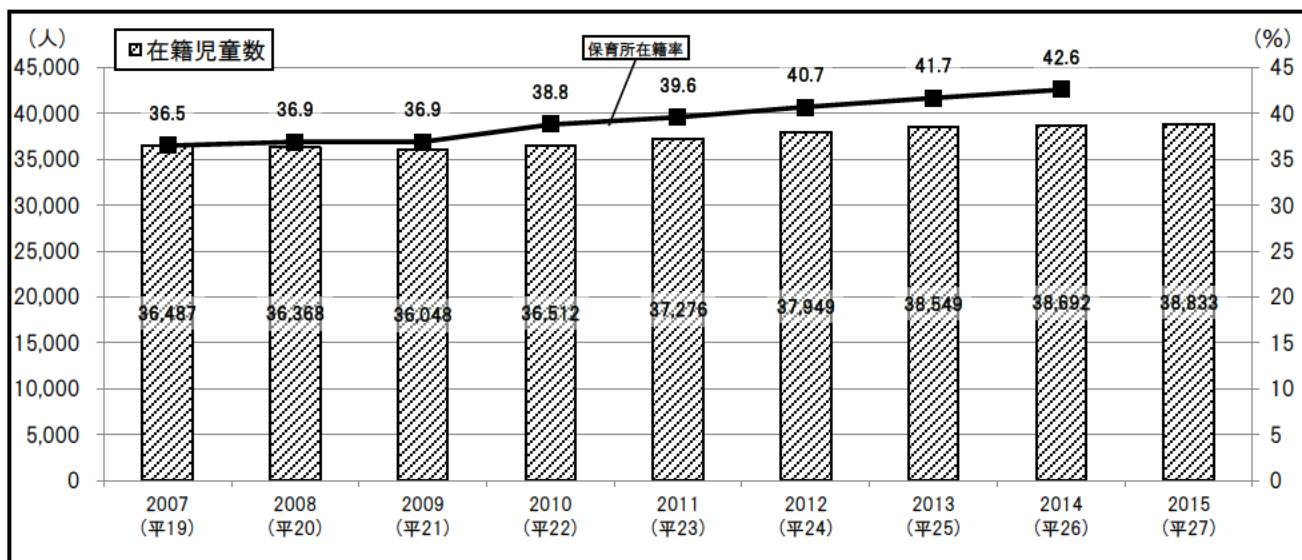
3. 「雇用の共働き世帯」とは、夫婦ともに非農林業雇用者世帯。

4. 2010年及び2011年の[]内の実数は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

2-1-2 保育所在籍児童数の推移（三重県）

●保育所での保育を必要とする子どもの割合が高くなっている。

本県における保育所(幼保連携型認定こども園の保育所部分を含む)在籍児童の推移をみると、子どもの数は減少傾向にあるものの、在籍児童数、在籍率ともに増加傾向にある。

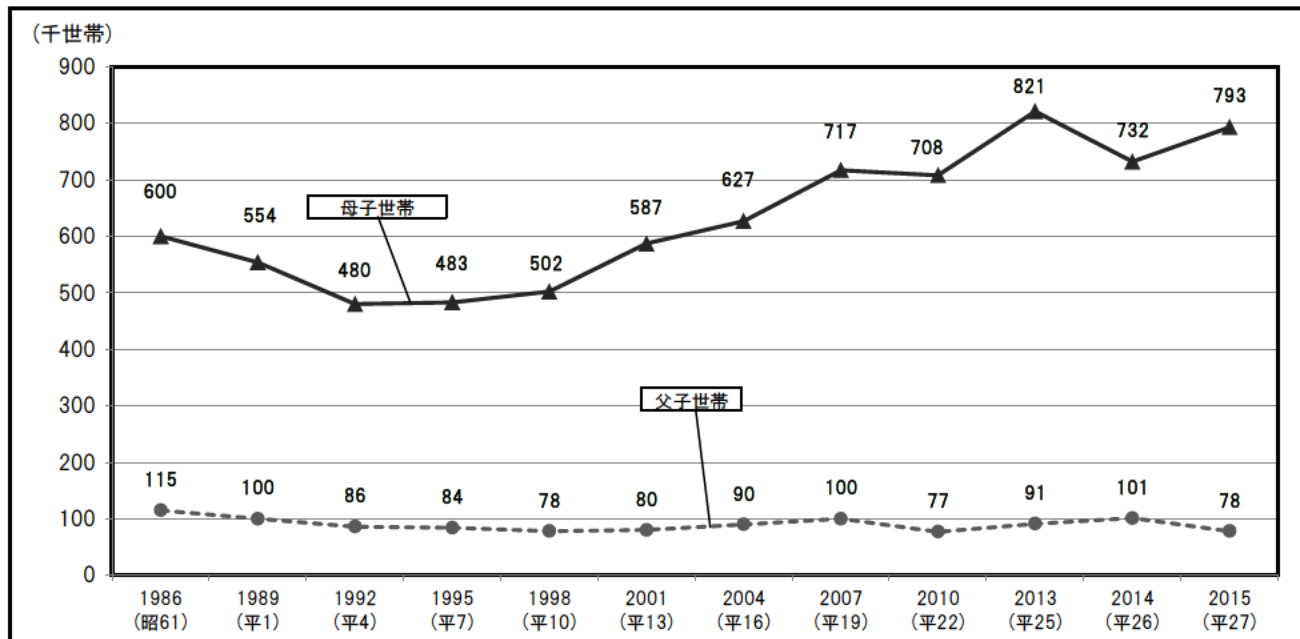


資料：三重県子ども・家庭局「みえの子ども白書2016」

2-2 ひとり親家庭の増加

2-2-1 母子世帯・父子世帯の推移（全国）

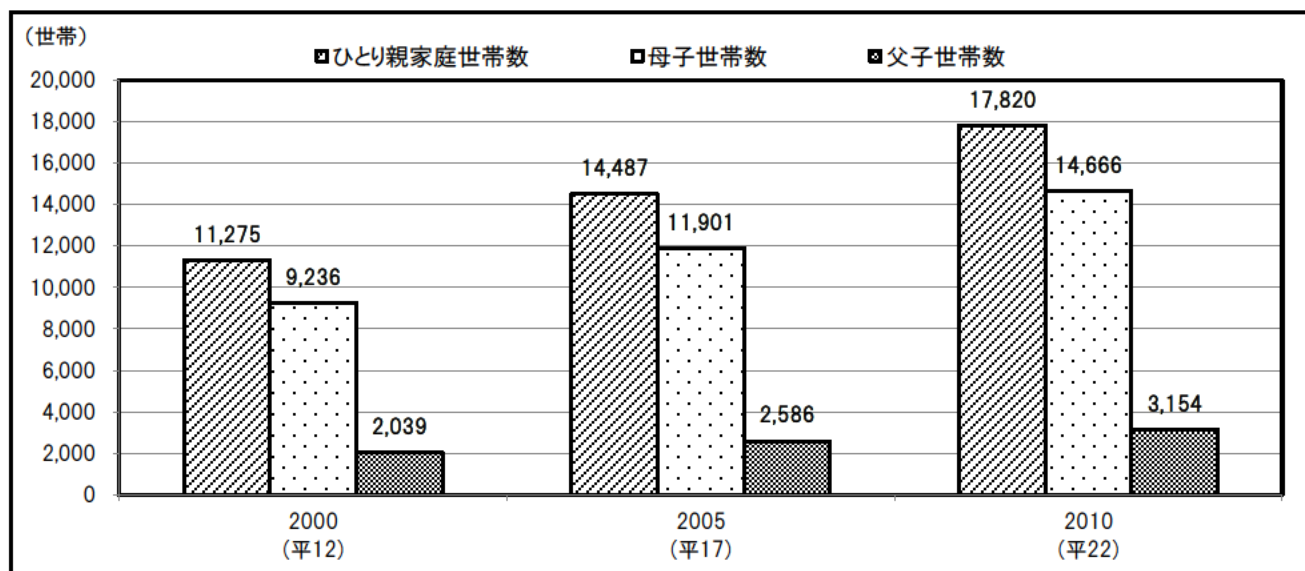
- 母子世帯の数は増加傾向にある。



資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」

2-2-2 ひとり親家庭の世帯数（三重県）

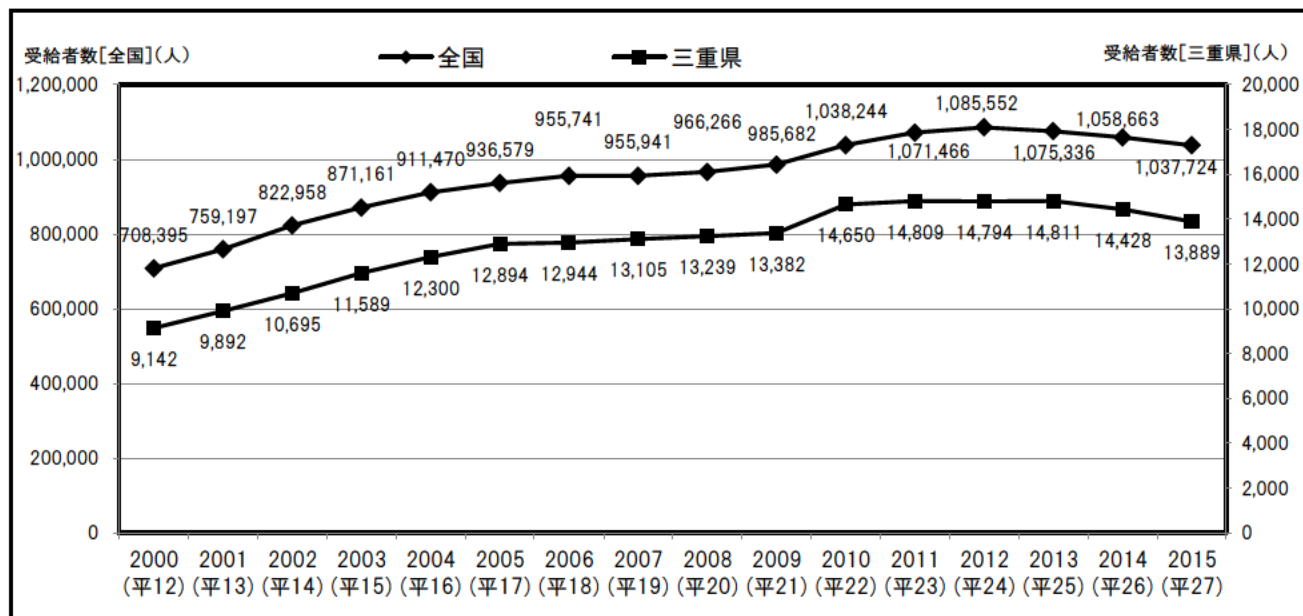
- 三重県におけるひとり親家庭世帯数についても、母子世帯及び父子世帯ともに増加傾向にあり、平成22年には17,820世帯となっている。平成12年から平成22年の間で、母子世帯は58.8%、父子世帯は54.7%の増加となっている。



資料：総務省「国勢調査」

2-2-3 児童扶養手当受給者数の推移（三重県・全国）

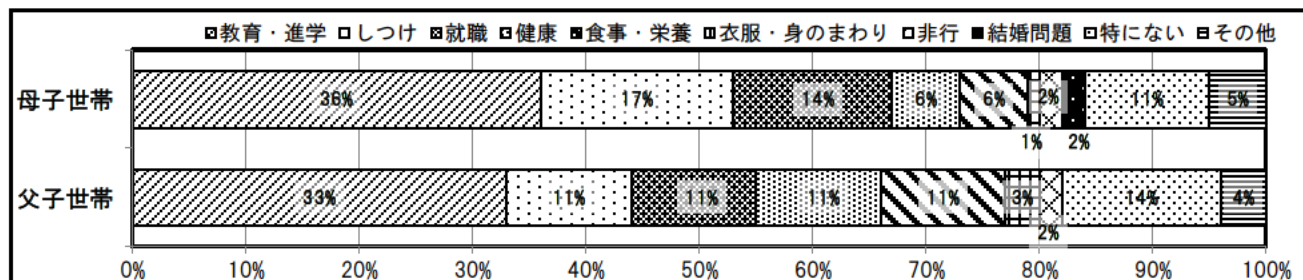
- 本県のひとり親家庭に支給される児童扶養手当の受給者は、平成22年8月から支給対象が父子家庭にも拡大されたこともあり、増加傾向にあり、平成22年以降、ほぼ14,000人台で推移している。



資料：厚生労働省「福祉行政報告例」毎年度3月末現在

2-2-4 ひとり親家庭における子どもについての悩み（三重県）

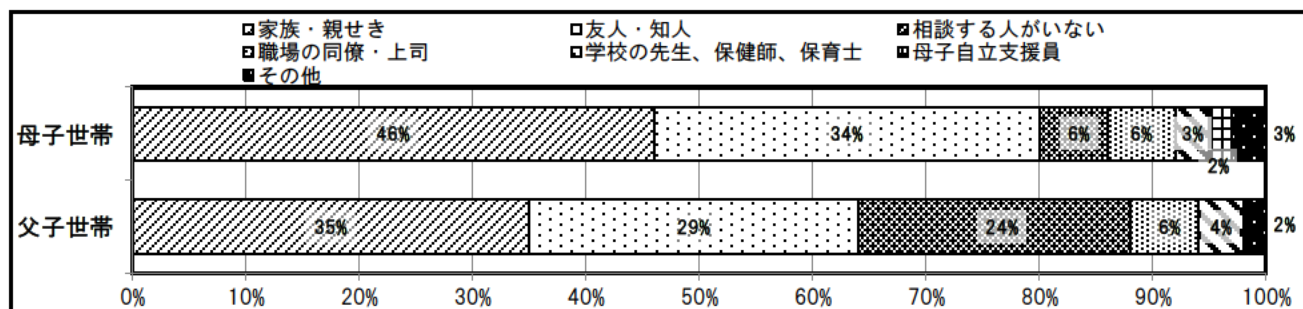
- ひとり親家庭における子どもについての悩みでは、母子世帯、父子世帯ともに「教育・進学」が1位となり、上位に「しつけ」「就職」が入っている。



資料：三重県子ども・家庭局「平成26年三重県ひとり親家庭等実態調査」

2-2-5 ひとり親家庭における相談相手（三重県）

- ひとり親家庭における相談相手では、母子世帯、父子世帯ともに、「家族・親せき」、「友人・知人」が入るが、父子世帯では「相談相手なし」が24%となっており、母子世帯に比べ高くなっている。



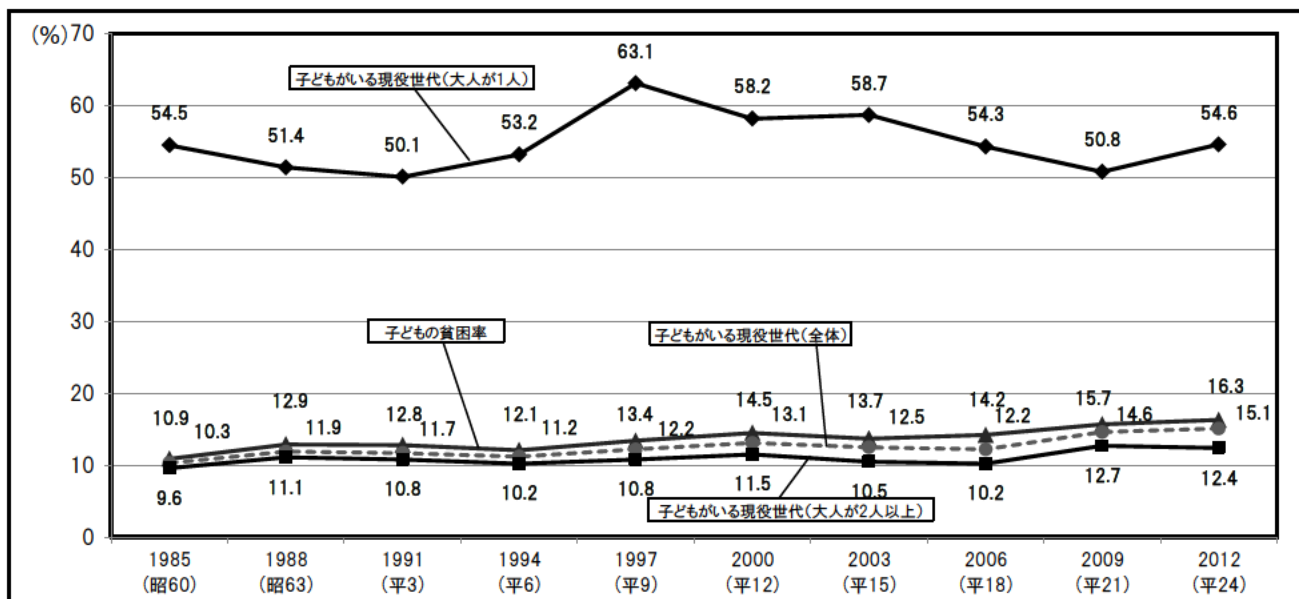
資料：三重県子ども・家庭局「平成26年三重県ひとり親家庭等実態調査」

2-3 子どもの貧困、児童虐待等

2-3-1 子どもの貧困率の推移（全国）

- 子どもの貧困率は上昇傾向。大人1人で子どもを養育している家庭の相対的貧困率が高い。

子どもの相対的貧困率は1990年代半ば頃からおおむね上昇傾向にあり、平成24（2012）年には16.3%となっている。子どもがいる現役世帯の相対的貧困率は15.1%であり、そのうち、大人が1人の世帯の相対的貧困率が54.6%と、大人が2人以上いる世帯に比べて非常に高い水準となっている。

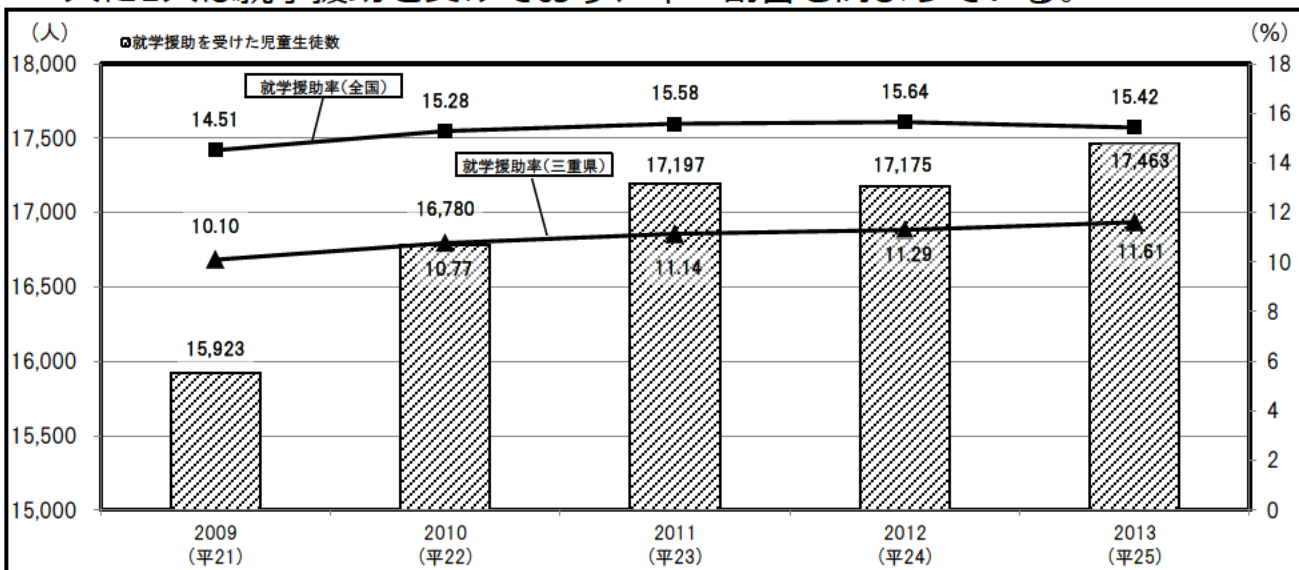


資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」

- (注) 1. 相対的貧困率は、OECDの作成基準に基づき、等価可処分所得(世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得)の中央値の半分に満たない世帯員の割合を算出したものを用いて算出。
 2. 平成6年の数値は兵庫県を除いたもの。
 3. 大人とは18歳以上の者、子どもとは17歳以下の者、現役世帯とは世帯主が18歳以上65歳未満の世帯をいう。
 4. 等価可処分所得金額が不詳の世帯員は除く。

2-3-2 要保護及び準要保護児童生徒数の推移（三重県・全国）

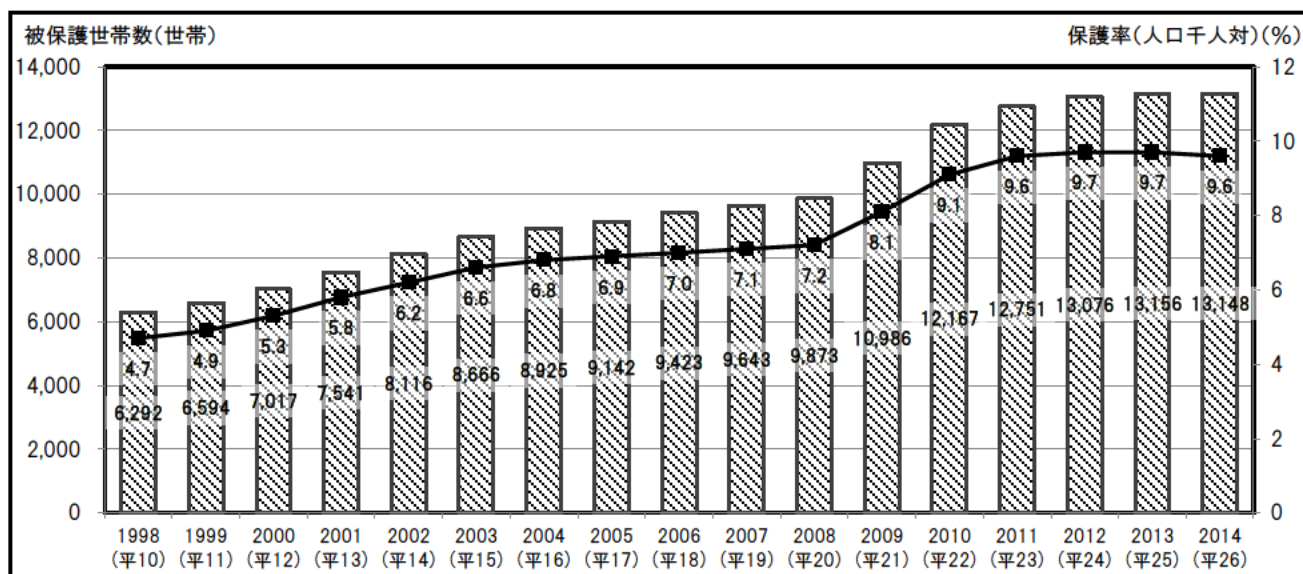
- 三重県内における経済的理由により就学困難と認められ就学援助を受けている小学生・中学生の割合は、全国の割合を下回っているものの、10人に1人は就学援助を受けており、年々割合も高まっている。



資料：文部科学省「要保護及び準要保護児童生徒数(各都道府県別)」

2-3-3 生活保護法による被保護者の状況の推移（三重県）

- 生活保護法による被保護世帯数は、平成10年と比較して倍増している。

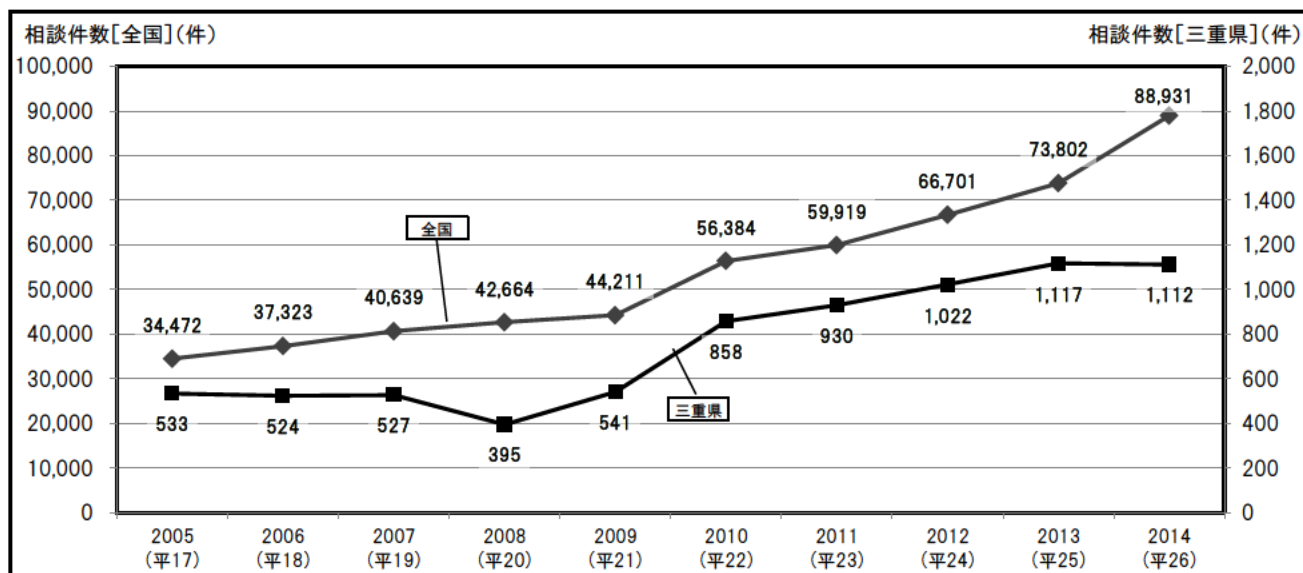


資料：厚生労働省「福祉行政報告例」、「被保護調査」、三重県統計課「三重県統計書」

2-3-4 児童虐待の相談件数の推移（三重県・全国）

- 児童虐待の相談件数は増加傾向にある。

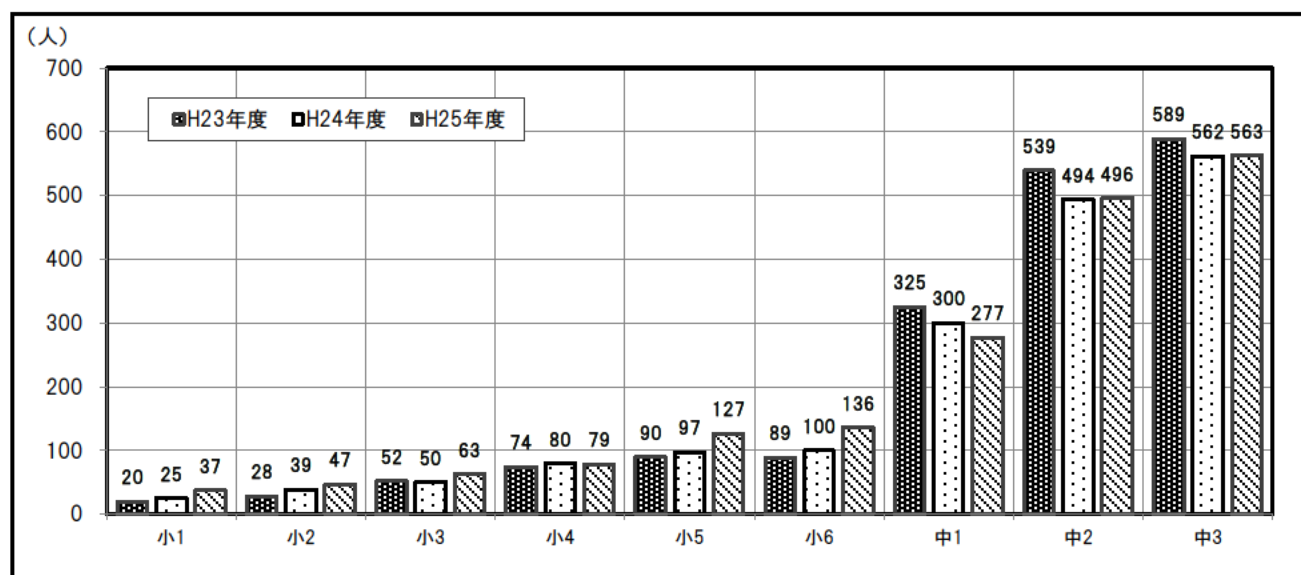
全国の児童相談所に寄せられた児童虐待に対する相談件数は年々増加しており、本県においても平成24年には1,000件を超え、増加傾向にある。



資料：三重県子ども・家庭局「みえの子ども白書2016」

2-3-5 学年別不登校児童生徒数の推移（三重県）

- 中学1年生で不登校生徒が急増する傾向にあり、中学3年生で最も多くなっている。

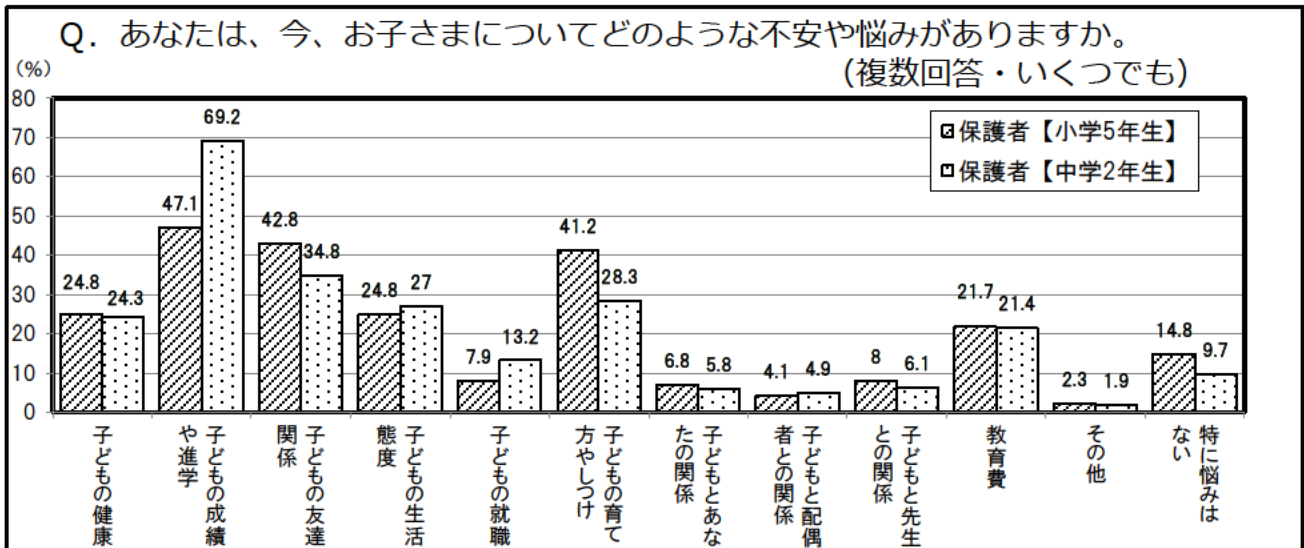


資料：文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

2-4 保護者の悩みや意識

2-4-1 子どもに関する保護者の悩み（三重県）

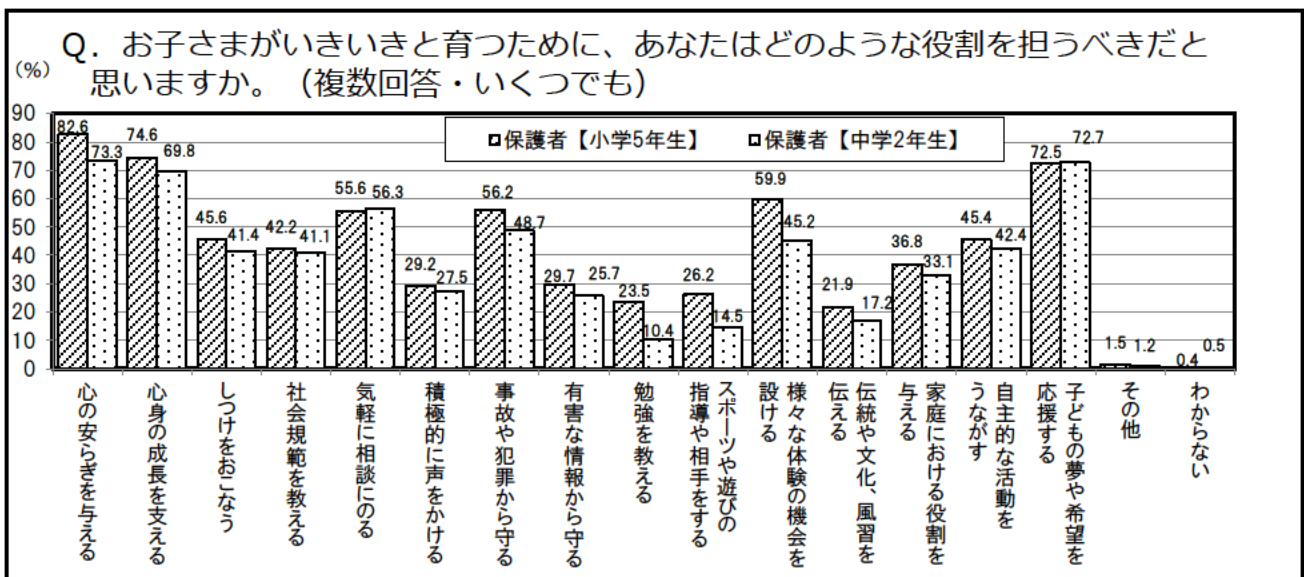
- 子どもに関する保護者の悩みとしては、「子どもの成績や進学」を不安や悩みを持つ保護者が小学校、中学校とも最も多く、次いで「子どもの友達関係」「子どもの育て方やしつけ」の順になっている。



資料：三重県子ども・家庭局「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」(平成27年度)

2-4-2 子どもの育ちにおける保護者の役割（三重県）

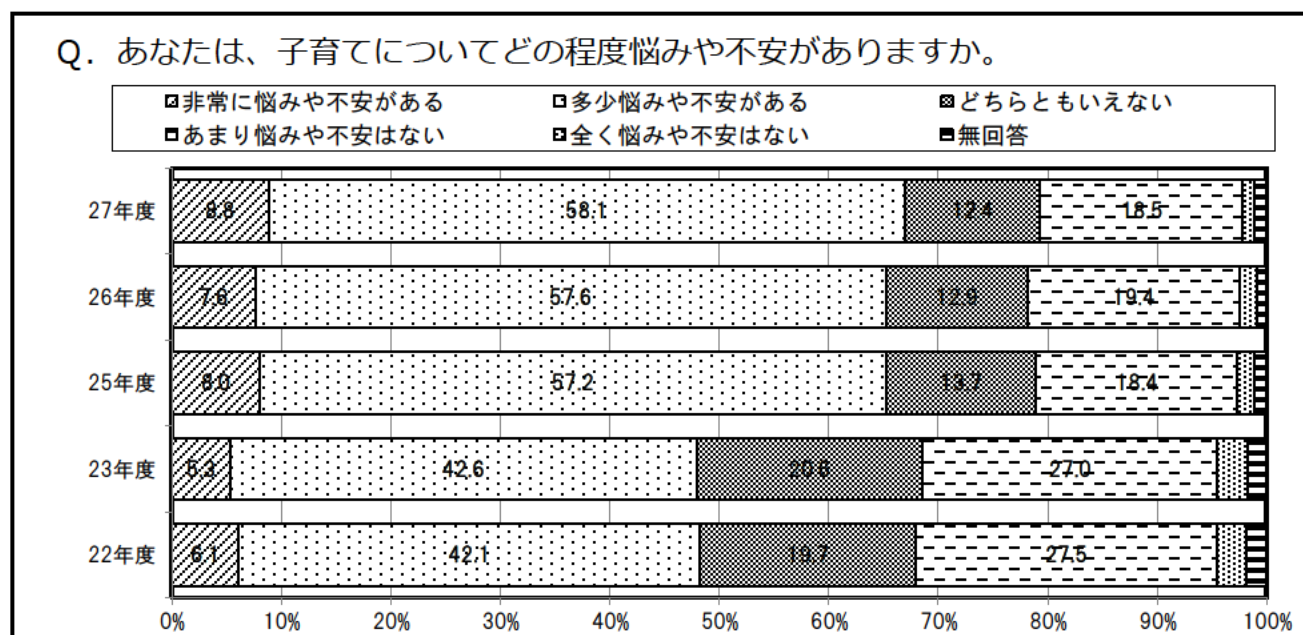
- 小学生の保護者は「心の安らぎを与える」が82.6%と最も高く、次いで「心身の成長を支える」、「子どもの夢や希望を応援する」の順となっている。中学生の保護者も「心の安らぎを与える」が73.3%と最も高く、次いで「子どもの夢や希望を応援する」、「心身の成長をさせる」の順になっている。



資料：三重県子ども・家庭局「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」(平成27年度)

2-4-3 子育てについての悩みや不安の程度（全国）

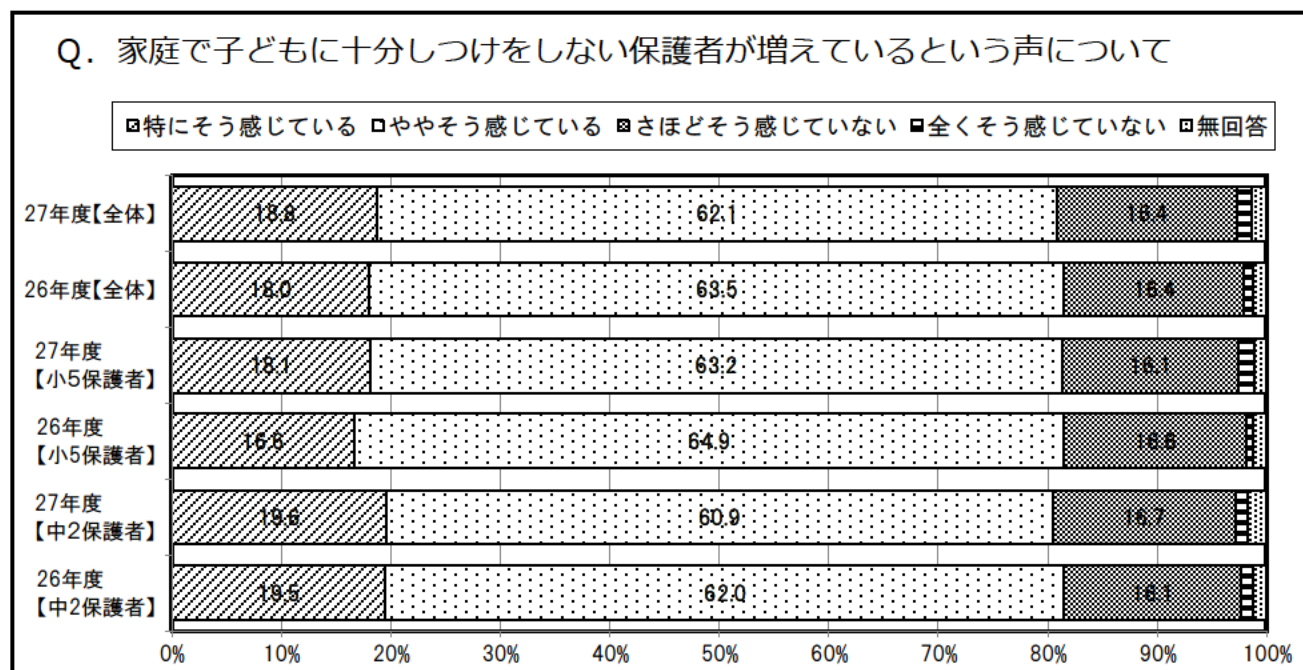
- 子育てについての悩みや不安があるかという問いに対し、27年度では、3分の2の保護者が、悩みや不安があると回答している。



資料：公益社団法人日本PTA全国協議会「平成27年度教育に関する保護者の意識調査報告書」

2-4-4 家庭でのしつけについての保護者の意識（全国）

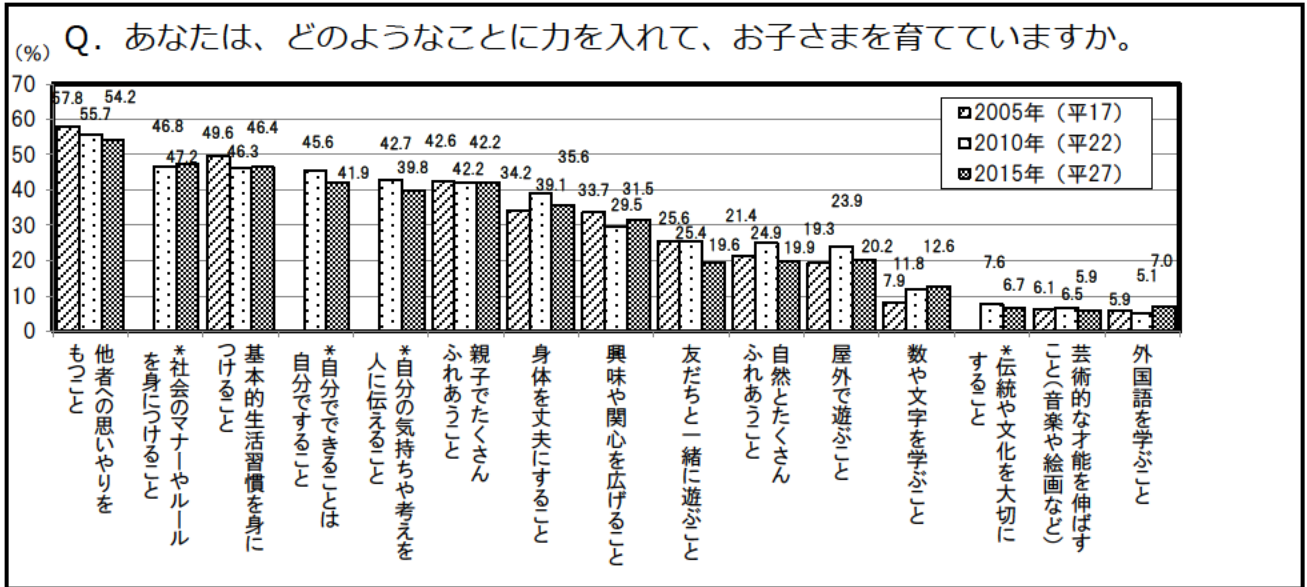
- 8割の保護者が、「家庭で子どもに十分しつけをしない保護者が増えている」と感じている。



資料：公益社団法人日本PTA全国協議会「平成27年度教育に関する保護者の意識調査報告書」

2-4-5 母親が子育てで力を入れていること（首都圏）

- 子育てで、他者への思いやり、社会性や生活習慣に力を入れる割合が上位となる傾向にある。「友だちと一緒に遊ぶこと」「自然とたくさんふれあうこと」「屋外で遊ぶこと」の割合が5年前と比べ減少している。



資料：ベネッセ教育総合研究所「第5回幼児の生活アンケート」から作成

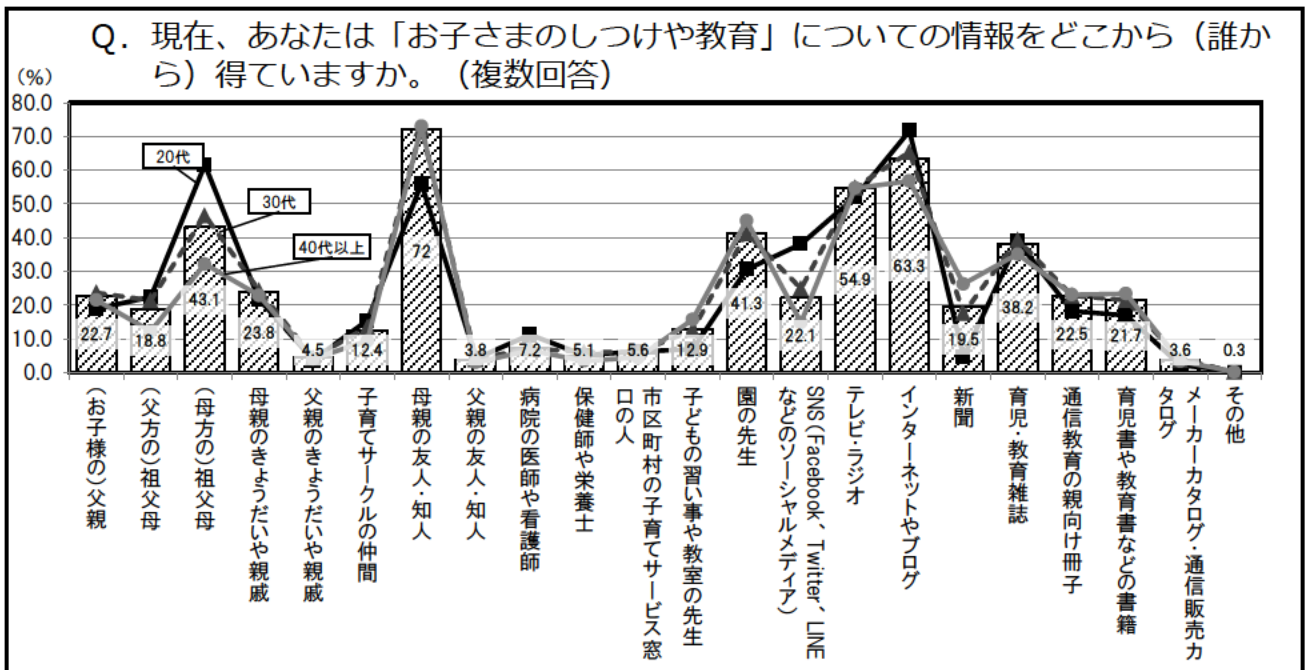
※「とても力を入れている」の%

※乳幼児の子どもをもつ母親の回答のみ分析。

※「*」は2010年調査、2015年調査のみの項目

2-4-6 母親の「しつけや教育」の情報源（首都圏）

- しつけや教育の情報源として、多い順に「母親の友人・知人」、「インターネットやブログ」、「テレビ・ラジオ」、「(母方の)祖父母」、「園の先生」となっている。20代の母親は40代以上の母親に比べて、「SNS」、「インターネットやブログ」から情報を得る比率が高い。



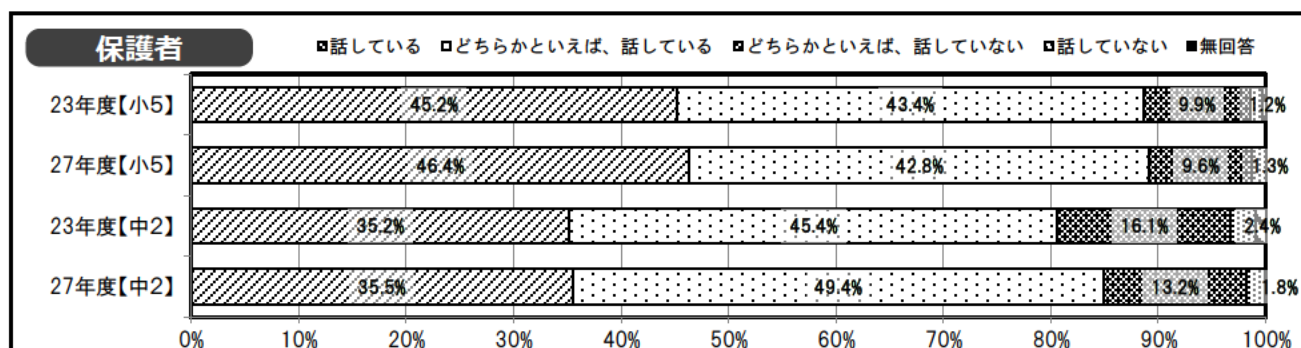
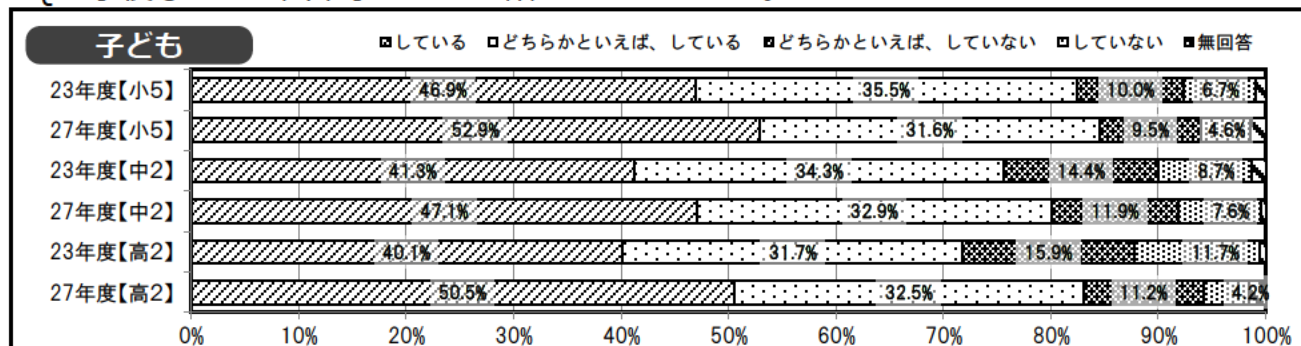
資料：ベネッセ教育総合研究所「第5回幼児の生活アンケート」から作成

※乳幼児の子どもをもつ母親の回答のみ分析(2015年)。

2-4-7 学校などでの出来事についての家族との会話（三重県）

- 学校などでの出来事について、家族で話を「している」「どちらかといえば、している」と答えた子ども、保護者はともに80%以上となり増加している。

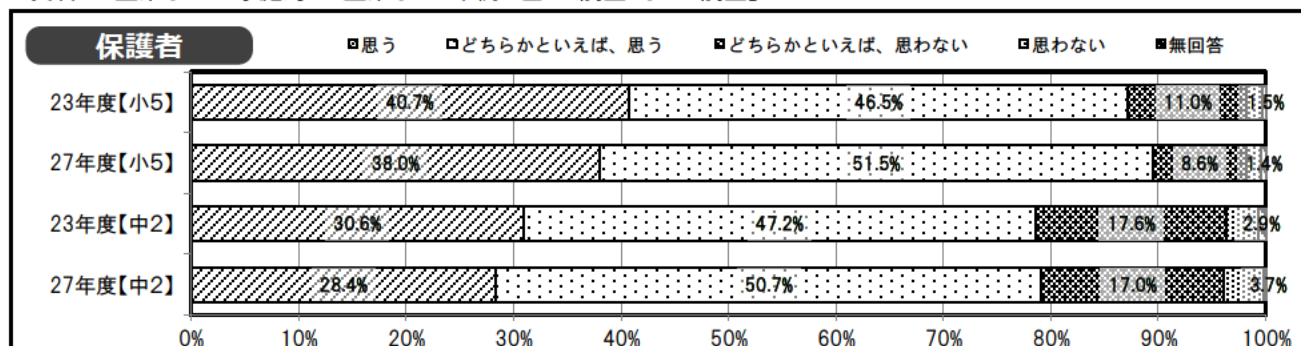
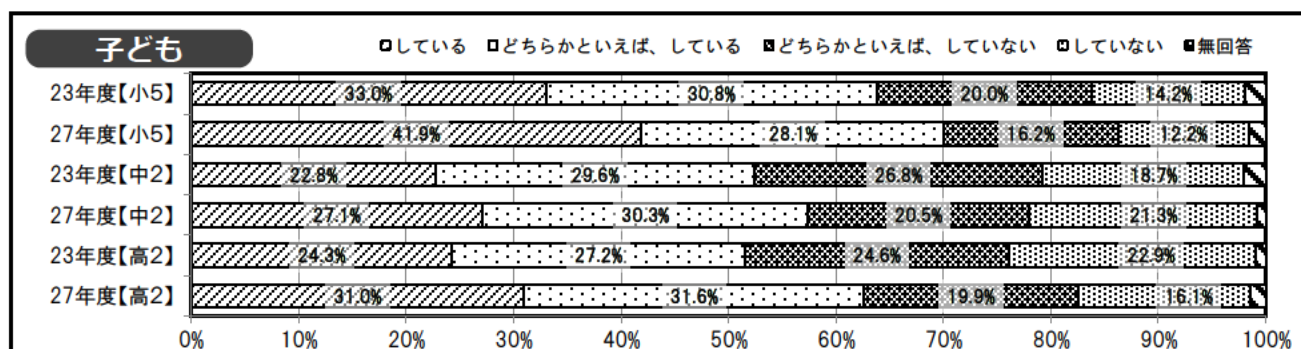
Q. 学校などでの出来事について話をしていますか。



2-4-8 困ったことや悩みについての家族との会話（三重県）

- 「困ったことや悩み」を家の人に話す子どもは増えているが、保護者が思っているほどには相談していない。

Q. 困ったことや悩みについて保護者に相談をしていますか(されていると思いますか。)



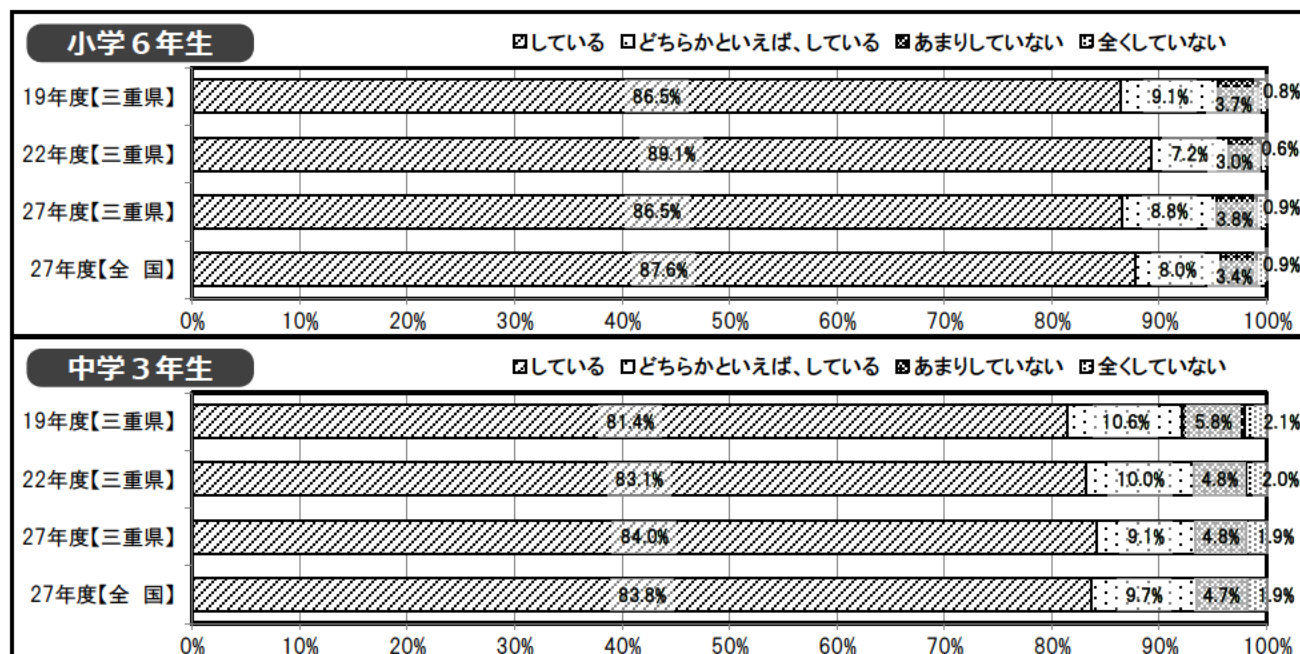
3 子どもの育ちをめぐる状況

3-1 生活習慣

3-1-1 朝食の摂取状況（三重県・全国）

●約7人に1人が毎日朝食を食べていない。

「朝食を毎日食べていますか」への回答では、毎日食べているとする小学生は86.5%と全国より低く、中学生は84.0%と全国とほぼ同じ。

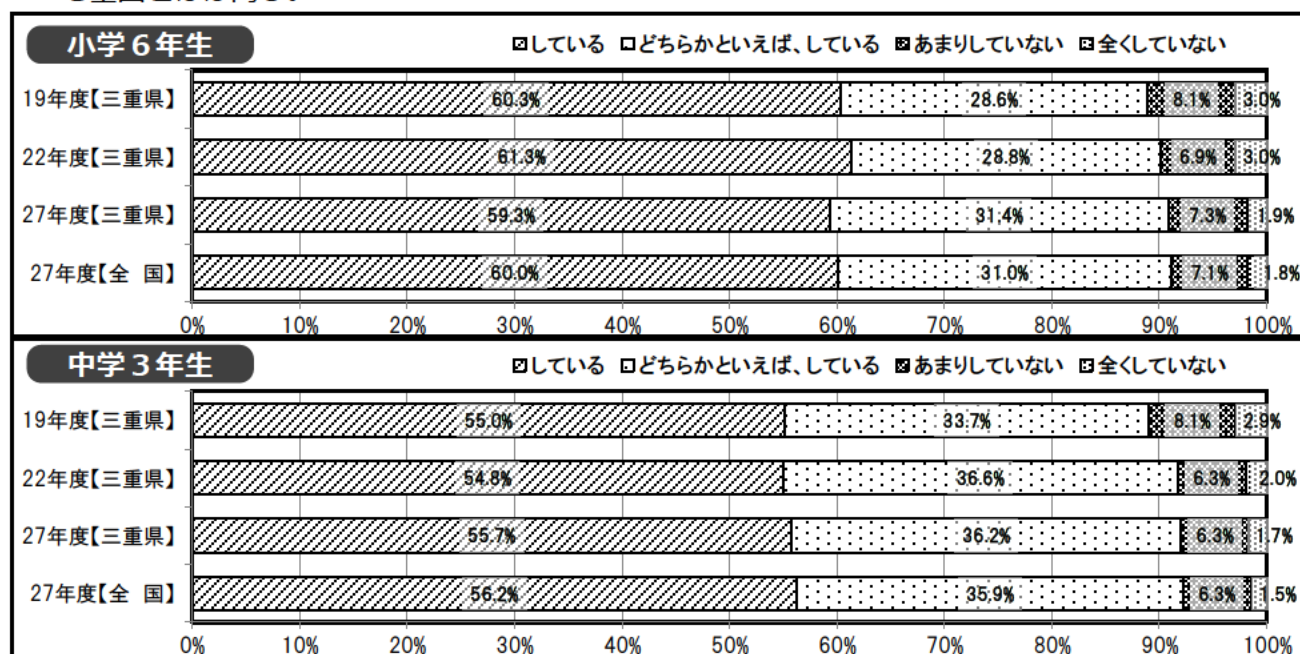


資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-1-2 起床の習慣（三重県・全国）

●毎日、同じくらいの時刻に起きている子どもは半数以上。

「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」への回答では、肯定的な回答は小学校、中学校とも全国とほぼ同じ。

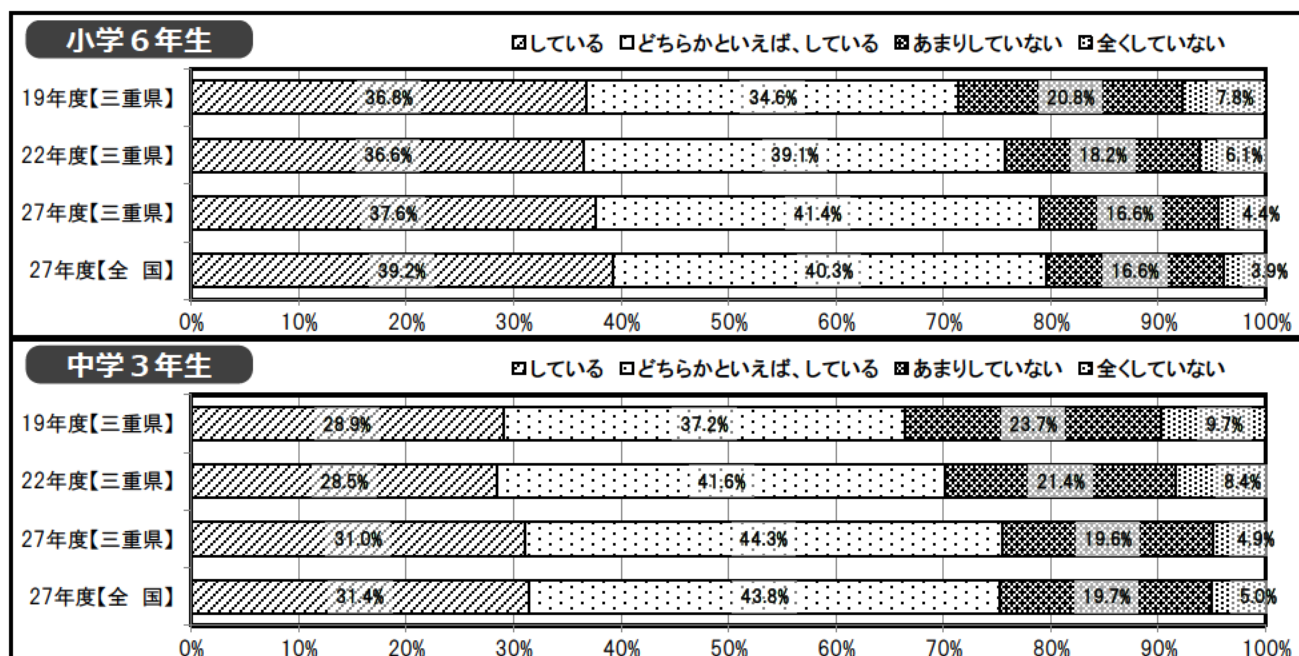


資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-1-3 就寝の習慣（三重県・全国）

- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている子どもは40%未満。

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」かについての回答では、毎日同じくらいの時刻に寝ている小学生は37.6%と全国より低く、中学生は31.0%と全国とほぼ同じ。

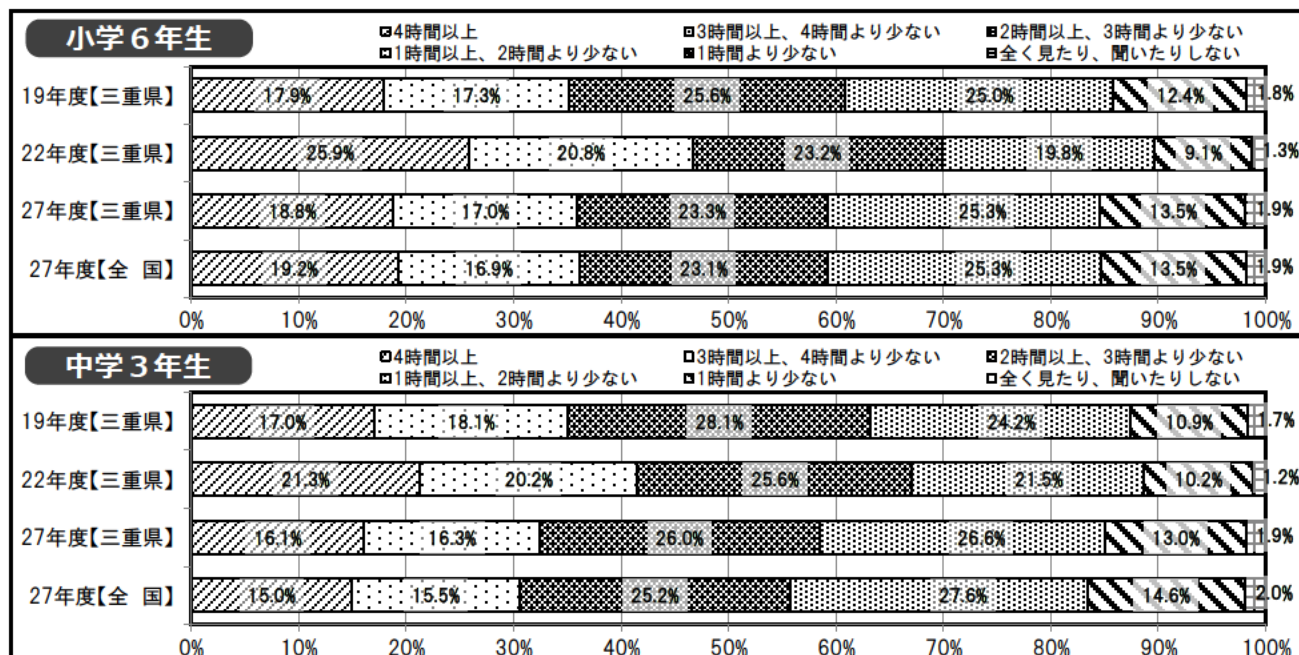


資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-1-4 テレビ等の鑑賞時間（三重県・全国）

- テレビやビデオ・DVDを見る時間は、小学生、中学生ともに「1時間以上、2時間より少ない」が最も多い。

普段（月～金曜日）に1日あたりにテレビやビデオ・DVDを見る時間は、小学生、中学生ともに「1時間以上、2時間より少ない」がそれぞれ25.3%、26.6%と最も多くなっている。

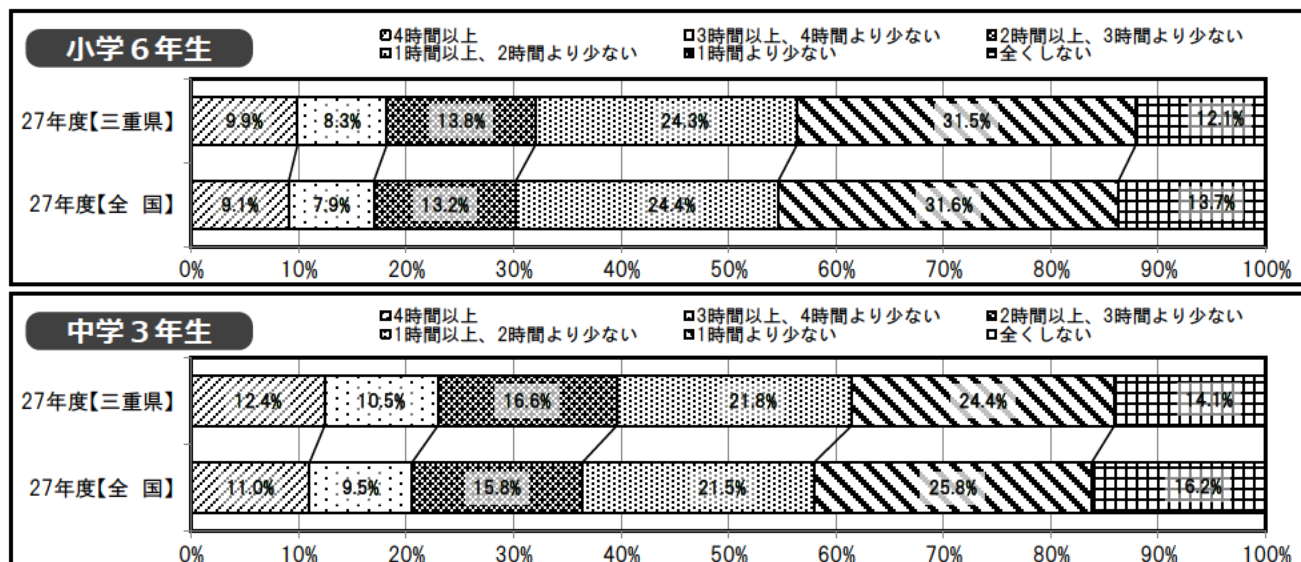


資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-1-5 ゲームをする時間（三重県・全国）

●ゲームをする時間は全国平均よりも長い。

「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」という質問に対して、「1時間より少ない」と答えた小学生の割合は31.5%、中学生は24.4%となっている。また、「4時間以上」と答えた割合は、小学生・中学生ともに全国より高い。

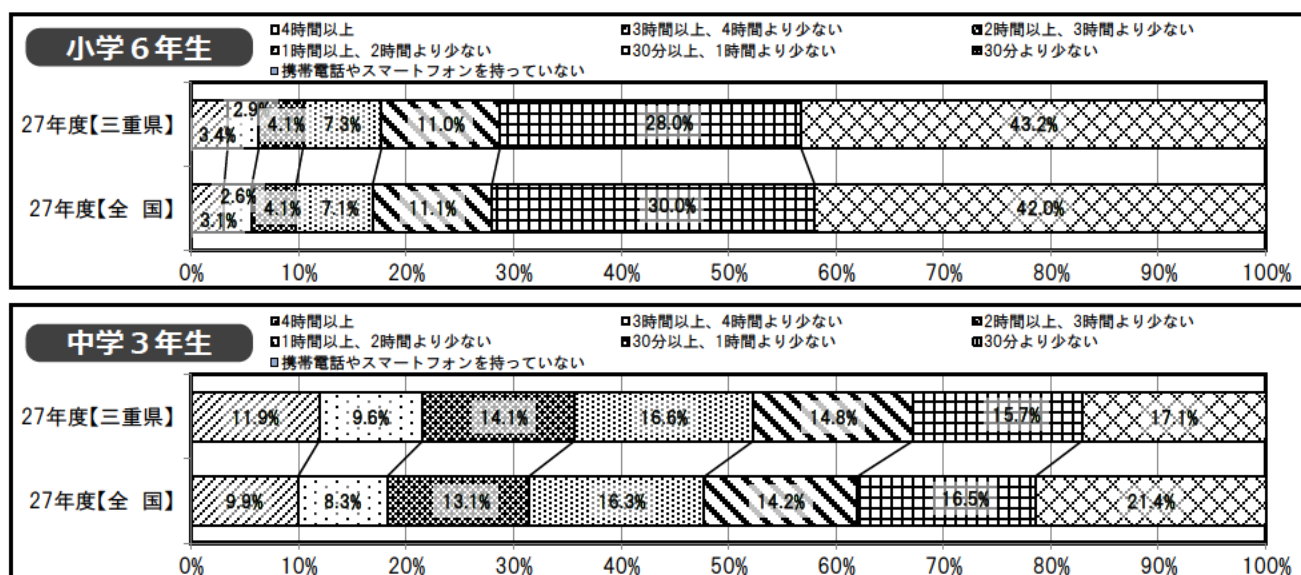


資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-1-6 携帯電話やスマートフォンの使用状況（三重県・全国）

●中学生は携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が全国より長い。

「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（ゲームは除く）」という質問に対して、「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と答えた小学生の割合は43.2%、中学生は17.1%で、中学生は全国より4.3%ポイント低い。また、「3時間以上」と答えた中学生の割合は全国より高い。



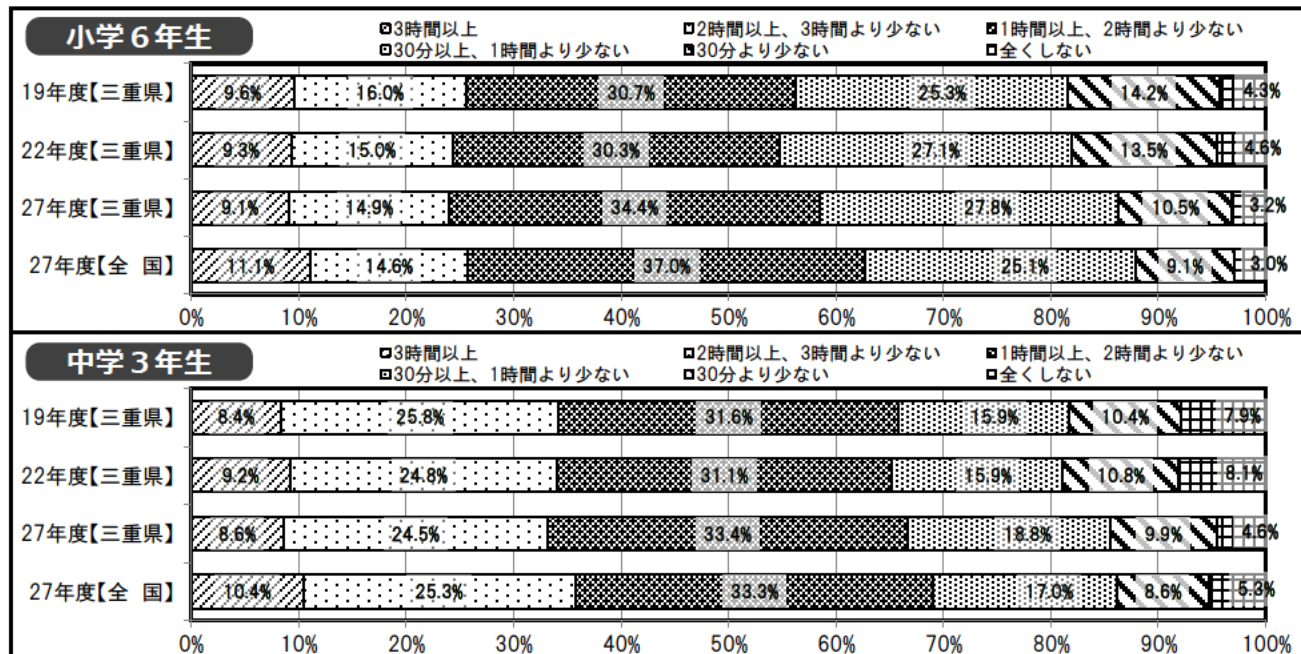
資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-2 学習習慣

3-2-1 自宅での勉強時間（三重県・全国）

- 小学生、中学生ともに学校の授業以外で1時間以上勉強する割合は全国より低い。

「学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾や家庭教師による勉強時間を含む）」という質問に対して、「1時間以上、2時間より少ない」と答えた小学生が34.4%、中学生が33.4%と最も多い。「1時間以上」の割合は、小学生・中学生ともに全国より低くなっている。

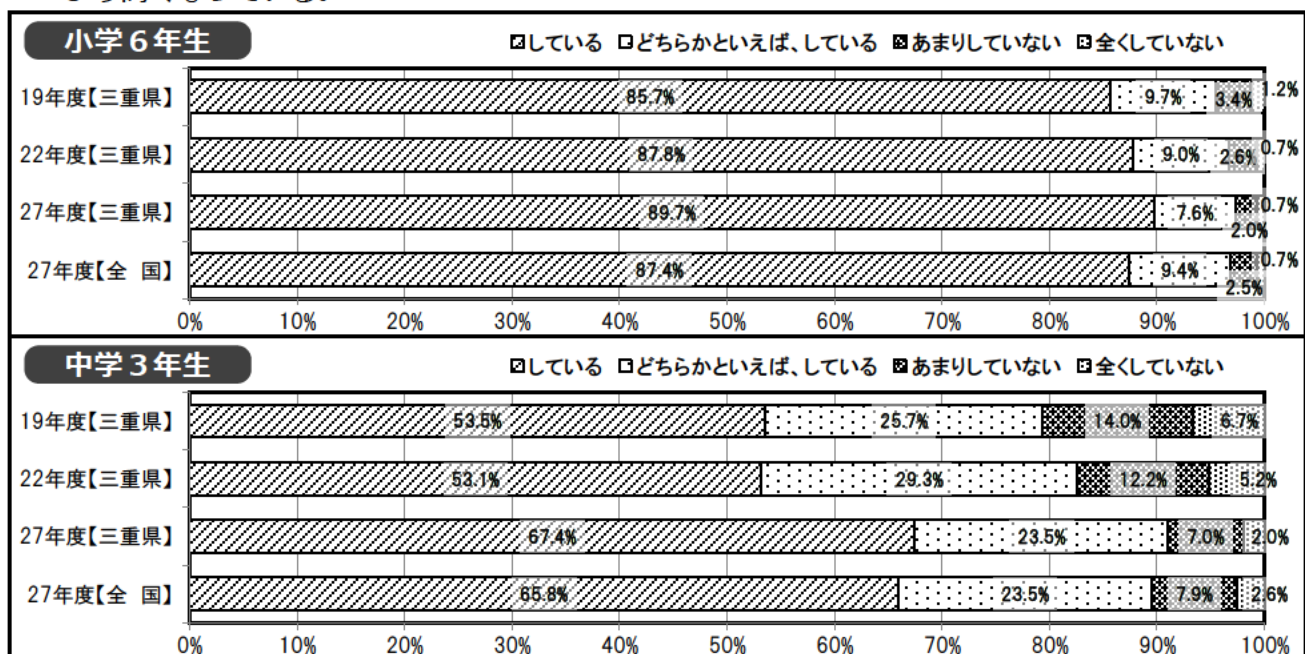


資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-2-2 自宅での宿題（三重県・全国）

- 家で、学校の宿題をしている小学生は80%以上、中学生は60%以上。

家で、学校の宿題を「している」小学生は89.7%、中学生は67.4%となっており、ともに全国より高くなっている。

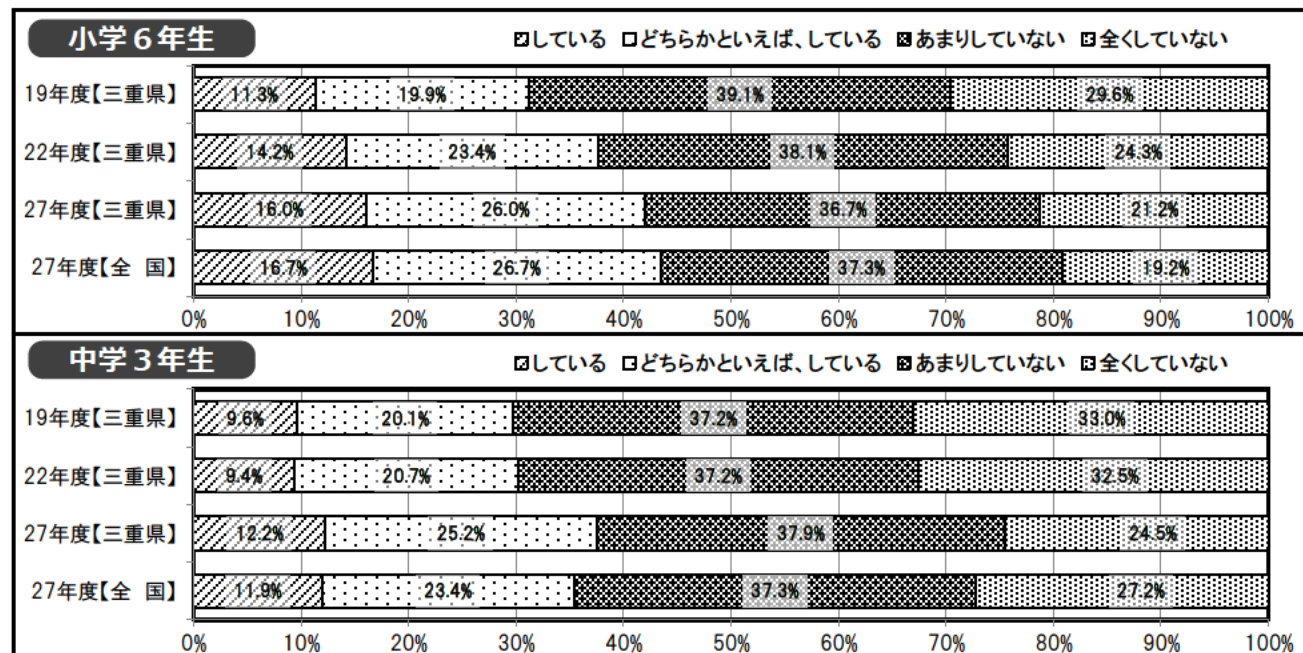


資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-2-3 自宅での予習状況（三重県・全国）

●家で予習をしている子どもは増加傾向にある。

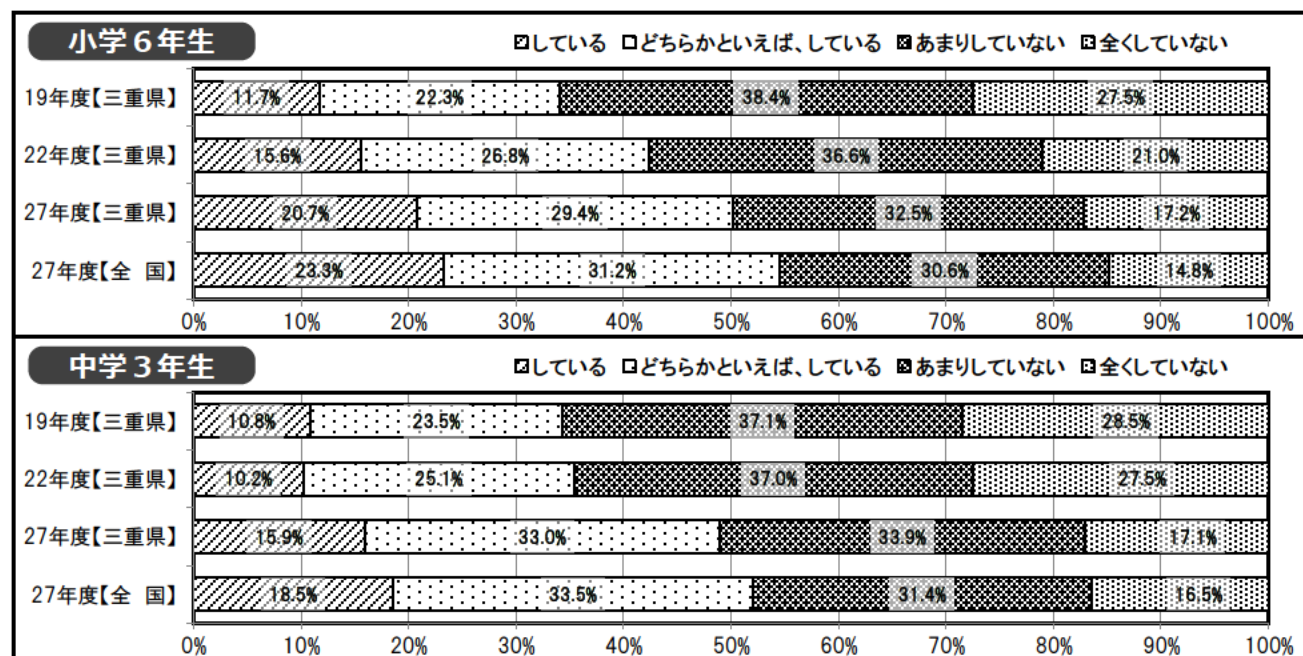
家で予習を「している」「どちらかといえば、している」小学生は42.0%、中学生は37.4%で、小学生は全国より低くなっているが、ともに22年度より増えている。



3-2-4 自宅での復習状況（三重県・全国）

●家で復習をしている子どもは増加傾向にある。

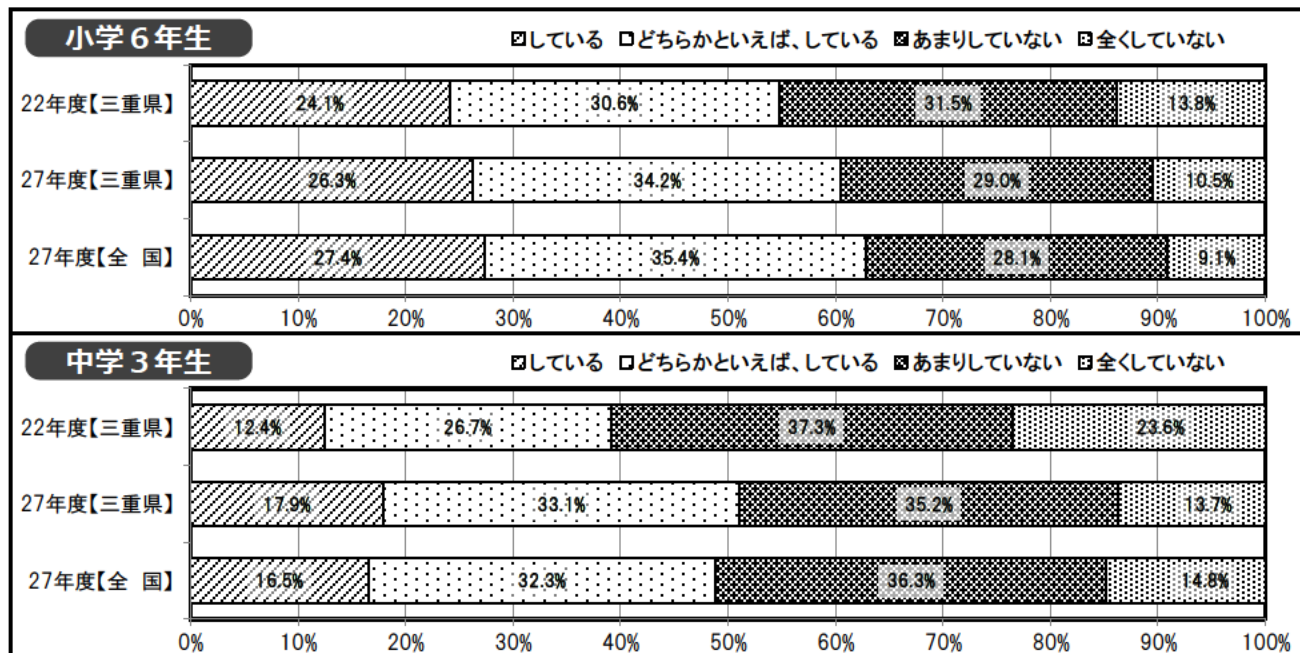
家で復習を「している」「どちらかといえば、している」小学生は50.1%、中学生は48.9%で、ともに全国より低くなっているが、22年度より増えている。



3-2-5 勉強の計画性（三重県・全国）

●家で、自分で計画を立てて勉強している子どもは22年度より増えている。

家で、自分で計画を立てて勉強を「している」、「どちらかといえば、している」小学生は60.5%、中学生は51.0%となっており、ともに22年度よりも増えている。

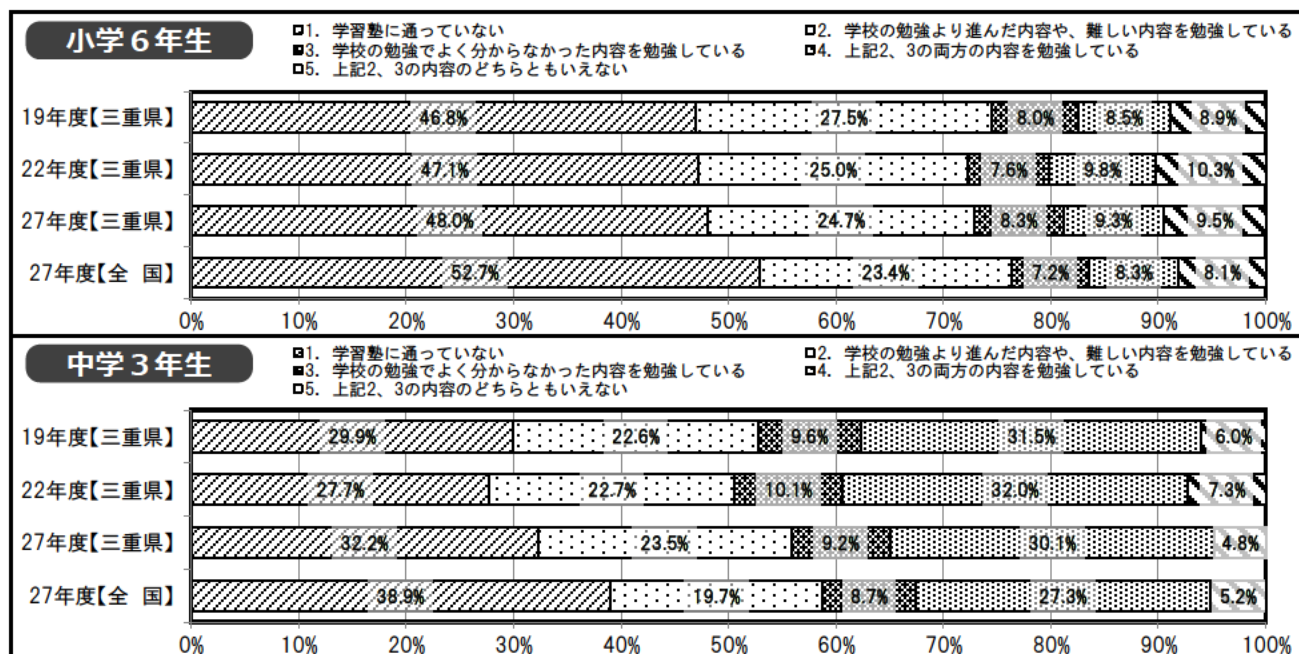


資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-2-6 塾などでの学習（三重県・全国）

●小学生の50%以上、中学生の約70%が塾に通い、その割合は全国よりも高い。

学習塾に通っている小学生の割合は51.8%、中学生は67.6%で、小学生・中学生ともに全国より高くなっている。

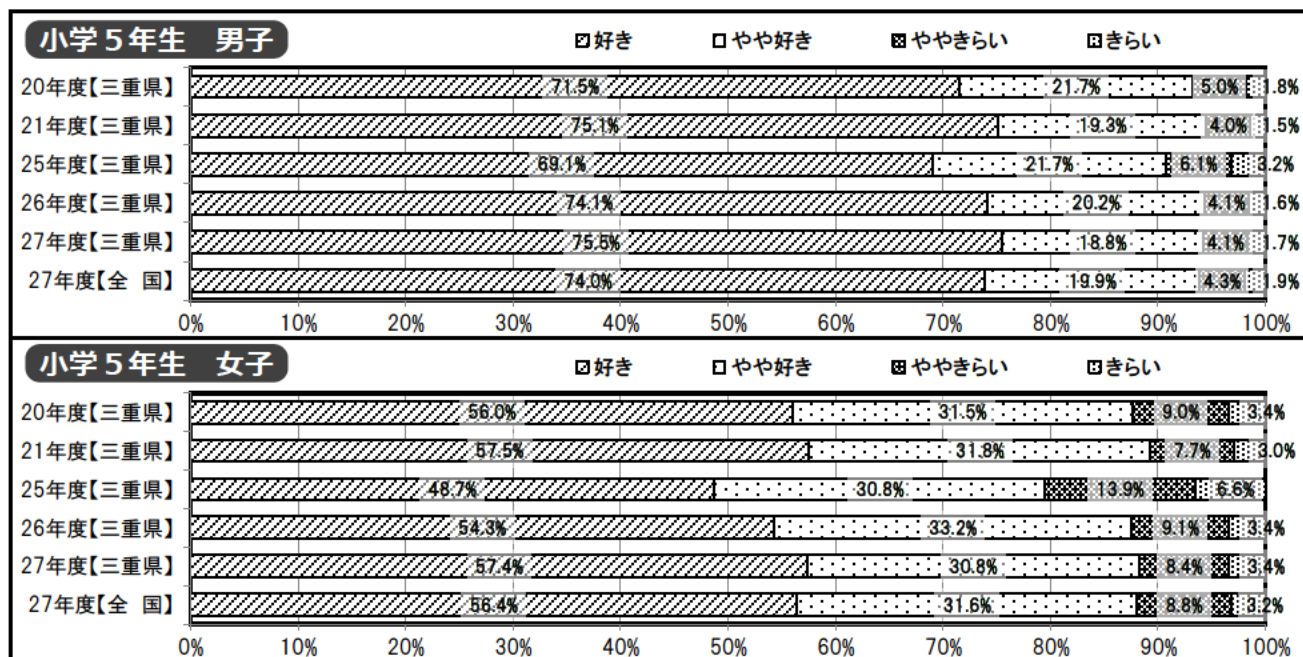


資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-3 運動習慣

3-3-1 運動やスポーツの好き・きらいの推移（三重県・全国）

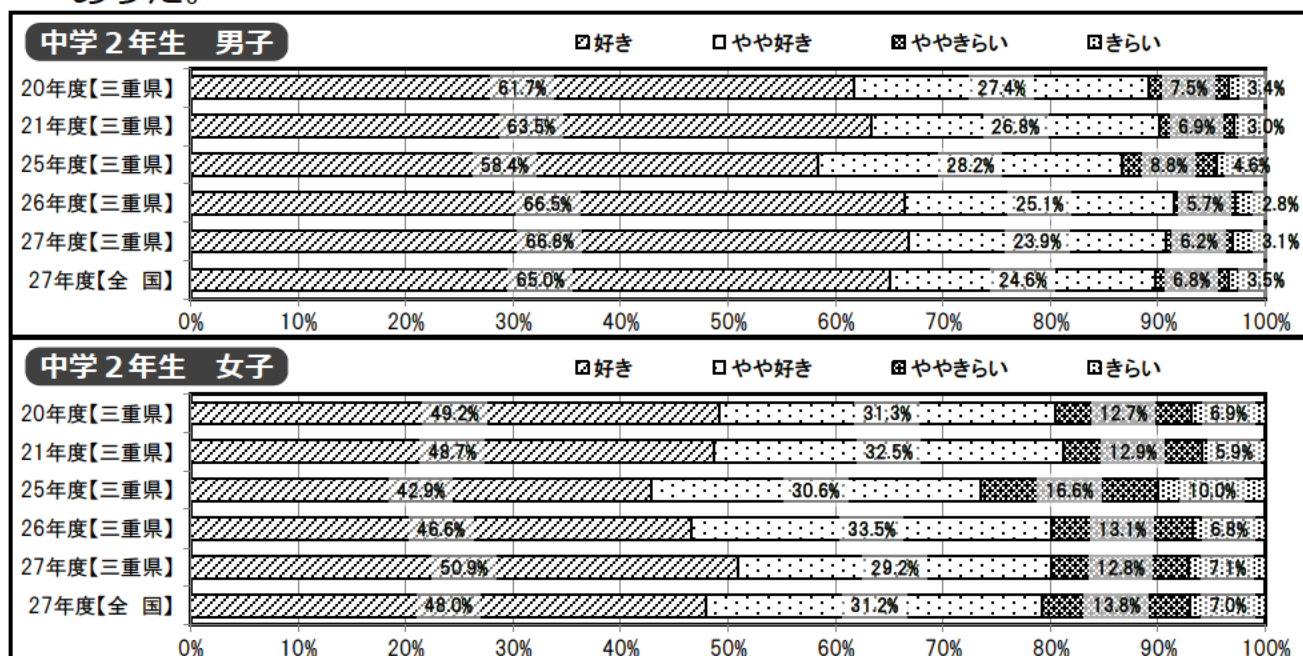
- 小学生では、運動やスポーツが「好き」と答えた児童の割合は、男子で75.5%であり、20年度以降最も高い数値であった。女子は、57.4%であり、26年度に比べ高くなった。



資料：文部科学省「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

※平成22・24年度は抽出調査、平成23年度は東日本大震災の影響で調査が中止されたため、除外しています。

- 中学生では、運動やスポーツが「好き」と答えた生徒の割合は、男子で66.8%、女子で50.9%であり、男女とも20年度以降最も高い数値であった。

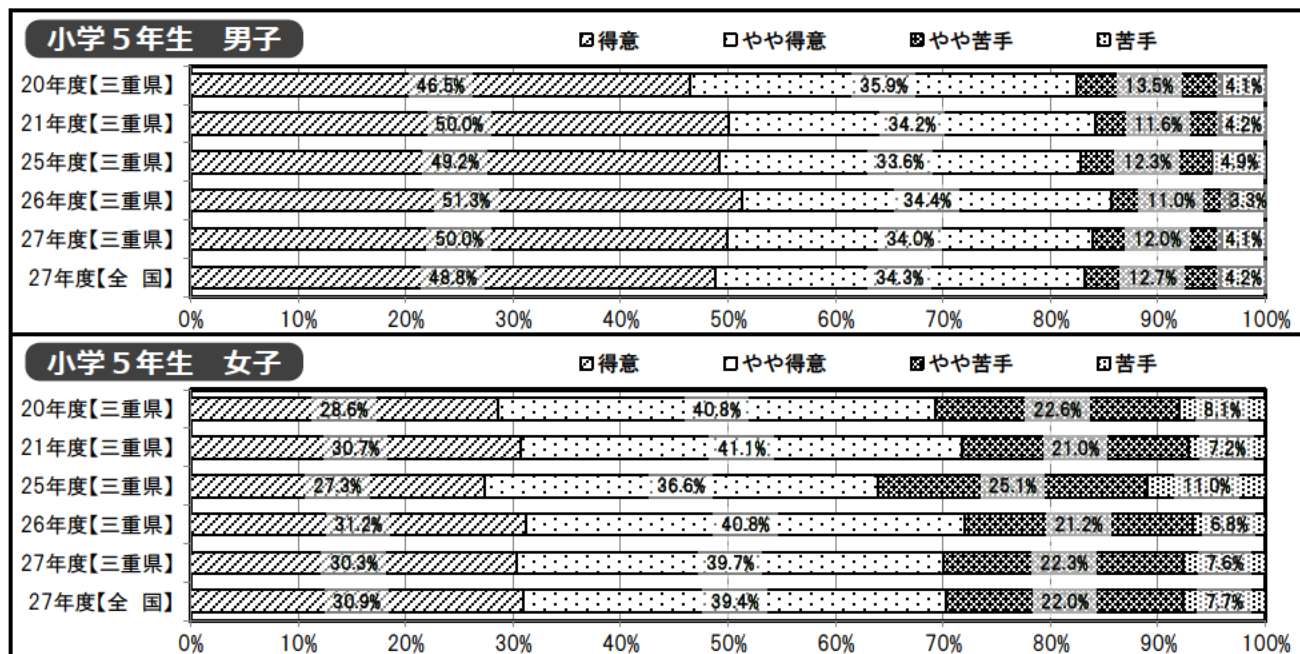


資料：文部科学省「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

※平成22・24年度は抽出調査、平成23年度は東日本大震災の影響で調査が中止されたため、除外しています。

3-3-2 運動やスポーツの得意・苦手の推移（三重県・全国）

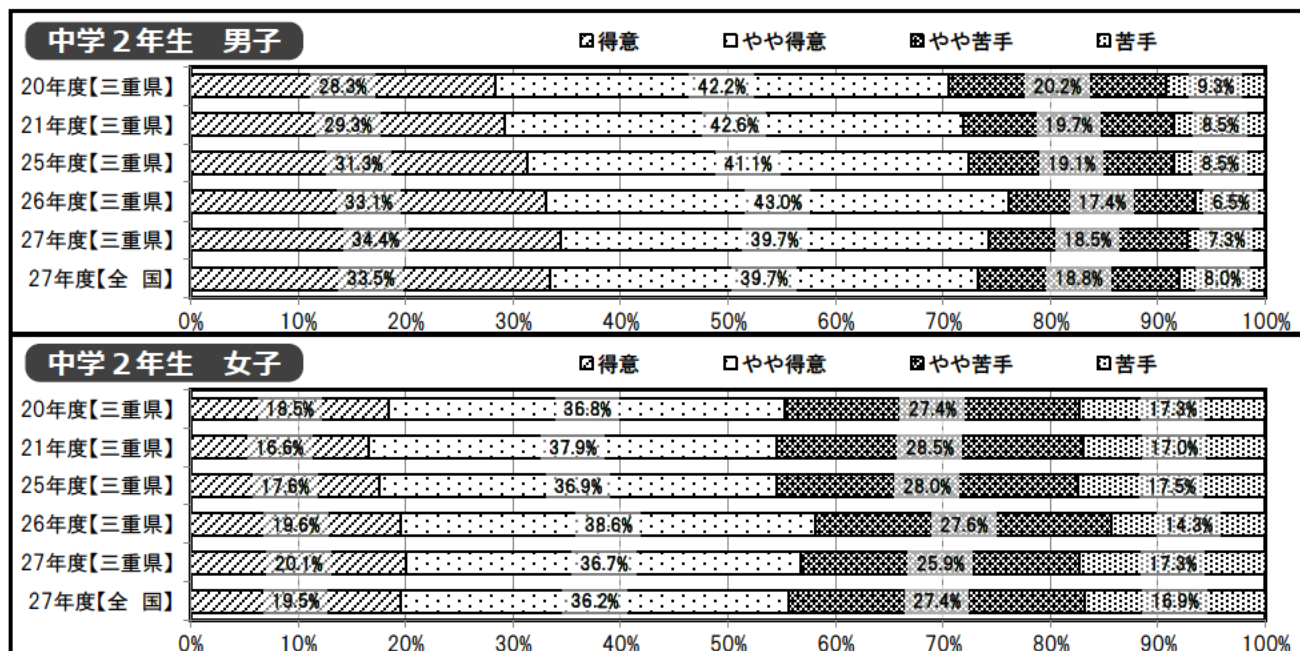
- 小学生では、運動やスポーツをすることが「得意」と答えた児童の割合は、男女とも、26年度と比較して、わずかに下がった。ただし、「得意」「やや得意」の合計では、26年度と比べ、男子はわずかに下がり、女子は下がった。



資料：文部科学省「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

※平成22・24年度は抽出調査、平成23年度は東日本大震災の影響で調査が中止されたため、除外しています。

- 中学生では、運動やスポーツをすることが「得意」と答えた生徒の割合は、男女とも、20年度以降で最も高い数値となった。「得意」「やや得意」の合計では、26年度と比べ、男子は下がり、女子はわずかに下がった。



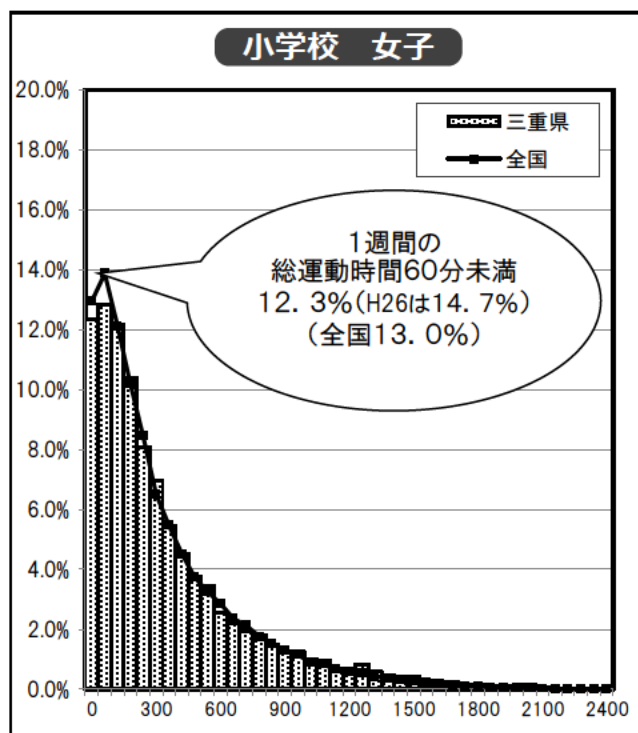
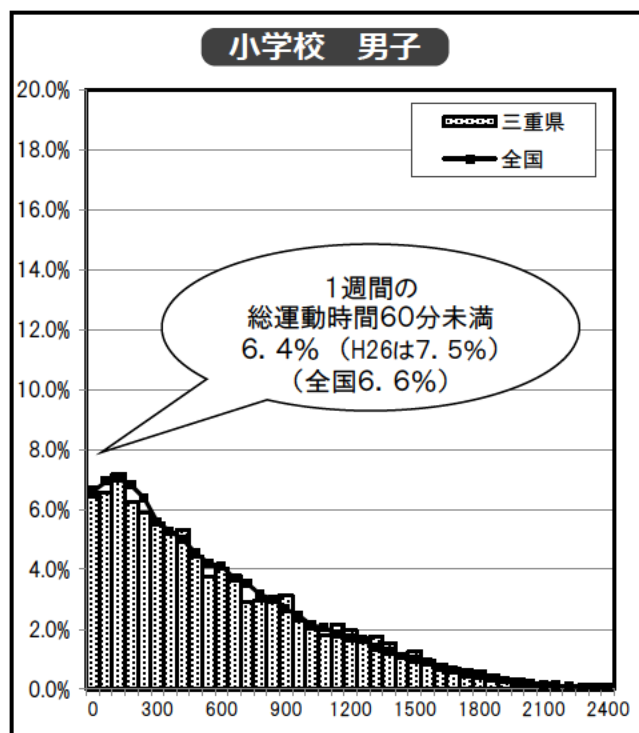
資料：文部科学省「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

※平成22・24年度は抽出調査、平成23年度は東日本大震災の影響で調査が中止されたため、除外しています。

3-3-3 小学5年生の運動習慣（三重県・全国）

【1週間の総運動時間の分布】

1週間の総運動時間の分布では、男子で6.4%、女子で12.3%の児童が、1週間の総運動時間が60分未満であった。26年度と比べ、男子はわずかに減少（H26:7.5%）、女子は減少（H26:14.7%）した。

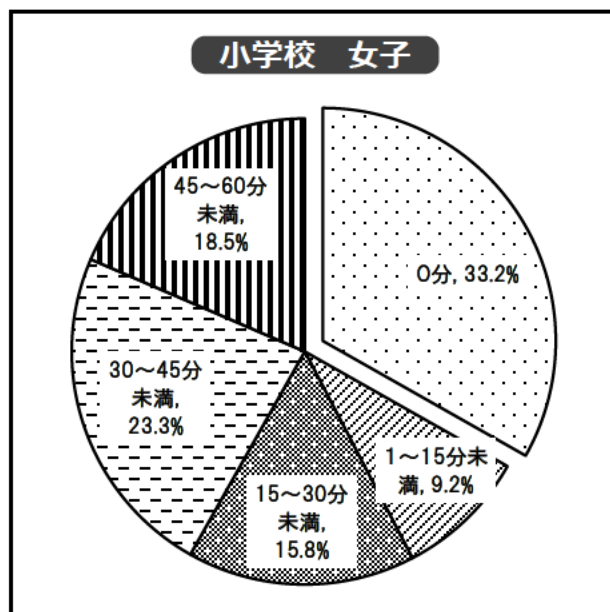
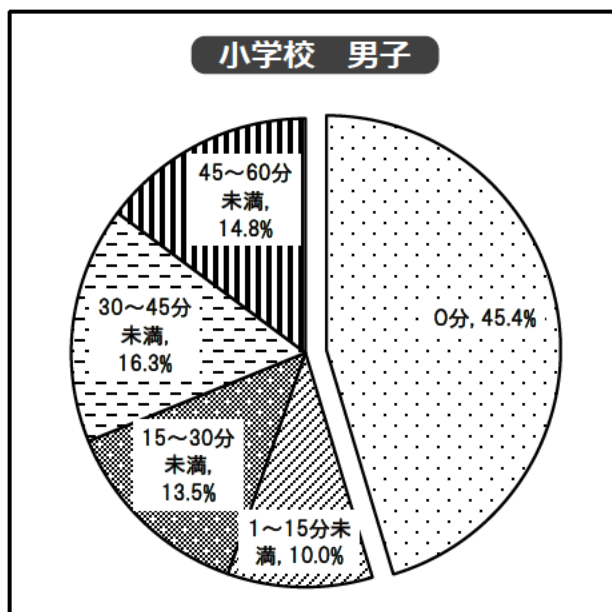


資料:文部科学省「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

【1週間の総運動時間が60分未満の児童の運動時間の内訳】

1週間の総運動時間が60分未満の児童の内訳をみると、総運動時間が0分なのが、男子では45.4%、女子では33.2%であった。

【平成26年度0分の割合 小学校男子47.0% 小学校女子40.3%】

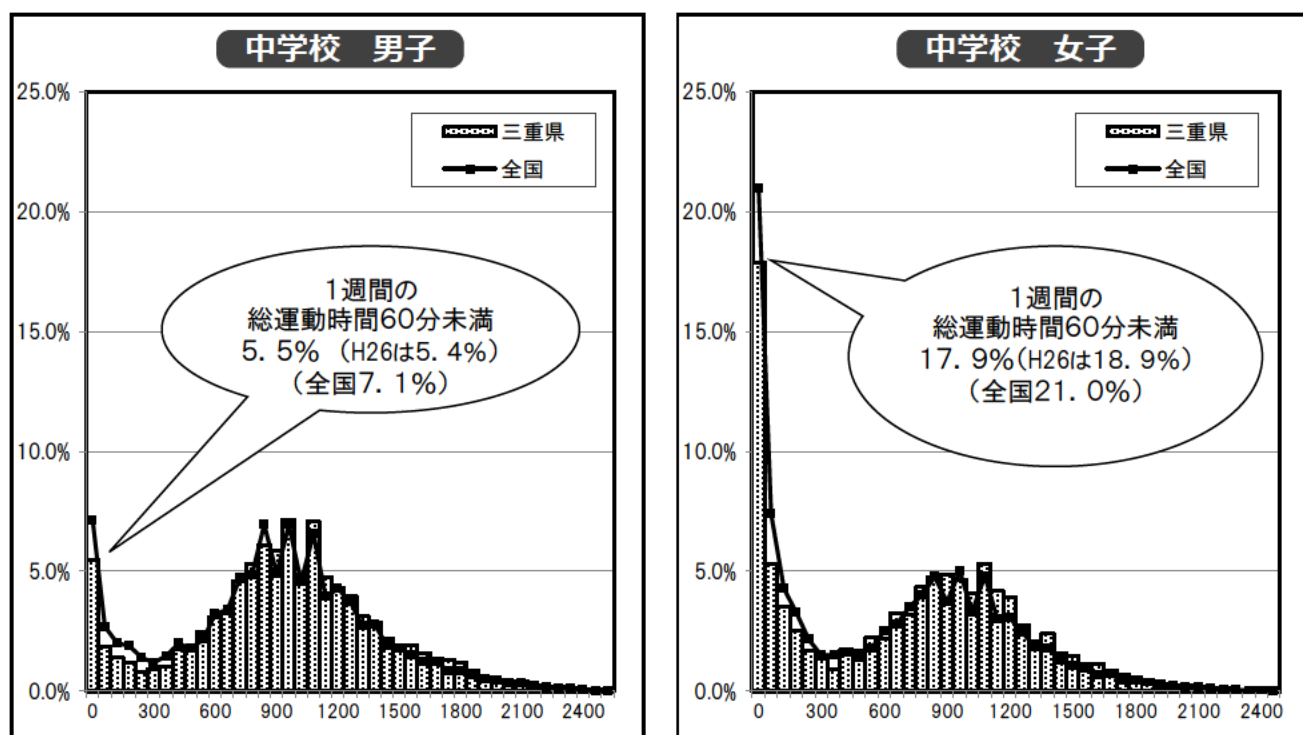


資料:文部科学省「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

3-3-4 中学2年生の運動習慣（三重県・全国）

【1週間の総運動時間の分布】

中学校では、男子で5.5%、女子で18.9%の生徒が、1週間の総運動時間が60分未満であった。26年度と比べ、男子はほとんど変化が見られなかった（H26:5.4%）が、女子はわずかに減少（H26:18.9%）した。運動する生徒としない生徒の二極化がみられる。

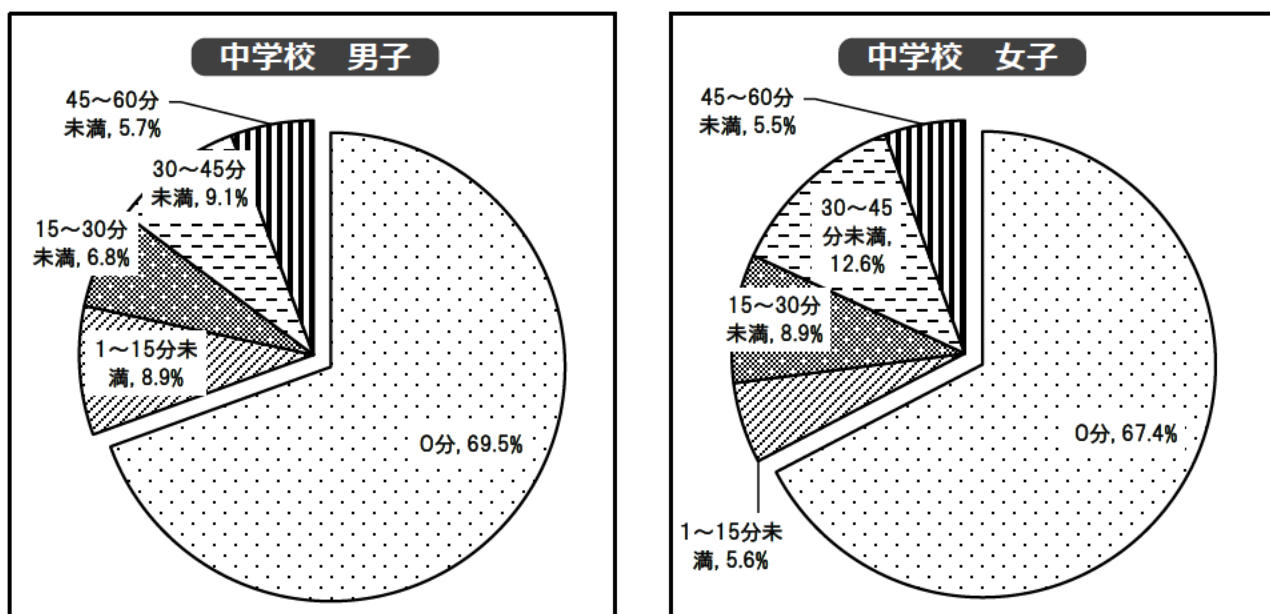


資料：文部科学省「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

【1週間の総運動時間が60分未満の生徒の運動時間の内訳】

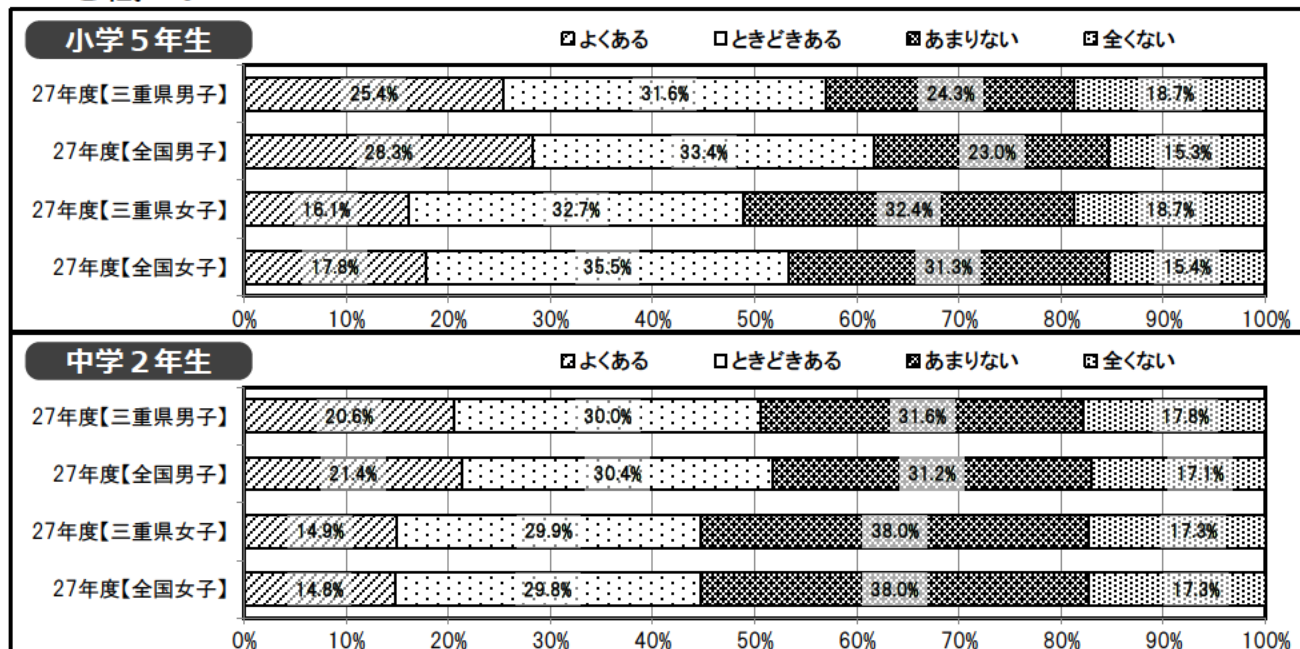
1週間の総運動時間が60分未満の生徒の内訳では、「総運動時間0分」が、男子では69.5%、女子では67.4%であった。26年度と比べ、男子は減少、女子はわずかに減少した。

【平成26年度0分の割合 中学校男子73.6% 中学校女子68.9%】



3-3-5 家族からの運動の勧め（三重県・全国）

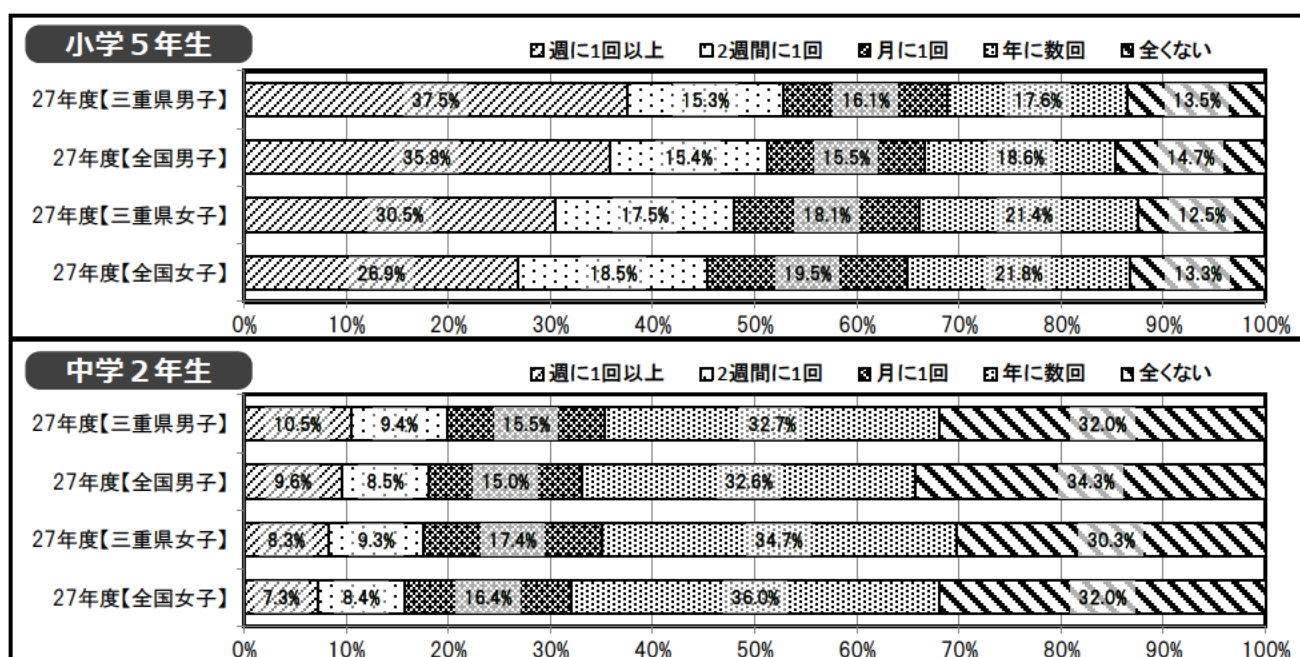
- 「家の人から、運動やスポーツを積極的に行うことを勧められること」が「よくある」「ときどきある」と答えた小学生の割合は全国平均よりも低い。



資料：文部科学省「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

3-3-6 家族との運動（三重県・全国）

- 「家の人といっしょに、運動やスポーツをどのくらいしますか」という質問に対して、「週に1回以上」と答えた小学生・中学生の割合は、ともに全国平均よりも高い。



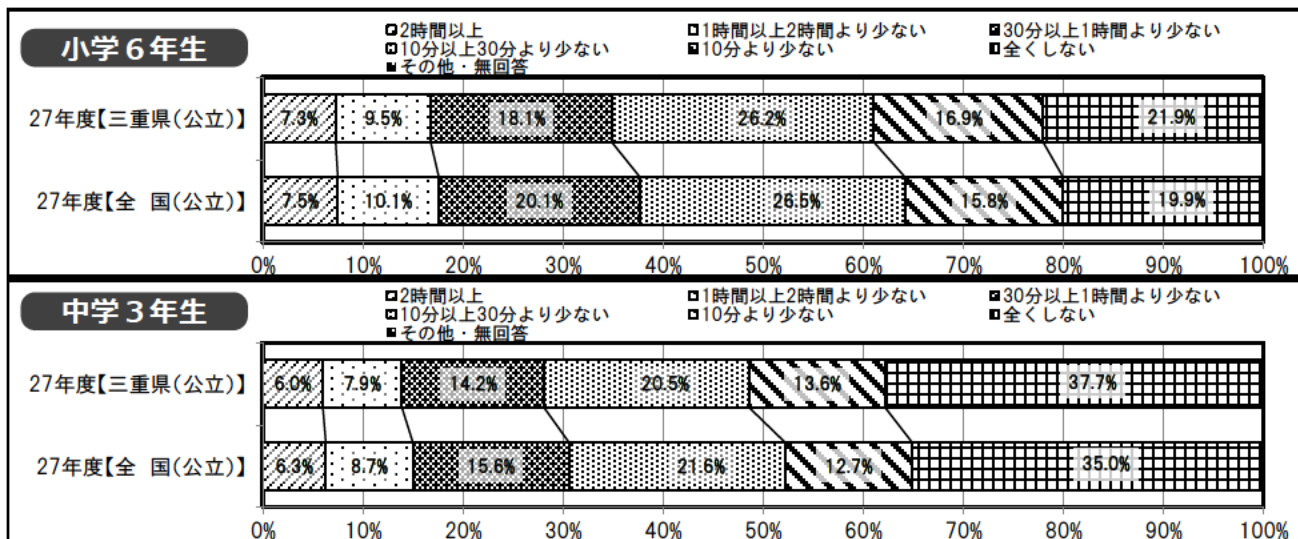
資料：文部科学省「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

3-4 読書習慣

3-4-1 読書習慣（三重県・全国）

●小学6年生では約22%、中学3年生では約38%が全く読書をしていない。

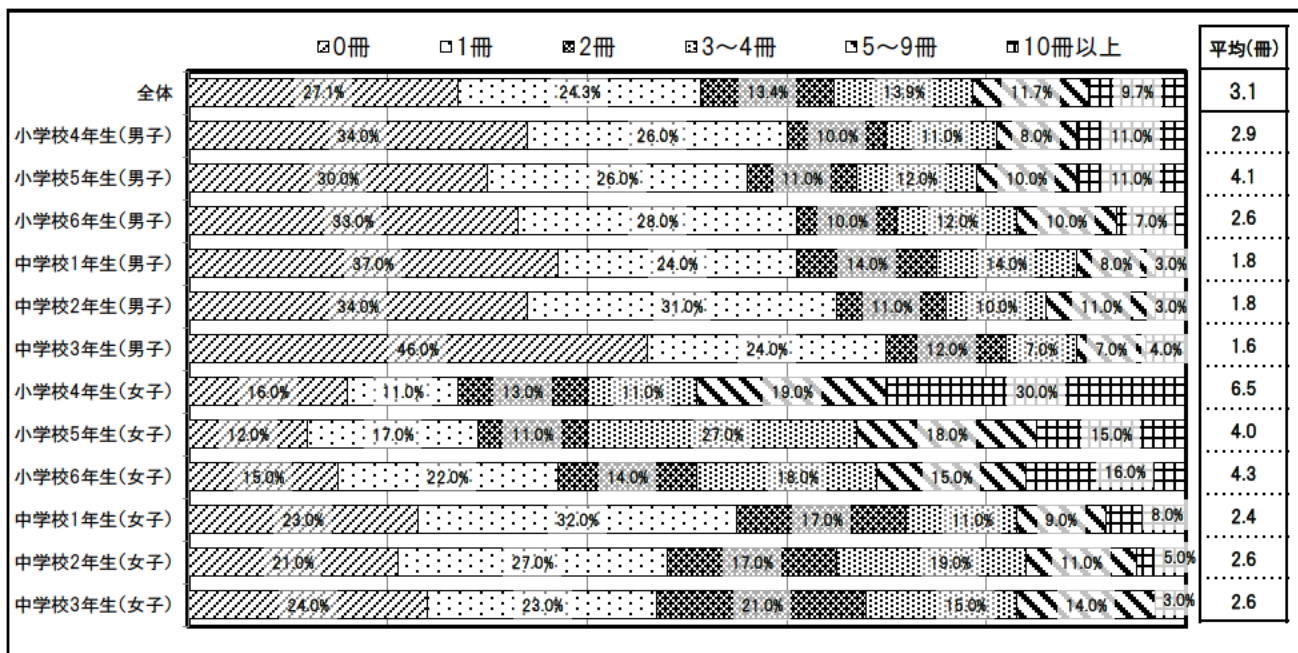
「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という質問に対して、「普段30分以上読書している」と回答した小学6年生、中学3年生の割合は、全国平均より低い。



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-4-2 1ヶ月の読書量（全国）

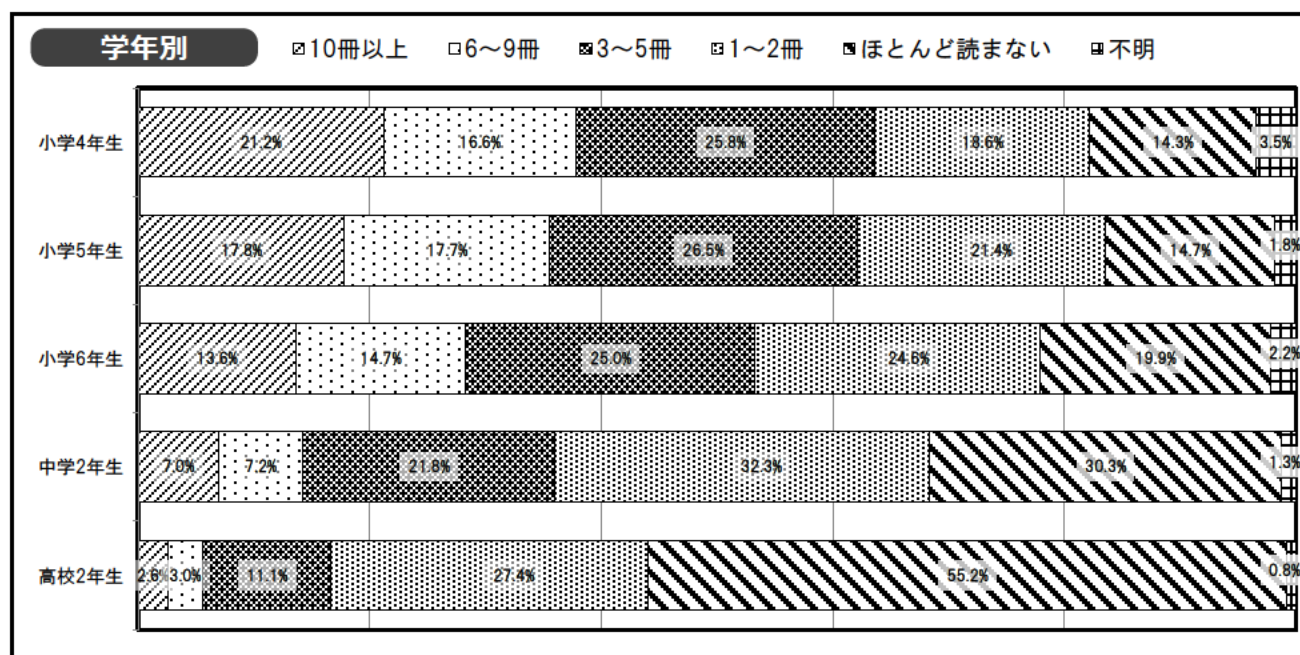
●子どもの1か月の平均読書量は、3.1冊（全体）
1冊も読まない割合は27.1%（全体）



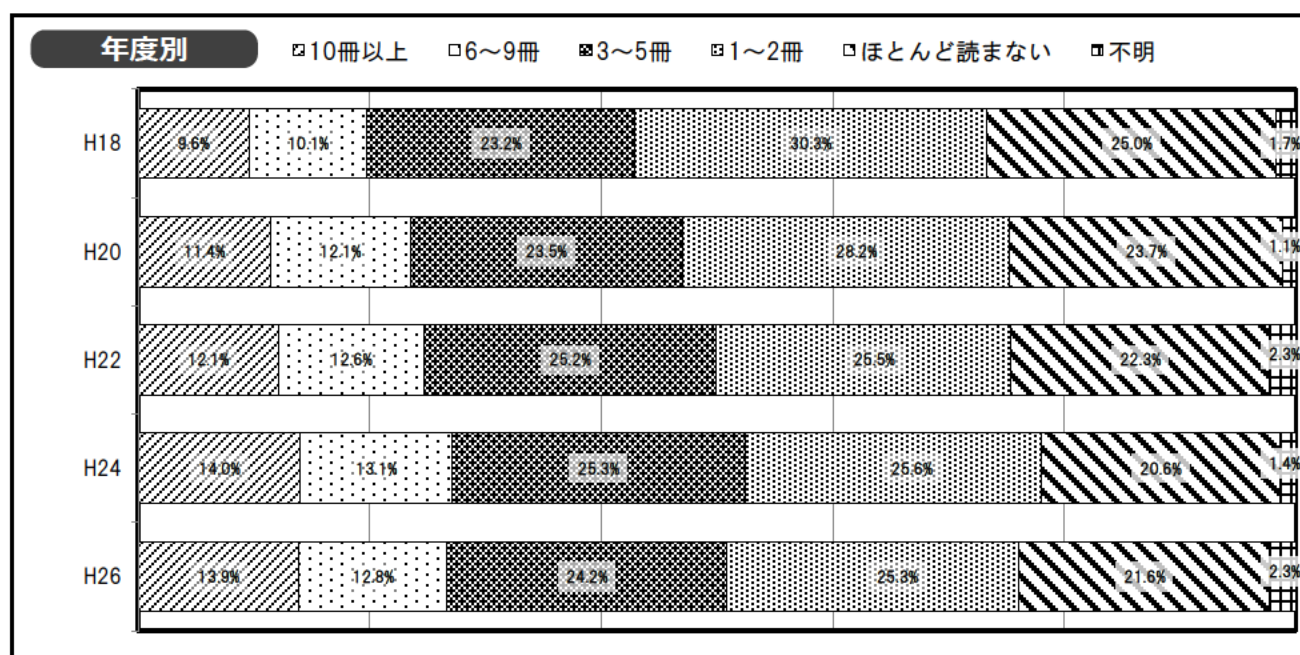
資料：株式会社学研ホールディングス・株式会社講談社「子どもの読書実態調査(2015年3月)」

3-4-3 読書活動の現状と推移（全国）

- 子どもの1か月の読書量は、学年が上がるにつれて少なくなり、高校生では5割以上が「ほとんど読まない」と回答している。
- 年度別では、多少の増減はあるものの、平成18年度から平成26年度にかけてゆるやかな増加傾向がみられる。



資料：国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査(平成26年度調査)」

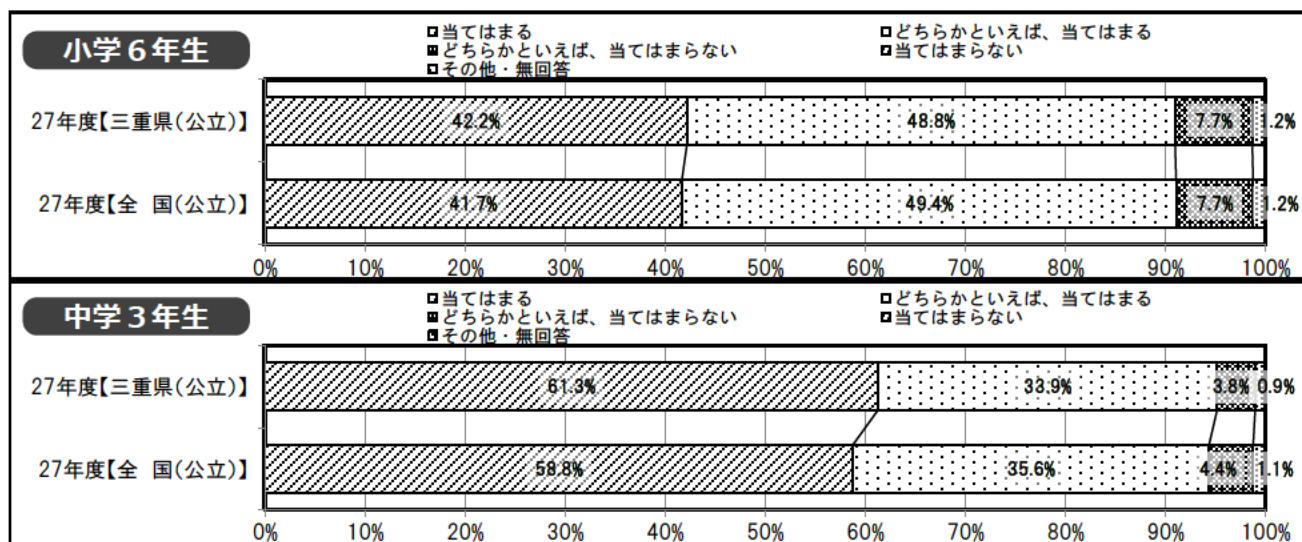


資料：国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査(平成26年度調査)」

3-5 規範意識・道徳心・自尊感情

3-5-1 学校のきまりを守ること（三重県・全国）

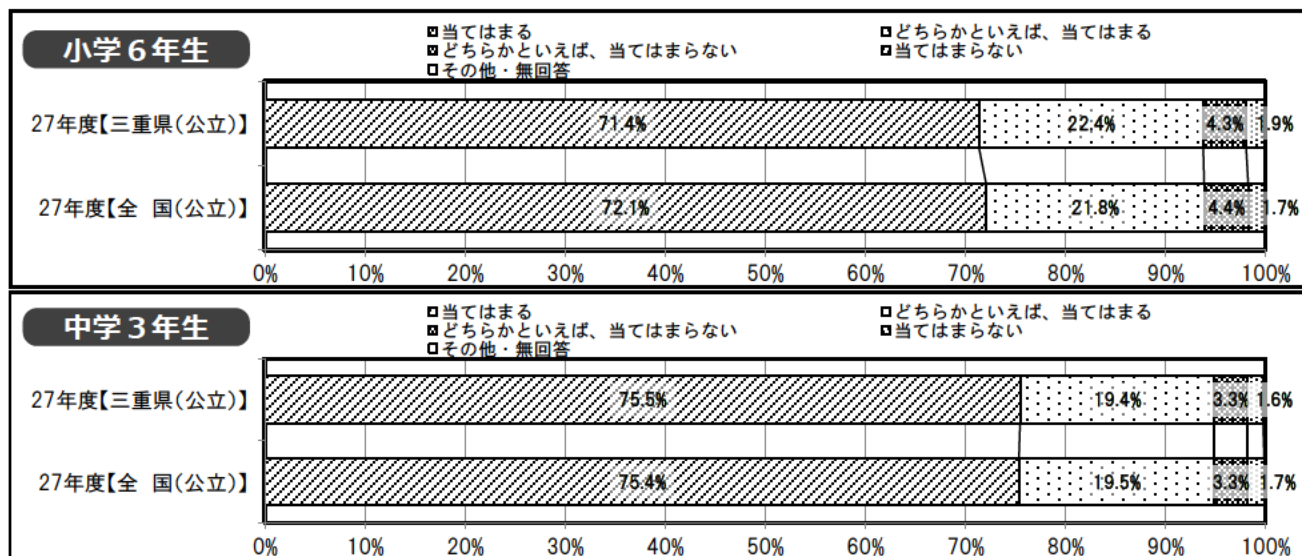
- 「学校のきまりを守っていますか」という質問に対して、「学校のきまり（規則）を守っている」、「どちらかといえば守っている」と肯定的な回答をしている小学6年生の割合は91%で全国平均とほぼ同じ。中学3年生の割合は、約95%で、全国平均より高い。



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-5-2 人の気持ちが変わる人間になりたいという意識（三重県・全国）

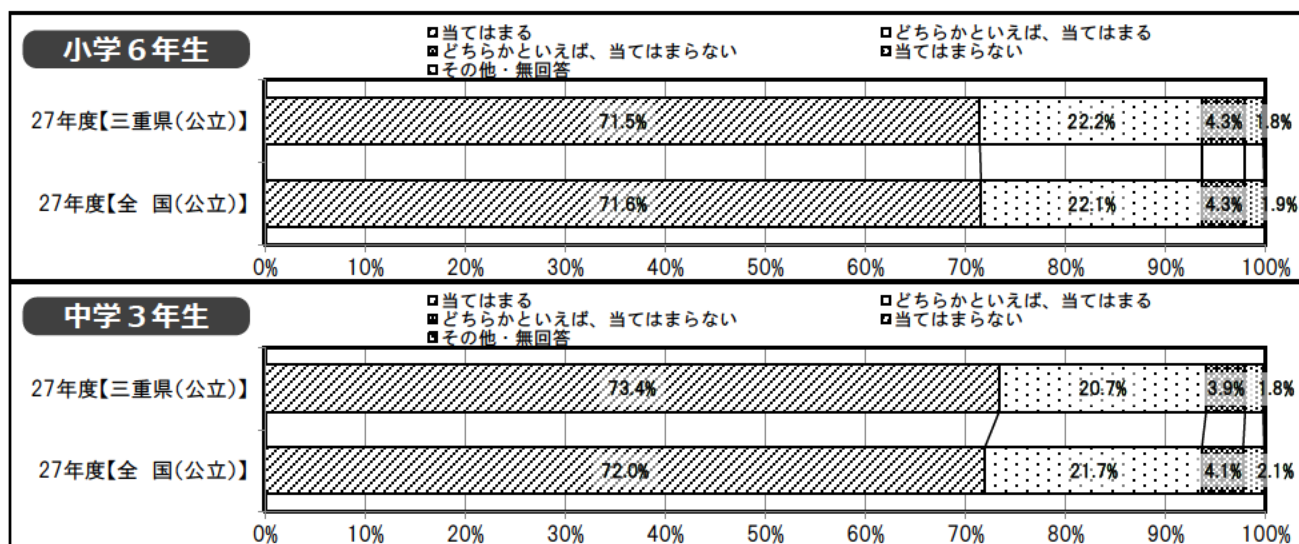
- 「人の気持ちが変わる人間になりたいと思いますか」という質問に対して、「人の気持ちが変わる人間になりたい」、「どちらかといえばなりたい」と肯定的な回答をしている小学6年生、中学3年生の割合は、ともに約95%程度であり、全国平均とほぼ同じ。



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-5-3 人の役に立つ人間になりたいという意識（三重県・全国）

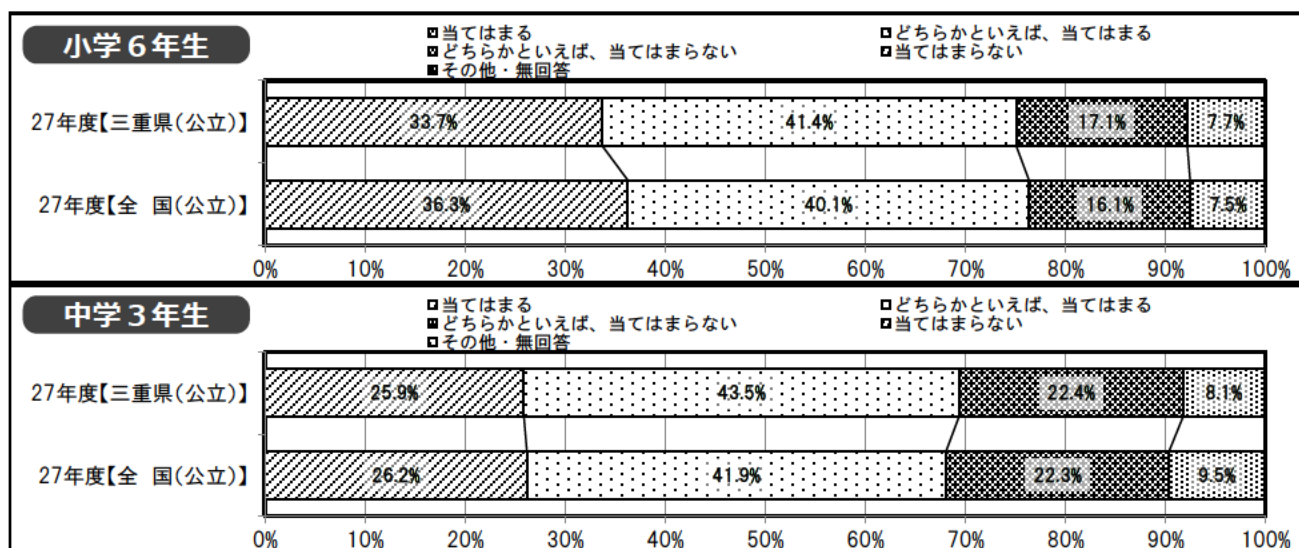
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対して、「人の役に立つ人間になりたい」、「どちらかといえばなりたい」と肯定的な回答をしている小学6年生、中学3年生の割合は、ともに約94%であり、全国平均とほぼ同じ。



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-5-4 自分には、よいところがあるという意識（三重県・全国）

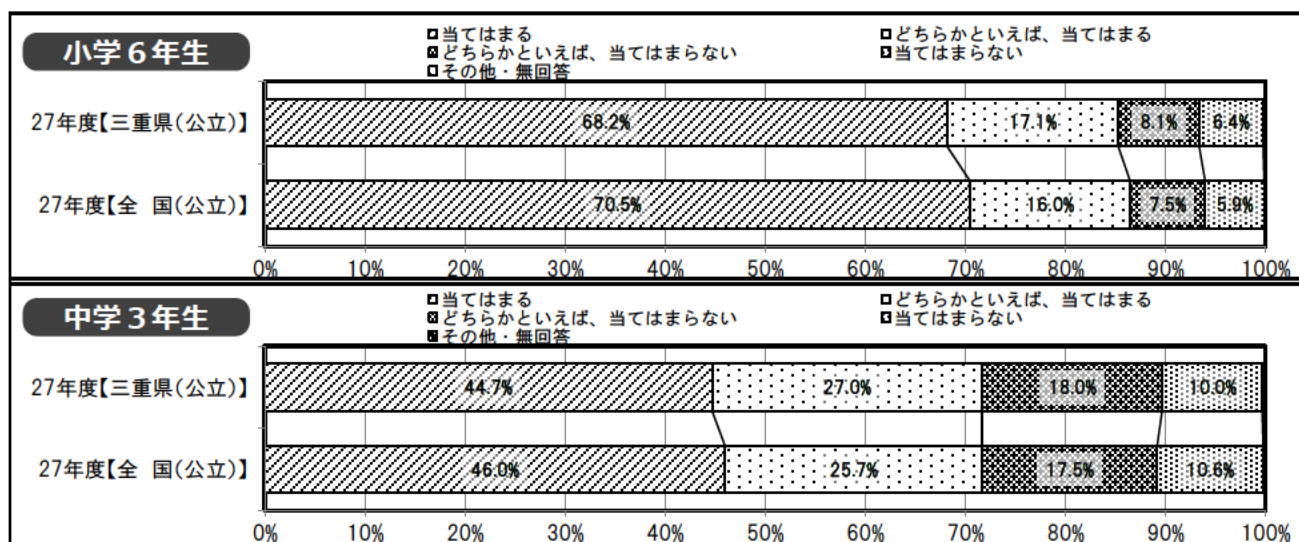
- 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して、「自分にはよいところがある」、「どちらかといえばある」と肯定的な回答をしている小学6年生の割合は約75%で、全国平均とほぼ同じ。一方、中学3年生の割合は約69%で、全国平均より高い。



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-5-5 将来の夢や目標の有無（三重県・全国）

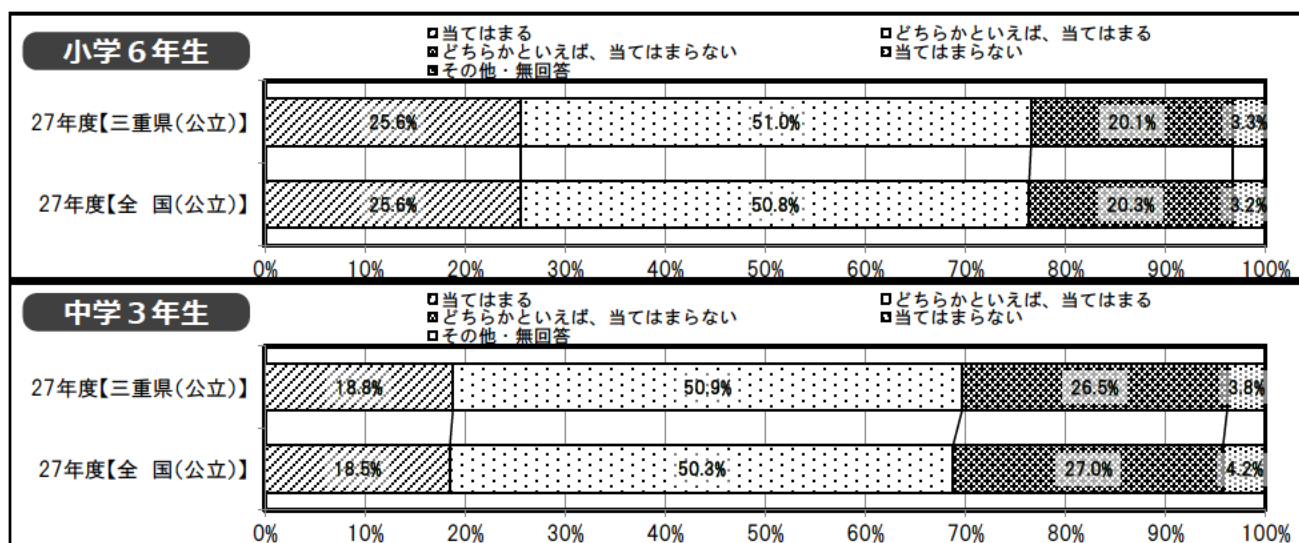
- 「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対し、「将来の夢や目標を持っている」、「どちらかといえば持っている」と肯定的な回答をしている小学6年生の割合は約85%で、全国平均より低い。中学3年生の割合は約72%で、全国平均と同じ。



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-5-6 チャレンジ精神（三重県・全国）

- 「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」という質問に対し、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」、「どちらかといえば挑戦している」と肯定的な回答をしている小学6年生の割合は約77%で、全国平均とほぼ同じ。中学3年生の割合は約70%で、全国平均より高い。

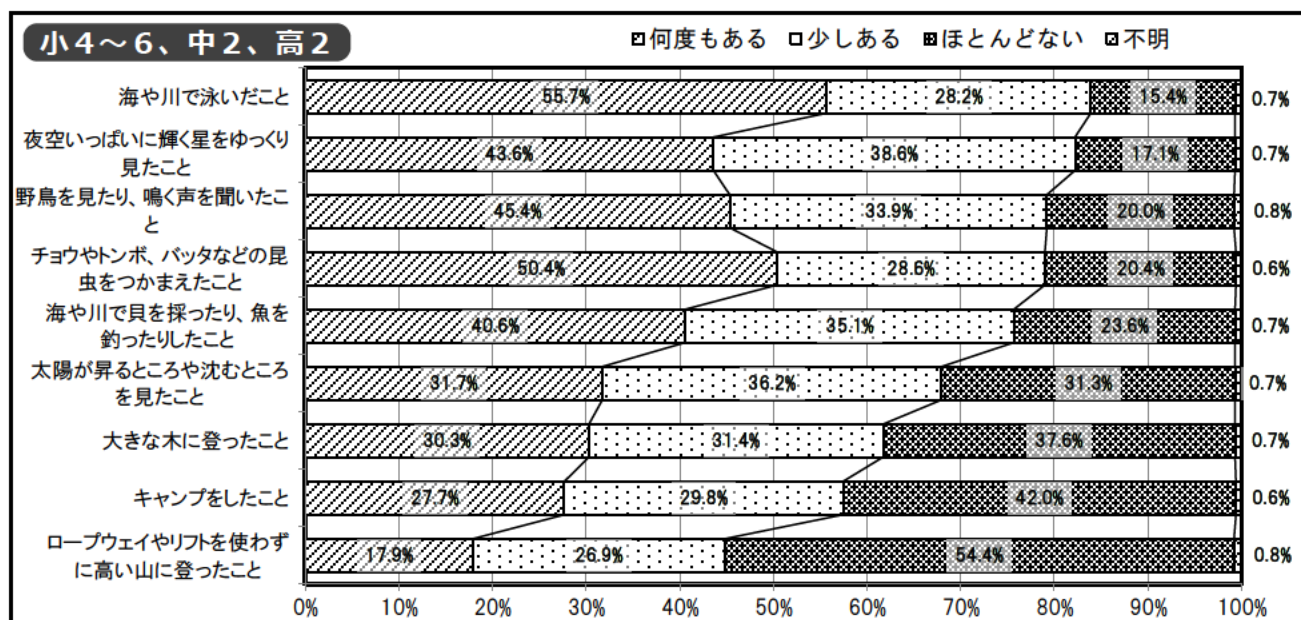


資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-6 体験活動

3-6-1 青少年の自然体験の現状（全国）

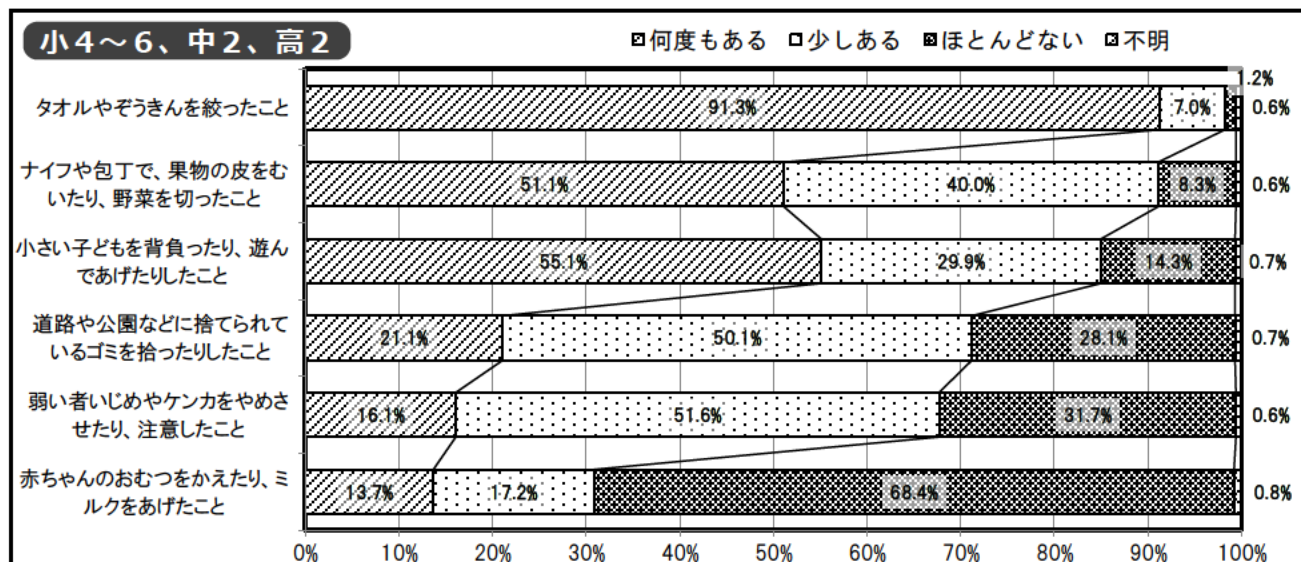
- 青少年の自然体験の状況は、「海や川で泳いだこと」が最も高く、「夜空いっぱい輝く星を見たこと」「野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと」と続く。一方で、「キャンプをしたこと」や「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」の体験は他と比べて低くなっている。



資料：国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査（平成26年度調査）」

3-6-2 青少年の生活体験の現状（全国）

- 青少年の生活体験の状況は、「タオルやぞうきんを絞ったこと」が最も高く、「赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと」の割合が他の項目に比べて低くなっている。



資料：国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査（平成26年度調査）」

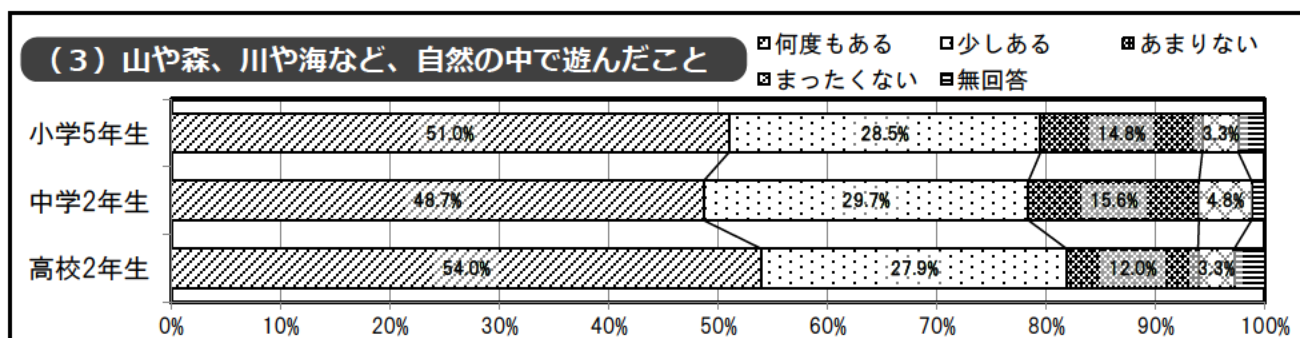
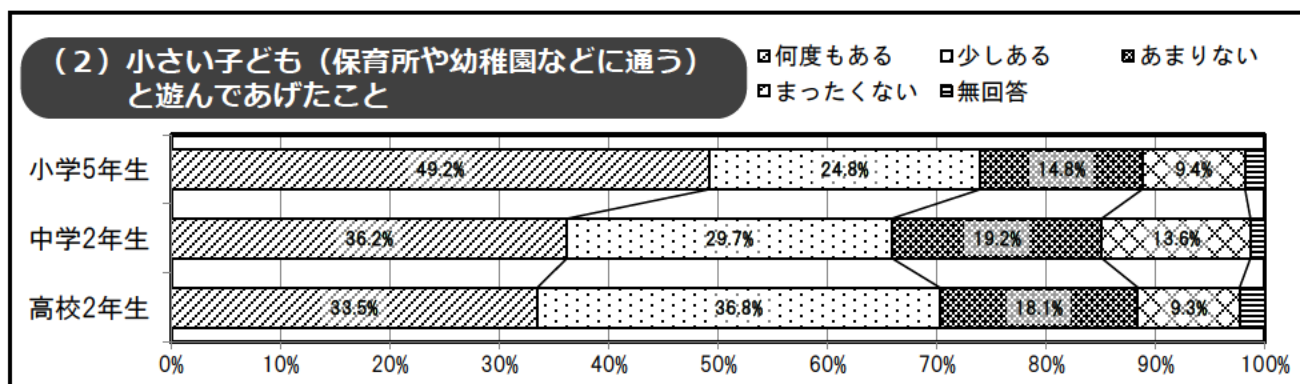
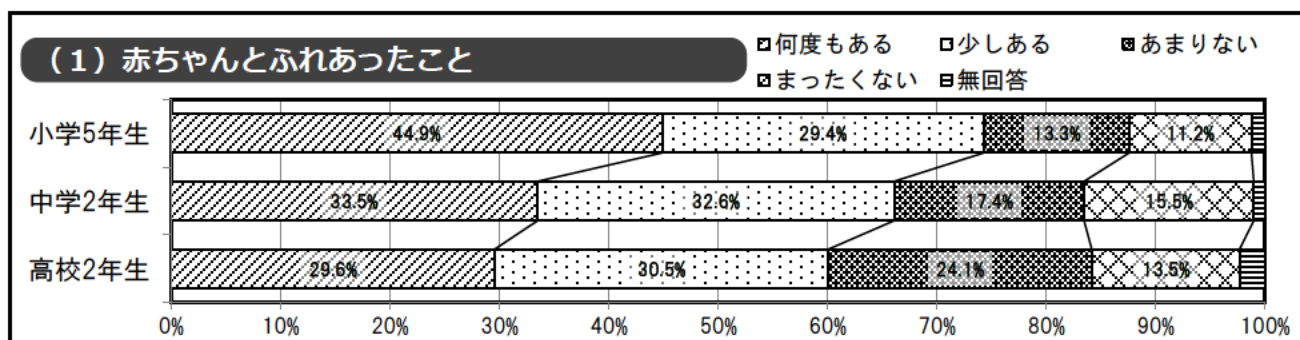
3-6-3 子どもの体験（三重県）

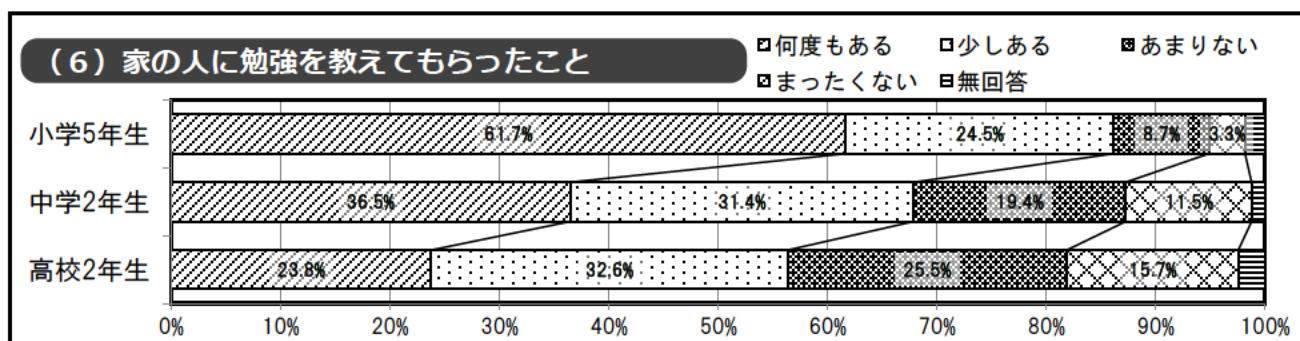
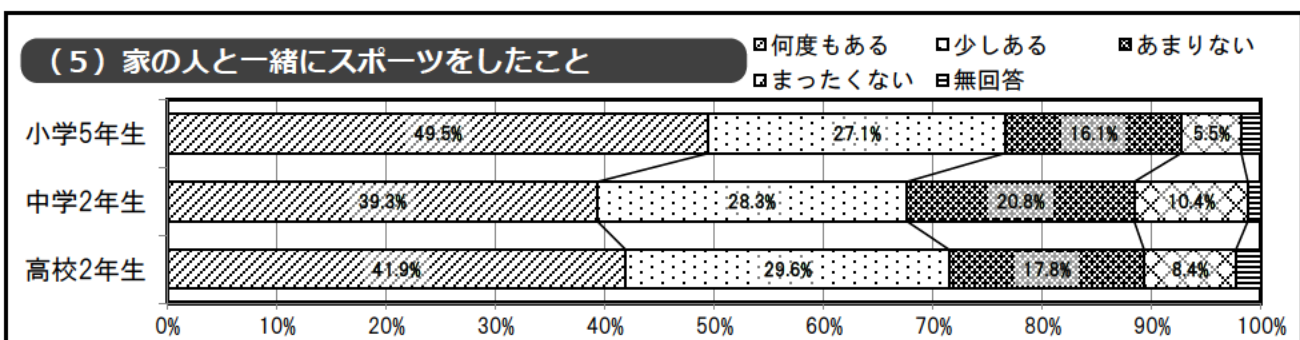
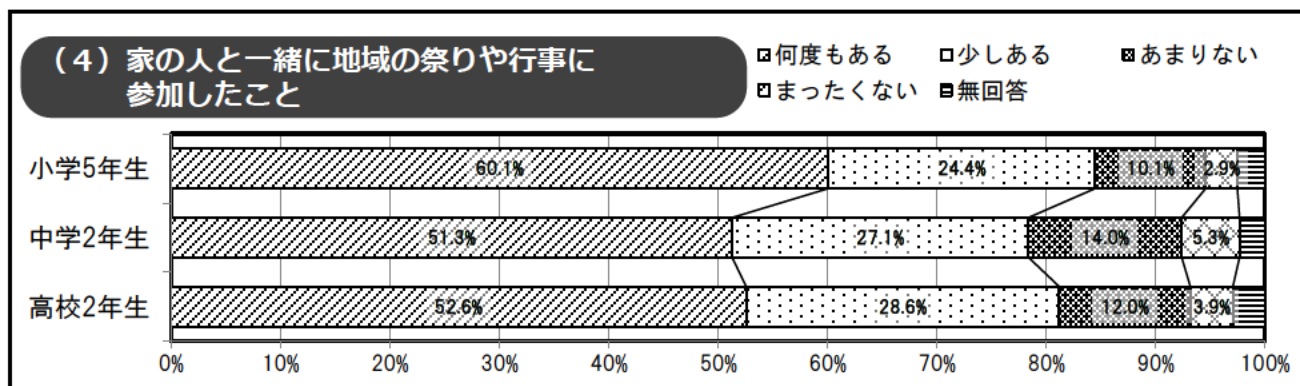
- 赤ちゃんとのふれあいや、小さい子どもと遊んだ経験が「何度もある」または「少しある」子どもは60%以上、自然体験が「何度もある」子どもは約半数。

赤ちゃんとのふれあったことが「何度もある」「少しある」と答えた小学生は74.3%、中学生は66.1%、高校生は60.1%、小さい子どもと遊んであげたことについては、小学生は74.0%、中学生は65.9%、高校生は70.3%となっている。

また、山や森、川や海など、自然の中で遊んだことが「何度もある」と答えた小学生は51.0%、中学生は48.7%、高校生は54.0%となっている。

Q. あなたは、今までに、次のようなことをどのくらいしたことがありますか。

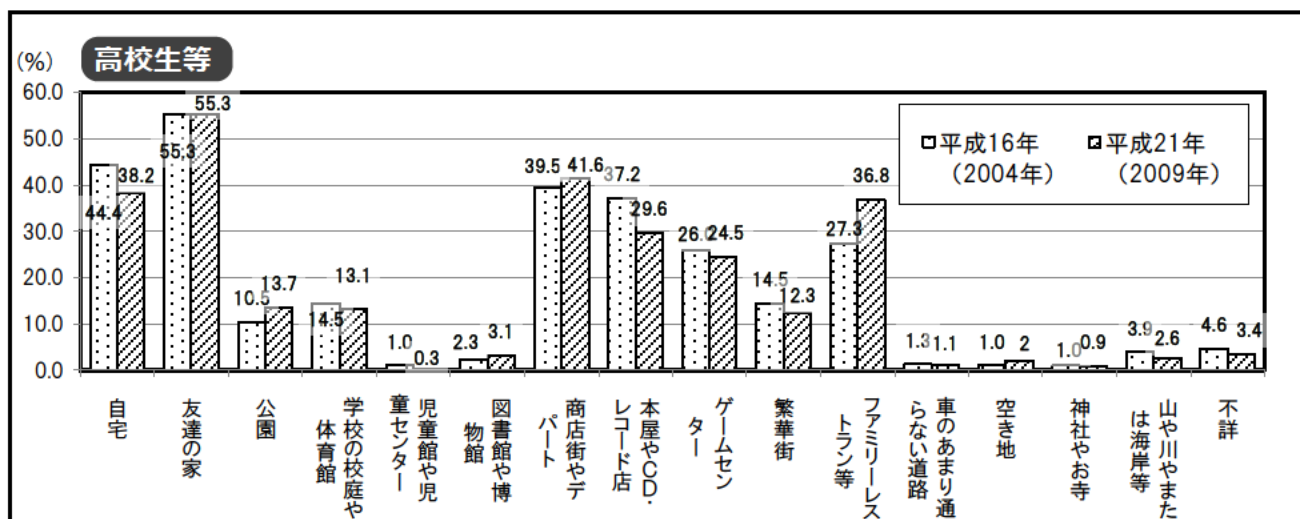
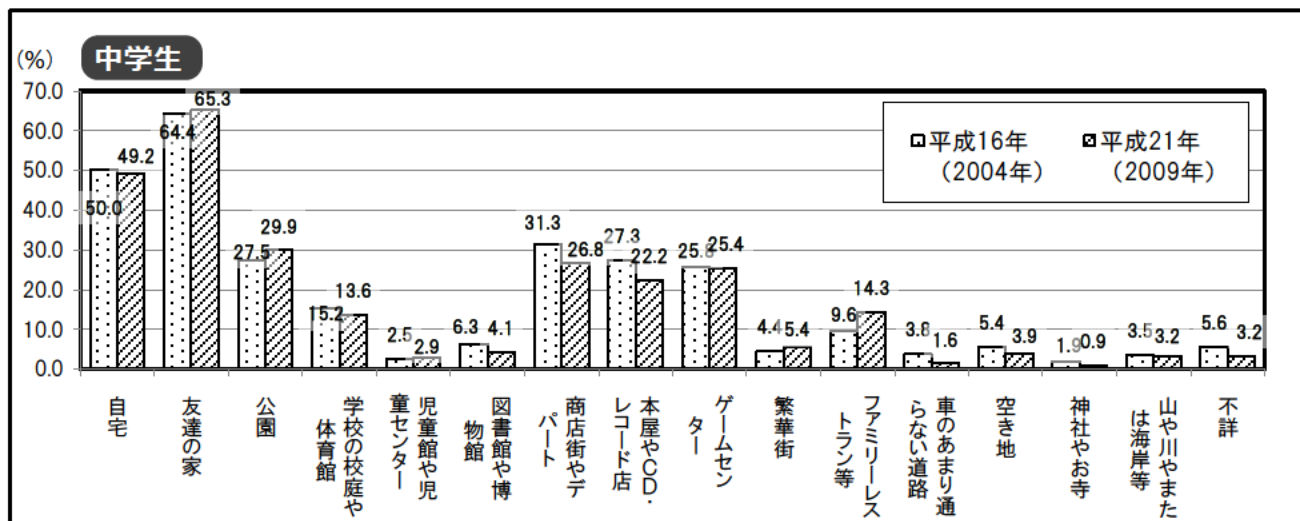
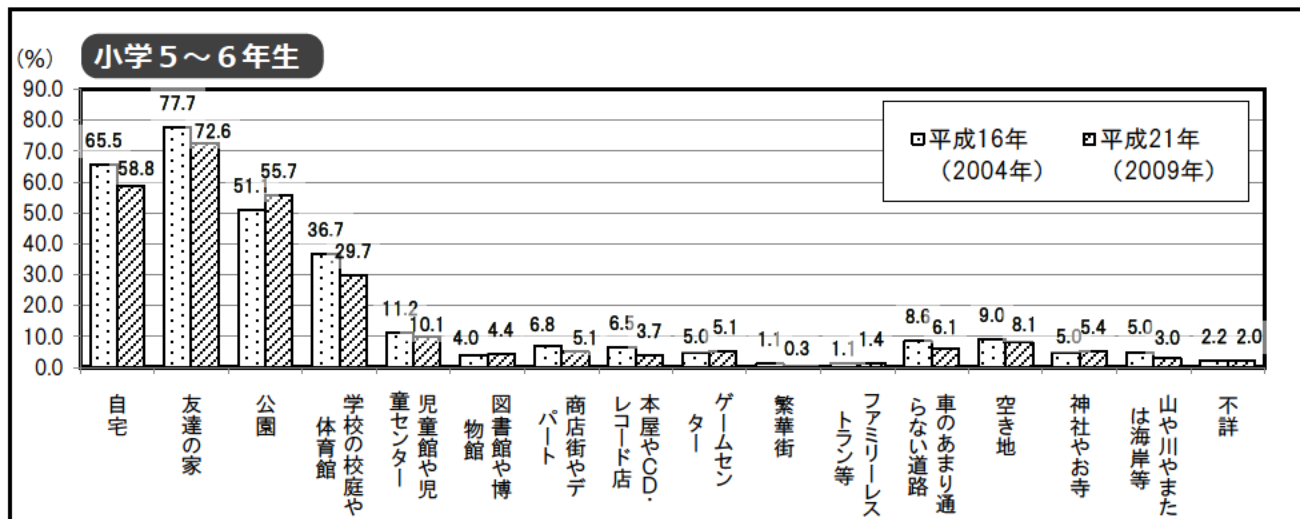




資料：三重県子ども・家庭局「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」(平成27年度)

3-6-4 子どもの普段の遊び場（全国）

- 普段の遊び場は、いずれの層でも友達の家が最も多い。次いで、小学校高学年と中学生では自宅が多く、高校生等では商店街やデパートとなっている。



(出典)厚生労働省「全国家庭児童調査」

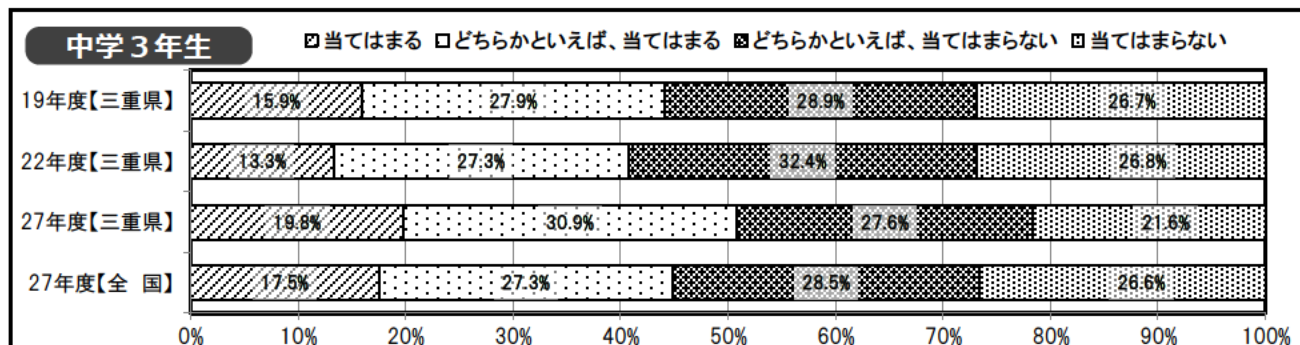
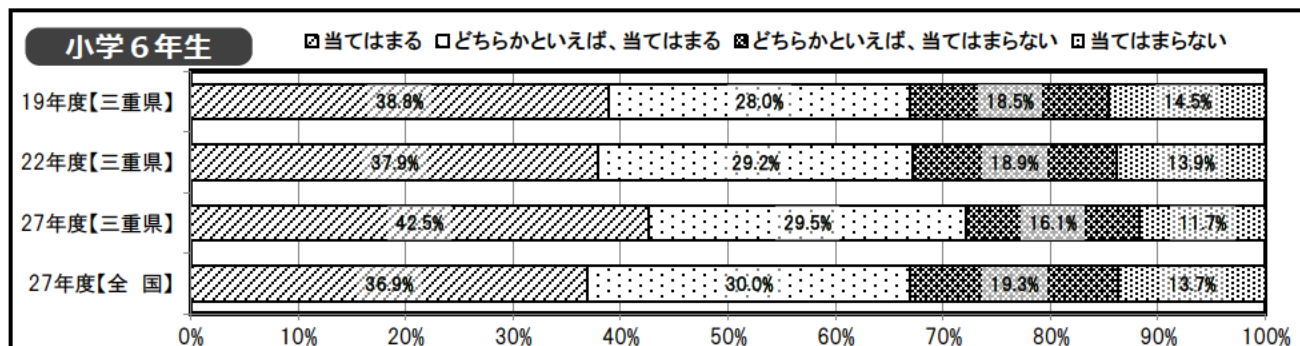
(注) 1. 高校生等とは、高校生と、各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒の合計。
2. 複数回答。

3-7 地域との関わり

3-7-1 地域との関わり（三重県）

- 地域活動に参加する子どもの割合は全国よりも高い。

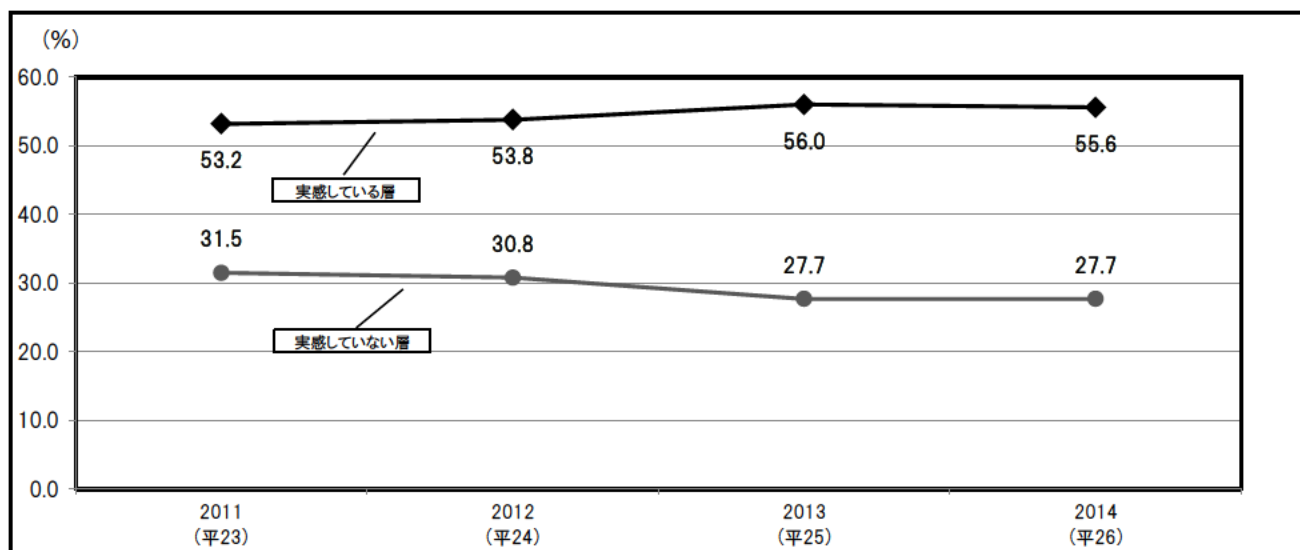
「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対し、「地域の行事に参加している」、「どちらかといえば参加している」と肯定的な回答をしている小学6年生の割合は約72%、中学3年生の割合は約51%で、ともに全国平均より高い。



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

3-7-2 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる割合（三重県）

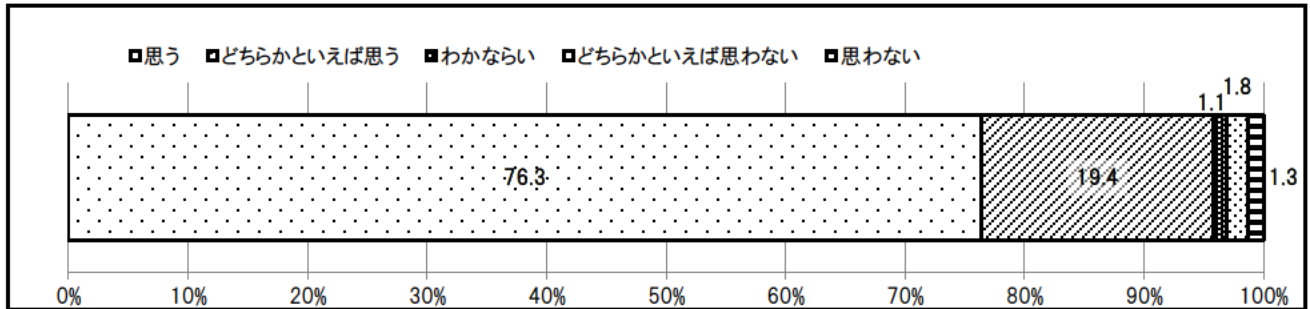
- 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると実感している層が、実感していない層を毎年継続して上回っている。



資料：三重県「みえ県民意識調査」

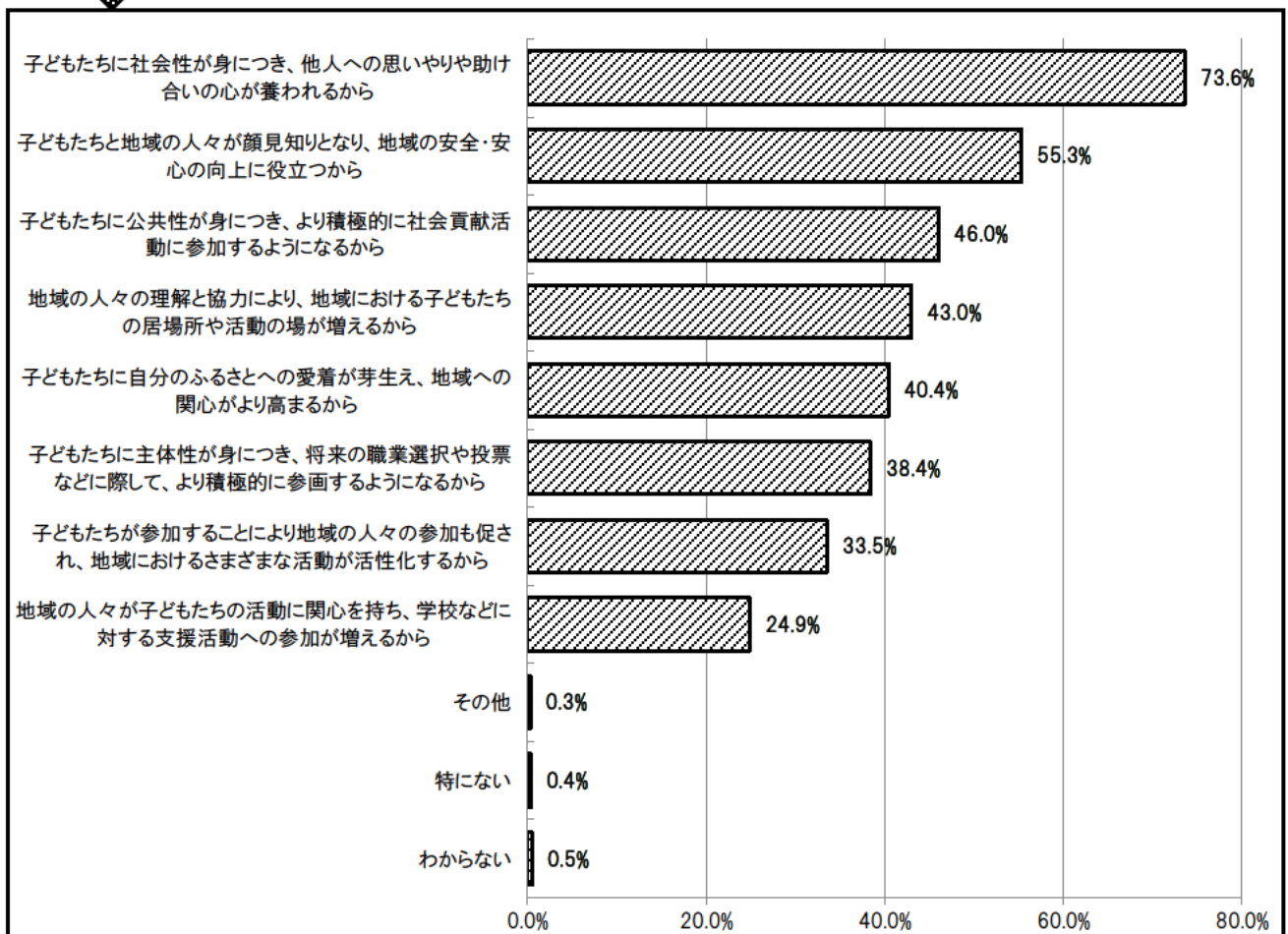
3-7-3 子どもたちが地域の活動に参加することについての意識（全国）

- 20歳以上の男女に子どもたちが地域の活動に参加することについての意義を尋ねたところ、「思う」又は「どちらかといえば思う」と回答した者の割合は95%を超えており、ほとんどの人が意義があると思っている。



子どもたちが地域の活動に参加することが有意義だと「思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した人のそう思う理由

- 「子どもたちに社会性が身につく、他人への思いやりや助け合いの心が養われるから」が73.6%と最も高かった。

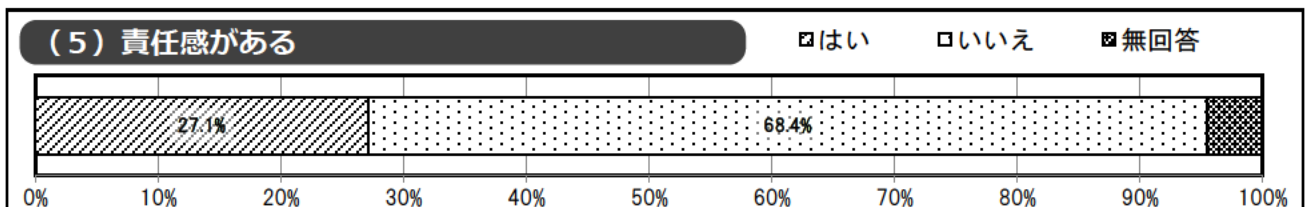
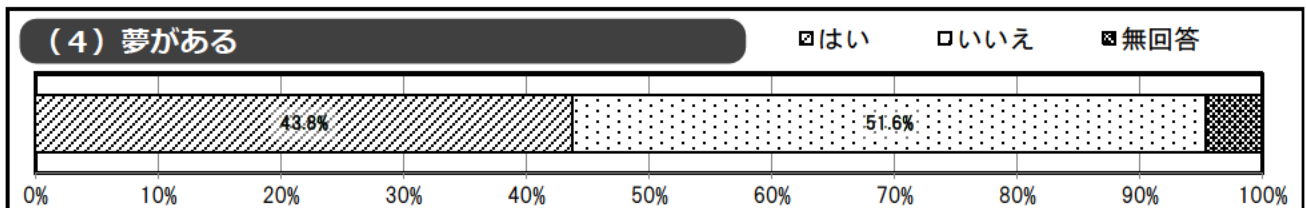
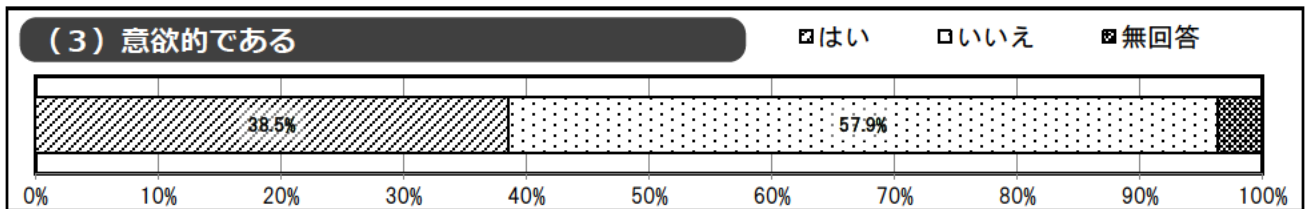
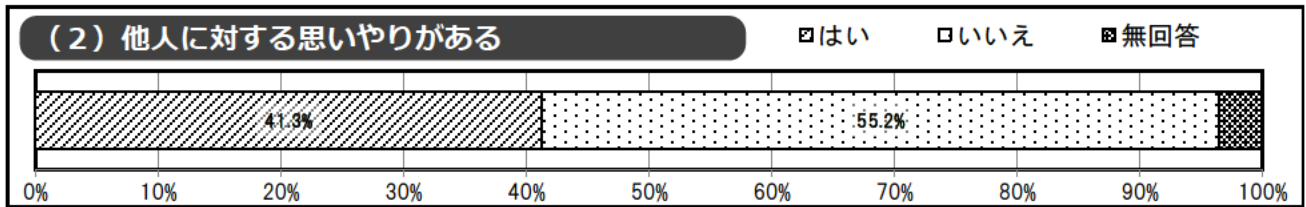
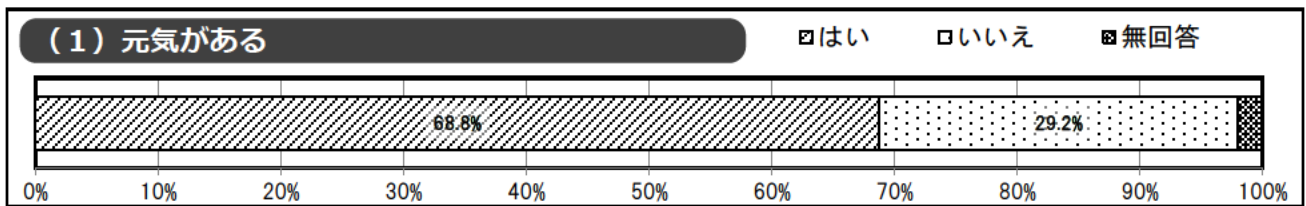


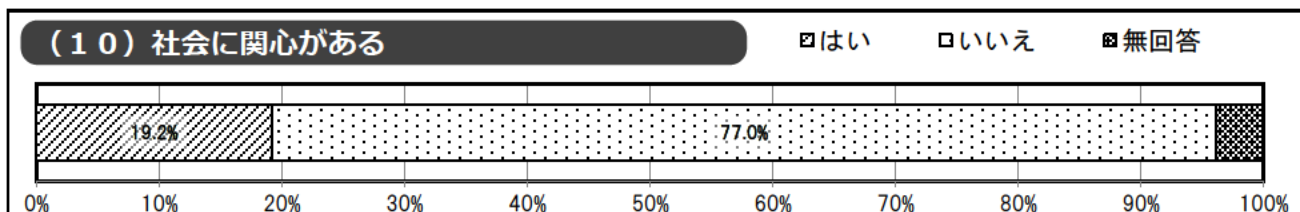
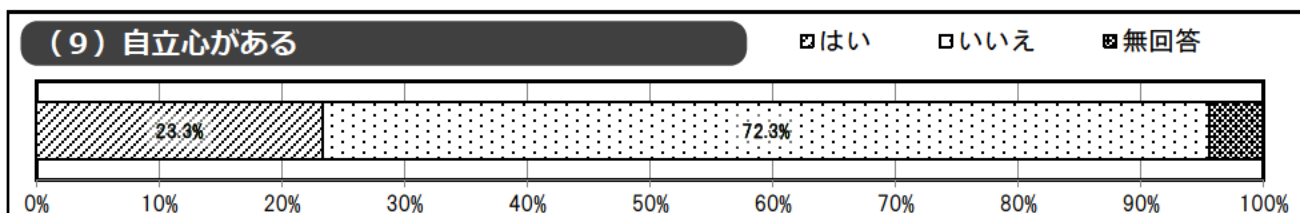
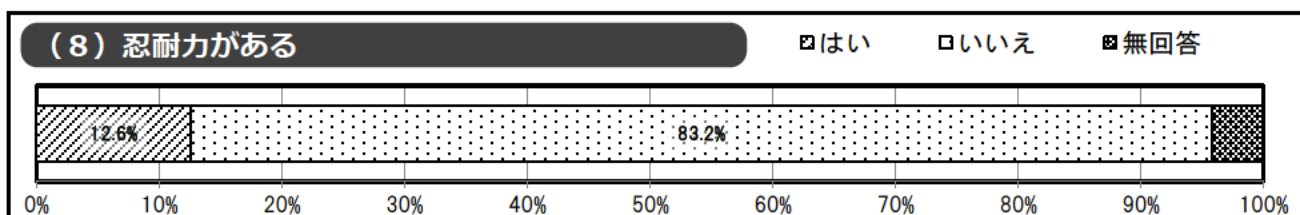
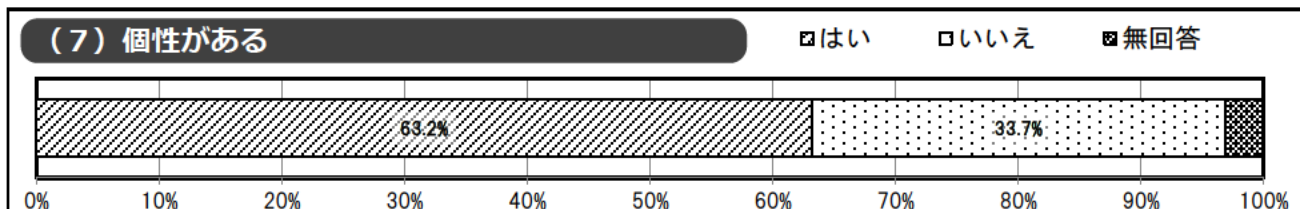
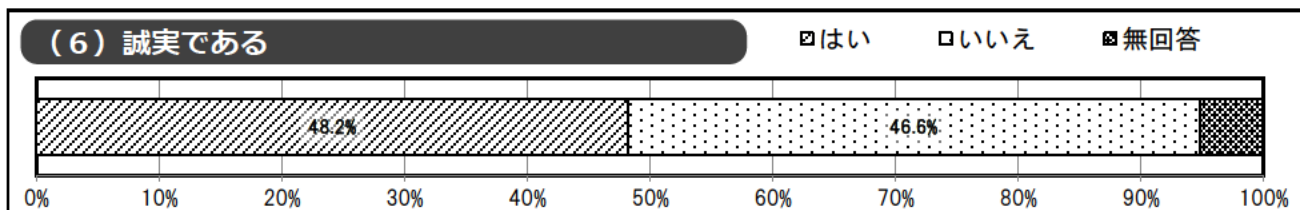
資料：内閣府「教育生涯学習に関する世論調査」（平成27年度）

3-8 今の子どもの特徴

3-8-1 大人が感じる今の子どもの特徴（三重県）

- 「あなたは、一般に、今の子どもたちの特徴をどのように感じますか」という質問に対し、「元気がある」と答えた県民の割合は68.8%、「個性がある」は63.2%、「誠実である」は48.2%で、肯定的な回答が多くなっている。
- 一方、「忍耐力がある」は12.6%、「社会に関心がある」は19.2%、「自立心がある」は23.3%で、否定的な回答が多くなっている。





資料：三重県子ども・家庭局「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」（平成27年度）